愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

－2014年度－

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２０１６

序　文

国立大学法人愛媛大学の敷地は、松山市内および愛媛県内各所に点在し、敷地総面積は 464 ヘクタールに及ぶ。そのうち、大学本部と 4 つの学部が所在する城北団地には文京遺跡・道後樋又遺跡、附属幼稚園・附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校がある持田団地には持田遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味団地には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡など、数多くの遺跡がある。

愛媛大学では、昭和 62 年に埋蔵文化財調査室を設置し、以来校舎建設や営繕工事等の際、埋蔵文化財への影響度をはかるための試掘調査を行い、埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合には、影響度に応じて全面調査、立会調査の発掘調査を実施してきた。また、大学構内における遺跡の有無や精度の高い分布状況を把握する確認調査を実施を実施している。こうした調査の成果の蓄積を踏まえ、諸工事が埋蔵文化財に及ぼす影響を判断して基盤施設部と協議し、埋蔵文化財への影響を最小限にとどめることに努めている。さらに、調査成果は、公開講座の開催や愛媛大学ミュージアムでの展示で学内外に発信するとともに、年度ごとに埋蔵文化財調査室の実施事業をまとめた年報を刊行し、試掘・立会調査の報告とともに、全面調査の概要、さらに全面調査でも出土遺物が少ない場合には正式報告を行っている。

本書は、2014 年度に埋蔵文化財調査室が実施した試掘・立会調査の報告と、文京遺跡 58・59・61 次調査、樽味遺跡 14･15 次調査､持田遺跡 10 次調査の正式報告､文京遺跡 60 次調査の概要報告を併せた『埋蔵文化財調査室年報』である。

最後になりましたが、本書をまとめるにあたっては、学内はもとより学外の多くの機関・個人の方々から協力を得た。その労に深く感謝するとともに、本書が多くの方々に利用・活用されることを願っております。

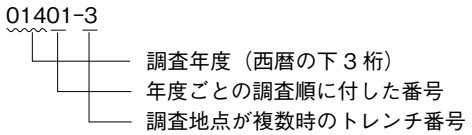
平成 28 年 3 月 1 日

愛媛大学先端研究・学術推進機構
埋蔵文化財調査室長
田　崎　博　之

例　言

1．本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が 2014 年度に実施した事業、特に大学構内で実施した試掘・立会・確認形式で行った小規模調査および本格調査の成果等を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸⅨにあたる。

2．埋蔵文化財調査室では、本格全面調査・構内遺跡確認調査については、遺跡ごとに調査次数を付しているが、同時に、1975 年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って、立会・試掘形式の小規模調査も含めて、すべての調査に調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に年度ごとの調査順に 01 からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点（トレンチ）を調査した場合、－の後に地点番号を付して表示している。



3．本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴建物：SC、溝：SD、土壙：SK、柱穴・小穴：SP、自然流路：SR、その他の遺構：SX の記号で遺構の種別を表している。

4．本書で表示した方位・標高数値は、本格調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系にしたがっている。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示している。

5．小山正忠・竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）『新版標準土色帖』に基づき、土色については土色名（Munsell 記号）、遺物の色調については Munsell 記号を省略し、土色名のみで表示している。

6．本書で使用した遺構図は、柴田昌児・三吉秀充・宮崎直栄・田中いづみ・高木あゆみが作成し浄書を行った。

7．本書で使用した遺物図は、柴田・宮崎が実測・浄書を行った。

8．本書で使用した写真は、柴田・三吉が撮影した。

9．本書は田崎博之・柴田・三吉が執筆した。

10．本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

11．本書は柴田が編集を行った。

本 文 目 次

Ⅰ　埋蔵文化財小委員会と埋蔵文化財調査室の事業 …… 1
　1　埋蔵文化財小委員会 …… 1
　2　2014 年度の埋蔵文化財調査室の事業 …… 1
　　（1）調査と体制 …… 1
　　（2）整理作業 …… 2
　　（3）印刷物の刊行 …… 6
　　（4）広報、資料等の利活用 …… 6

Ⅱ　2014 年度の発掘調査 …… 16
　01401　（城北団地）キャンパス環境整備工事に伴う文京遺跡 58 次発掘調査 …… 16
　01402　（城北団地）キャンパス環境整備工事（センタープラザ石畳範囲ガス工事部分）に伴う立会調査 …… 24
　01403　（樽味団地）附属高校実習室改修工事に伴う試掘調査 …… 26
　01404　（持田団地）附属小学校給食室改修その他工事（附属小学校本館給食室増築部分）に伴う持田遺跡 10 次発掘調査 …… 32
　01405　（城北団地）キャンパス環境整備工事（B ブロック歴史を学ぶ庭、図書館北側広場整備部分）に伴う文京遺跡 59 次調査 …… 57
　01406　（城北団地）生協売店改修工事（城北事務センター 1 生協売店増築部分）に伴う文京遺跡 60 次発掘調査 …… 64
　01407　（樽味団地）附属高校実習室改修工事に伴う樽味遺跡 14 次発掘調査 …… 75
　01408　（城北団地）キャンパス環境整備工事（ルーバーウォール，既設モニュメント移設等追加）に伴う文京遺跡 61 次発掘調査 …… 80
　01409　（樽味団地）附属高校実習室改修工事に伴う樽味遺跡 15 次発掘調査 …… 96
　01410　（樽味団地）農学部鋼管柱立替工事に伴う立会調査 …… 98

Ⅲ　教員の活動実績 …… 99

挿 図 目 次

図 1　城北団地調査地点位置図（縮尺 1/2,000） …… 11・12
図 2　持田団地調査地点位置図（縮尺 1/2,000） …… 14
図 3　樽味団地調査地点位置図（縮尺 1/2,000） …… 15
図 4　01401 調査（文京遺跡 58 次）愛媛県教育委員会の指示による調査範囲 …… 17
図 5　01401 調査（文京遺跡 58 次）平面図（縮尺 1/1,000） …… 18
図 6　01401 調査（文京遺跡 58 次）Ⅰ区土層断面図（縮尺 1/40） …… 19
図 7　01401 調査（文京遺跡 58 次）Ⅱ区断面図（縮尺 1/40） …… 20
図 8　01402 調査土層柱状図（縮尺 1/50） …… 25
図 9　附属高校第 3 棟周辺の調査地点平面図（縮尺 1/500）・土層断面図（縮尺水平方向 1/500、垂直方向 1/50） …… 27・28
図 10　01403 調査平面図（縮尺 1/100）・土層断面図（縮尺 1/50） …… 29
図 11　持田遺跡 10 次（01404 調査）愛媛県教育委員会の指示による調査範囲 …… 33
図 12　持田遺跡 10 次（01404 調査）平面図（縮尺 1/150） …… 34
図 13　持田遺跡 10 次（01404 調査）土層断面図（縮尺 1/50） …… 35・36

図 14　持田遺跡 10 次（01404 調査）Ⅴ層上面地形図（縮尺 1/100）……37
図 15　持田遺跡 10 次（01404 調査）出土遺物（縮尺 1/3）……38
図 16　持田遺跡 10 次（01404 調査）出土石器（縮尺 1/3）……39
図 17　01405 調査（文京遺跡 59 次）愛媛県教育委員会の指示による調査範囲……60
図 18　01405 調査（文京遺跡 59 次）Ⅰ区平面図（縮尺 1/500）・柱状図（縮尺 1/50）……61
図 19　01405 調査（文京遺跡 59 次）Ⅱ区平面図（縮尺 1/500）・土層柱状図（1/50）……62
図 20　01406 調査（文京遺跡 60 次）西壁・南壁土層断面図（縮尺 1/40）・北壁土層断面図とサンプリング位置図（縮尺 1/20）……67・68
図 21　01406 調査（文京遺跡 60 次）Ⅳ-1 層上面遺構平面図（縮尺 1/100）……69
図 22　01406 調査（文京遺跡 60 次）Ⅳ-3 層上面検出遺構配置図とサンプリング地点位置図（縮尺 1/100）……71
図 23　01407 調査（樽味遺跡 14 次）愛媛県教育委員会の指示による調査範囲……75
図 24　01407 調査（樽味遺跡 14 次）・01409 調査（樽味遺跡 15 次）地点位置図（縮尺 1/500）・土層柱状図（縮尺 1/50）……76
図 25　文京遺跡 61 次（01408 調査）愛媛県教育委員会の指示による調査範囲……81
図 26　文京遺跡 61 次（01408 調査）及び 36 次（00804 調査）平面図（縮尺 1/50）……82
図 27　文京遺跡 61 次（01408 調査）土層断面図（縮尺 1/50）……83
図 28　文京遺跡 61 次（01408 調査）出土遺物（縮尺 1/3）……92
図 29　文京遺跡 61 次（01408 調査）出土絵画土器（縮尺 1/1）……93
図 30　文京遺跡 61 次（01408 調査）出土石器（縮尺 1/3）……93
図 31　01410 調査平面図（縮尺 1/500）・土層柱状図（縮尺 1/50）……98

写 真 目 次

写真1　（城北団地）教育学部身障者用駐車場整備工事立会（調査地点全景、南西から）……7
写真2　（城北団地）教育学部身障者用駐車場整備工事立会（土層断面、西から）……7
写真3　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（西端部調査地点全景、南から）……7
写真4　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（西部調査地点全景、南から）……7
写真5　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（東部調査地点 1 全景、南から）……7
写真6　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（ミューズ南東隅部北調査地点全景、東から）……7
写真7　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（ミューズ南東隅部南調査地点全景、東から）……7
写真8　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（東部調査地点2全景、南から）……7
写真9　（城北団地）工学部 1 号館東側身障者駐車場取設工事立会（調査地点全景、南から）‥8
写真10　（城北団地）工学部 1 号館東側身障者駐車場取設工事立会（土層断面､南から）……8
写真11　（城北団地）国際連携施設給水設備等修繕工事立会（調査地点全景、東から）……8
写真12　（城北団地）国際連携施設給水設備等修繕工事立会（土層断面、東から）……8
写真13　（持田団地）附属中学校テニスコート改修工事立会（調査地点全景、南西から）……8
写真14　（持田団地）附属中学校テニスコート改修工事立会（土層断面、西から）……8
写真15　（持田団地）附属中学校テニスコート改修工事立会（調査状況）……8
写真16　（持田団地）附属中学校テニスコート改修工事立会（土層断面、西から）……9
写真17　（城北団地）本部管理棟屋外散水栓取設工事立会（調査地点全景、南から）……9
写真18　（城北団地）本部管理棟屋外散水栓取設工事立会（土層断面1、南から）……9
写真19　（城北団地）本部管理棟屋外散水栓取設工事立会（土層断面2、西から）……9

写真20　（城北団地）本部管理棟屋外散水栓取設工事立会（土層断面3、北西から）……9
写真21　（城北団地）文京町２番フェニックス伐採その他業務工事立会（調査地点全景、北から）…… 9
写真22　（城北団地）樹木移植工事立会（調査地点全景、南西から）……9
写真23　（城北団地）樹木移植工事立会（南端部調査地点全景、南から）……10
写真24　（城北団地）樹木移植工事立会（南部調査地点全景、東から）……10
写真25　（城北団地）樹木移植工事立会（中央部南調査地点全景、北から）……10
写真26　（城北団地）樹木移植工事立会（中央部北調査地点全景、南から）……10
写真27　（城北団地）樹木移植工事立会（北部調査地点全景、北から）……10
写真28　（城北団地）樹木移植工事立会（北端部調査地点全景、北から）……10
写真29　公開講座の様子1……13
写真30　公開講座の様子2……13
写真31　公開講座の様子3……13
写真32　公開講座の様子4……13
写真33　01401調査　Ⅰ区1トレンチ西側断面……21
写真34　01401調査　Ⅰ区2トレンチ西側断面……21
写真35　01401調査　Ⅰ区3トレンチ北側断面……21
写真36　01401調査　Ⅰ区4トレンチ全景(西から)‥21
写真37　01401調査　Ⅰ区4トレンチ西端断面(南から)……21
写真38　01401調査　Ⅰ区4トレンチ中央断面(北から)……21
写真39　01401調査　Ⅰ区5トレンチ南側断面……21
写真40　01401調査　Ⅰ区6トレンチ南側断面……21
写真41　01401調査　Ⅰ区7トレンチ西側断面……22
写真42　01401調査　Ⅰ区8トレンチ西側断面……22
写真43　01401調査　Ⅰ区9トレンチ全景（東から）……22
写真44　01401調査　Ⅰ区9トレンチ北端断面(東から)……22
写真45　01401調査　Ⅰ区9トレンチ中央東断面（北から）……22
写真46　01401調査　Ⅰ区9トレンチ中央西断面（北から ）……22
写真47　01401調査　Ⅰ区9トレンチ西端東断面（西から）……22
写真48　01401調査　Ⅰ区10トレンチ西側断面 ‥‥22
写真49　01401調査　Ⅰ区11トレンチ西側断面 ‥‥23
写真50　01401調査　Ⅱ区1トレンチ（北から）‥‥23
写真51　01401調査　Ⅱ区2トレンチ北側断面……23
写真52　01401調査　Ⅱ区3トレンチ西側断面……23
写真53　01401調査　Ⅱ区4トレンチ西側断面……23
写真54　01401調査　Ⅱ区5トレンチ西側断面……23
写真55　01401調査　Ⅱ区6トレンチ東側断面……23
写真56　01401調査　Ⅱ区7トレンチ西側断面……23
写真57　01401調査　Ⅱ区8トレンチ南端断面(西から)……24
写真58　01401調査　Ⅱ区9トレンチ西側断面……24
写真59　完成したグリーンプラザ（北東から）‥‥24
写真60　完成したグリーンプラザ（東から）……24
写真61　01402調査　ガス工事北端部の状況（南東から）……25
写真62　01402調査　ガス工事の南半部の状況（北から）……25
写真63　01402調査　ガス工事南端部の状況（南西から）……26
写真64　01402調査　ガス工事南端部の状況（北から）……26
写真65　01403調査　１・２トレンチ周辺（東から）……30
写真66　01403調査　１トレンチ（西から）……30
写真67　01403調査　１トレンチ（西から）……31
写真68　01403調査　２トレンチ（西から）……31
写真69　01403調査　２トレンチ南壁土層（北から）……31
写真70　01403調査　３トレンチ（南から）……31
写真71　01403調査　３トレンチ全景（西から）‥‥31
写真72　01403調査　３トレンチ東壁土層（西から）……31
写真73　01403調査　４トレンチ全景（北東から）……31
写真74　01403調査　４トレンチ全景（東から）……31
写真75　01403調査　４トレンチ北端部西壁土層(東から）……32
写真76　01403調査　４トレンチ北端部の状況（南から)……32

写真77　持田遺跡10次調査　調査前全景（南から）
……40
写真78　持田遺跡10次調査　建物基礎内掘削状況1
……40
写真79　持田遺跡10次調査　建物基礎内掘削状況2
……40
写真80　持田遺跡10次調査　建物基礎掘り形断面‥40
写真81　持田遺跡10次調査　Ⅱ層上面検出状況（南から）……40
写真82　持田遺跡10次調査　Ⅱ層上面検出状況（南東から）……41
写真83　持田遺跡10次調査　Ⅱ層上面検出状況（東から）……41
写真84　持田遺跡10次調査　調査区南側土層断面（北西から）……42
写真85　持田遺跡10次調査　調査区南側土層断面（北東から）……42
写真86　持田遺跡10次調査　調査区南側土層断面（北から）……43
写真87　持田遺跡10次調査　調査区南側土層断面（東から）……43
写真88　持田遺跡10次調査　調査区東側土層断面（北西から）……44
写真89　持田遺跡10次調査　調査区東側土層断面（西から）……44
写真90　持田遺跡10次調査　調査区東側土層断面（西から）……45
写真91　持田遺跡10次調査　調査区東側土層断面（南西から）……45
写真92　持田遺跡10次調査　Ⅴ層上面検出状況（南から）……46
写真93　持田遺跡10次調査　Ⅴ層上面検出状況（南東から）……46
写真94　持田遺跡10次調査　Ⅴ層上面検出状況（東から）……47
写真95　持田遺跡10次調査　Ⅴ層上面検出状況（北東から）……47
写真96　持田遺跡10次調査　Ⅴ層上面検出状況（南西から）……48
写真97　持田遺跡10次調査　砂礫層確認トレンチ（東から1)……48
写真98　持田遺跡10次調査　砂礫層確認トレンチ（東から2)……49
写真99　持田遺跡10次調査　砂礫層確認トレンチ南側土層断面（北から）……49
写真100 持田遺跡10次調査　砂礫層確認トレンチ南側土層断面（北西から）……50
写真101 持田遺跡10次調査　砂礫層確認トレンチ南側土層断面（北東から）……50
写真102 持田遺跡10次調査　砂礫層確認トレンチ南側土層断面（東から）……51
写真103 持田遺跡10次調査　砂礫層確認トレンチ全景（北東から)……51
写真104 持田遺跡10次調査　砂礫層確認トレンチ最深部（北東から）……52
写真105 持田遺跡10次調査　調査区南西配管部分確認調査1 ……52
写真106 持田遺跡10次調査　調査区南西配管部分確認調査2 ……53
写真107 持田遺跡10次調査　配管工事立会……53
写真108 持田遺跡10次調査　水道管工事立会……53
写真109 持田遺跡10次調査　グラウンド配管工事立会1 ……53
写真110 持田遺跡10次調査　グラウンド配管工事立会2 ……53
写真111 持田遺跡10次調査　グラウンド電気工事立会……54
写真112 持田遺跡10次調査　水道電気配管工事立会1……54
写真113 持田遺跡10次調査　水道電気配管工事立会2……54
写真114 持田遺跡10次調査　作業風景1……54
写真115 持田遺跡10次調査　作業風景2……54
写真116 持田遺跡10次調査　作業風景3……54
写真117 持田遺跡10次調査　考古学専攻生の見学1……54
写真118 持田遺跡10次調査　考古学専攻生の見学2……54
写真119 持田遺跡10次調査　出土遺物1……56
写真120 持田遺跡10次調査　出土遺物2……57
写真121 01405調査　Ⅰ区1トレンチ土層断面(西から)……60
写真122 01405調査　Ⅰ区1トレンチ全景（北西から）……60
写真123 01405調査　Ⅰ区2トレンチ土層断面(南から)……60

写真124 01405調査　Ⅰ区3トレンチ土層断面（南から）……60
写真125 01405調査　Ⅰ区4トレンチ土層断面(北から)……63
写真126 01405調査　Ⅰ区5トレンチ土層断面(北から)……63
写真127 01405調査　Ⅱ区6トレンチ完掘状況（南西から）……63
写真128 01405調査　Ⅱ区6トレンチ南壁土層断面（北から）……63
写真129 01405調査　Ⅱ区7トレンチ北部完掘状況（南から）……63
写真130 01405調査　Ⅱ区7トレンチ中央部完掘状況(東から)……63
写真131 01405調査　Ⅱ区7トレンチ中央部北壁土層断面（南から）……63
写真132 01405調査　Ⅱ区7トレンチ西部完掘状況（東から）……63
写真133 01405調査　Ⅱ区7トレンチ西端部土層断面(東から)……64
写真134 01405調査　Ⅱ区8トレンチ東部完掘状況（北西から）……64
写真135 01405調査　Ⅱ区8トレンチ中央部南壁土層断面（北から）……64
写真136 01405調査　Ⅱ区8トレンチ西部完掘状況（北から）……64
写真137 01406調査　１区Ⅳ層上面遺構検出状況(南西から）……72
写真138 01406調査　１区北半部Ⅳ層上面検出遺構完掘状況（南西から）……72
写真139 01406調査　SR-1完掘状況（南西から）……73
写真140 01406調査　SR-1西壁土層（北東から）……73
写真141 01406調査　SD-2完掘状況（北東から）……73
写真142 01406調査　１区南部Ⅳ-3層上面検出遺構完掘状況（南から）……73
写真143 01406調査　１区南部Ⅳ-3層上面検出遺構完掘状況（北から）……73
写真144 01406調査　１区北端部Ⅳ-3層検出状況(北から）……73
写真145 01406調査　１区北端部Ⅳ-3層検出状況（南西から）……73
写真146 01406調査　１区北壁土層（南から）……73
写真147 01406調査　１区北壁土層断面（南から）……74
写真148 01406調査　遺構切り取り作業……74
写真149 01406調査　２区完掘状況（西から）……74
写真150 01406調査　３区SR-1完掘状況（西から）……74
写真151 01406調査　４区完掘状況（西から）……74
写真152 01406調査　５区完掘状況（南から）……74
写真153 01406調査　共通教育における臨地講義風景……74
写真154 01406調査　高校生による職場体験学習風景……74
写真155 01407調査　１トレンチ全景（南西から）……77
写真156 01407調査　１トレンチ土層断面（東から）……77
写真157 01407調査　２トレンチ全景（南から）‥77
写真158 01407調査　２トレンチ土層断面（東から）……77
写真159 01407調査　北西部側溝桝部分工事立会地点(北西から)……77
写真160 01407調査　北西部側溝桝部分工事立会土層断面（北から）……77
写真161 01407調査　北西部側溝桝部分工事立会地点(南から)……77
写真162 01407調査　北西部側溝桝部分工事立会土層断面（南から）……77
写真163 01407調査　北西部側溝桝部分工事立会地点(北から)……78
写真164 01407調査　北西部側溝桝部分工事立会土層断面（西から）……78
写真165 01407調査　北西部側溝部分工事立会地点(西から）……78
写真166 01407調査　北西部側溝部分工事立会土層断面（南西から）……78
写真167 01407調査　北西部電灯基礎工事立会地点(西から）……78
写真168 01407調査　北西部電灯基礎工事立会地点(南西から）……78
写真169 01407調査　北西部電灯基礎工事立会地点(南から）……78

写真170 01407調査　北西部電灯基礎工事立会地点(南東から)……78
写真171 01407調査　北部管路工事立会地点（東から）……79
写真172 01407調査　北部管路工事立会地点（東から）……79
写真173 01407調査　北部管路工事立会地点（北から）……79
写真174 01407調査　北部管路工事立会地点（西から）……79
写真175 01407調査　北西部管路工事立会地点(北西から)……79
写真176 01407調査　北西部管路工事立会土層断面(北から)……79
写真177 01407調査　北西部管路工事立会土層断面(西から)……79
写真178 01407調査　北西部管路工事立会土層断面(北東から)……79
写真179 文京遺跡61次調査　調査前全景（南から）……84
写真180 文京遺跡61次調査　表土剥ぎ作業（南から）……84
写真181 文京遺跡61次調査　遺構面検出状況(南から)……84
写真182 文京遺跡61次調査　遺構面検出状況(北から)……84
写真183 文京遺跡61次調査　攪乱完掘状況（南から）……84
写真184 文京遺跡61次調査　攪乱完掘状況（西から）……84
写真185 文京遺跡61次調査　遺構検出状況(南西から)……84
写真186 文京遺跡61次調査　遺構検出状況(北西から)……84
写真187 文京遺跡61次調査　SD-01完掘、SD-02・03検出状況（西から）……85
写真188 文京遺跡61次調査　SD-03北半部完掘、SD-02検出状況（南から）……85
写真189 文京遺跡61次調査　SD-02遺物出土状況（南から）……86
写真190 文京遺跡61次調査　SD-03北遺物出土状況(西から)……86
写真191 文京遺跡61次調査　SX-01遺物検出状況（西から）……87
写真192 文京遺跡61次調査　SD-01完掘状況（西から）……87
写真193 文京遺跡61次調査　SD-02・03完掘状況（西から）……88
写真194 文京遺跡61次調査　SD-02・03・SX-01完掘状況（東から）……88
写真195 文京遺跡61次調査　調査区東側断面1……89
写真196 文京遺跡61次調査　調査区東側断面2……89
写真197 文京遺跡61次調査　調査区西側断面1……90
写真198 文京遺跡61次調査　調査区西側断面2……90
写真199 文京遺跡61次調査　調査区西側断面3……90
写真200 文京遺跡61次調査　調査区西側断面4……90
写真201 文京遺跡61次調査　調査区西側断面5……90
写真202 文京遺跡61次調査　深掘りトレンチ(北から)……90
写真203 文京遺跡61次調査　作業風景……90
写真204 文京遺跡61次調査　作業風景……90
写真205 文京遺跡61次調査　出土遺物1 ……94
写真206 文京遺跡61次調査　出土遺物2 ……95
写真207 01409調査　調査区全景（南東から）……96
写真208 01409調査　１トレンチ土層（西から）……96
写真209 01409調査　２トレンチ土層断面（西から）……97
写真210 01409調査　２トレンチ土層断面（西から）……97
写真211 01409調査　３トレンチ土層断面（東から）……97
写真212 01409調査　３トレンチ土層断面（東から）……97
写真213 01409調査　４トレンチ土層断面（東から）……97
写真214 01409調査　４トレンチ土層断面（東から）……97
写真215 01410調査　１トレンチ周辺（東から）……97
写真216 01410調査　１トレンチ土層断面（北西から）……97

表 目 次

表１　2014年度の埋蔵文化財小委員会 …… 4
表２　埋蔵文化財調査室の体制 …… 4
表３　2014年度発掘調査一覧 …… 4
表４　2014年度調査室・調査室資料利用一覧 …… 4
表５　2014年度の埋蔵文化財調査依頼・照会一覧‥ 5
表６　01404調査（持田遺跡10次）出土遺物観察表 ……58
表７　01408調査（文京遺跡61次）出土遺物観察表 ……95

資 料 目 次

資料１　愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議埋蔵文化財小委員会内規 …… 2
資料２　愛媛大学埋蔵文化財調査室規程 …… 3

Ⅰ　埋蔵文化財小委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1　埋蔵文化財小委員会

埋蔵文化財調査室は、「愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議埋蔵文化財小委員会内規」（資料1）で設置された埋蔵文化財小委員会の下、「愛媛大学埋蔵文化財調査室規程」（資料2）に基づき、発掘調査実施計画の立案およびその実施、出土資料の整理・保管、報告書作成と調査成果の公開・利活用、本学における教育・研究の支援業務を行っている。

2014年度の埋蔵文化財小委員会（以下、小委員会とする）の体制は表1の通りである。2014年度の小委員会は、2014年5月21日に開催された。

小委員会では、議題1. 平成25年度事業報告、議題2. 平成25年度決算、議題3. 平成26年度事業計画、議題4. 平成26年度予算案、議題5. 埋蔵文化財調査室の中期計画、議題6. 山越団地についての松山市教育委員会との協議、議題7. その他について審議された。

議題1に関して、田崎委員から、平成25年度の事業報告があり、審議の結果、異議なく了承され、学術研究会議に報告することとなった。

議題2に関して、田崎委員から、決算資料に基づいて、主に支出面において年報の印刷費と文京遺跡12・14次調査の正式報告に向けた遺物の移動に費用がかかったこと、平成25年度の執行残額は翌年度に繰り越すことについて説明があった。大橋委員長より報告書印刷部数について質問があり、田崎委員から本年度は1000部を印刷し、国内の教育委員会等に650部、学内に50部、残りは海外の研究施設に発送し、今後は800部を目処に印刷する旨の発言があった。審議の結果、異議なく了承された。

議題3に関して、田崎委員より、事業計画案に基づいて、1．発掘調査、2．整理作業、3．調査報告書・年報の刊行、4．利活用に係わる業務について説明があり、種々審議の結果、異議なく了承された。

議題4について、田崎委員より、予算案に基づく詳細な説明があり、審議の結果、異議なく了承された。

議題5に関して、田崎委員より、平成6～9年度に実施した文京遺跡12・14・16次調査にかかる調査報告書の刊行について説明があり、16次調査は昨年度完了しているので、12・14次調査にかかる報告書の原稿入稿までの作業を継続して進めたい旨の提案があり、異議なく了承された。

議題6について、田崎委員より、山越団地について松山市教育委員会から包蔵地の新規設置に係る協議依頼があり、協議を始めたい旨の提案があった。種々審議の結果、学術研究会議に付議し、了承が得られたので、松山市教育委員会に回答することとなった。

議題7に関して、田崎委員より、埋蔵文化財調査室に関わる事務処理について、施設基盤部及び研究支援部で情報を共有すること、埋蔵文化財に関する公文書等の原本の保管については施設基盤部で保管することの二つの要望があり、審議の結果、異議なく了承された。

2　2014年度の埋蔵文化財調査室の事業

(1) 調査と体制

2014年度の埋蔵文化財調査室の体制は表2の通りである。

埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内における掘削を伴う諸工事に際して、埋蔵文化財への影響を周辺における既往の調査などから判断し、それに応じた対応を行っている。2004年度、国立大学法人愛媛大学発足以降、愛媛県教育委員会・松山市教育委員会と協議を重ね、2007年度から、周知の埋蔵文化財包蔵地において、文化財保護法第93条に基づき、規模の大小に関わらず、工事着手の60日前までに、土木工事届を提出している。この土木工事届に対する通知に基づき、発掘調査・工事立会・慎重工事を行っている。また、周知の埋蔵文化財包蔵地とされていない団地でも、遺跡が存在しないというわけではなく、松山市教育委員会から愛媛大学による主体的な工事立会や確認調査

資料１　愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議埋蔵文化財小委員会内規

（趣旨）
第１条　この内規は，愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議規程第７条第１項の規定に基づき，愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議に置く愛媛大学先端研究･学術推進機構学術研究会議埋蔵文化財小委員会（以下「小委員会」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。
（審議事項）
第２条　小委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 愛媛大学先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
(2) 調査室の予算及び決算に関すること。
(3) 愛媛大学の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
(4) 愛媛大学の埋蔵文化財の保護に係る重要事項に関すること。
(5) その他調査室の運営に関すること。
（組織）
第３条　小委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 愛媛大学先端研究・学術推進機構長（以下「機構長」という。）
(2) 調査室長
(3) 調査室の専任教員
(4) 関連学部等の専任教員 若干人
(5) 研究支援部長及び施設基盤部長
(6) その他委員長が必要と認めた者
２　前項第４号の委員は，当該教員の所属する当該学部等の長の推薦に基づき，機構長が委嘱する。
３　第１項第４号の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　小委員会に委員長を置き，機構長をもって充てる。
２　委員長は，小委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
（議事）
第５条　小委員会は，委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
２　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，説明又は意見を聴くことができる。
（事務）
第７条　小委員会に関する事務は，研究支援部研究支援課及び施設基盤部施設企画課において処理する。
（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか，小委員会の運営に関し必要な事項は，小委員会が定める。

附 則　この内規は，平成 26 年 4 月 10 日から施行し，平成 26 年 4 月 1 日から適用する。

の実施が求められている。

2014 年度における埋蔵文化財に対する影響への確認と調査依頼は 38 件であった（表 5）。これに対して、試掘調査や周辺における既往の調査成果から埋蔵文化財への影響を判断し、土木工事届等の所要の手続きを経た上で、7 件について発掘調査を行った（表 3）。なお、埋蔵文化財調査室では、発掘調査の規模に応じて、大規模調査と小規模調査に分類している。大規模調査は 3 件で、団地別では、城北団地で 2 件、持田団地で 1 件である。小規模調査は 4 件で、団地別では、城北団地で 2 件、樽味団地で 2 件である。その他に、工事立会を 12 件実施した。試掘調査は樽味団地で 1 件実施した。

(2) 整理作業

年報ならびに報告書刊行に向けて、文京遺跡 12 次調査、文京遺跡 14 次調査の遺物実測・写真撮影作業、2013 年度に調査を実施した文京遺跡 52・55 ～ 57 次調査、樽味遺跡 12･13 次調査、持田遺跡 8･9 次調査、山越団地確認調査、立会調査で出土した遺物の注記・復元作業・遺物台帳作成作業、実測・写真撮影作業、遺構実測図のデジタルトレース作業・写真の整理作業を行った。また、文京遺跡 45 次調査で採取した土壌の水洗作業、水洗した土壌から微細遺物の選別作業を

資料２　愛媛大学埋蔵文化財調査室規程

（趣旨）
第１条　この規程は，国立大学法人愛媛大学基本規則第３０条第２項の規定に基づき，愛媛大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。
（目的）
第２条　調査室は，国立大学法人愛媛大学（以下「本学」という。）の敷地内の施設整備に伴う埋蔵文化財の調査研究を行うとともに，出土した埋蔵文化財を記録，保存及び活用し，もって本学の教育研究における学術的・社会的責務を果たすことを目的とする。
（業務）
第３条　調査室は，本学の敷地内の施設整備に伴う埋蔵文化財の調査研究に関する次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 実施計画の立案及び実施に関すること。
(2) 遺物の整理及び保管に関すること。
(3) 報告書の作成に関すること。
(4) 出土埋蔵文化財及び調査成果の公開及び利活用に関すること。
(5) 本学の学生及び教員への実践的な教育及び研究の支援に関すること。
(6) その他埋蔵文化財の調査研究に必要な事項
（組織）
第４条　調査室に，次の各号に掲げる職員を置く。
(1) 室長
(2) 専任教員
(3) 兼任教員
(4) その他必要な職員（以下「調査室職員」という。）
（学術研究会議）
第５条　調査室の業務に関する重要な事項は，愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議（以下「学術研究会議」という。）において審議する。
（室長）
第６条　室長候補者は，本学の専任の教授のうちから，学術研究会議が推薦し，学長が選考する。
２　室長の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（専任教員）
第７条　専任教員は，学術研究会議が推薦し，国立大学法人愛媛大学人事委員会の議を経て，学長が選考する。
（兼任教員）
第８条　兼任教員は，本学の専任教員のうちから，室長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し，学長が任命する。
２　兼任教員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，兼任教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（職務）
第９条　室長は，調査室の業務を掌理する。
２　専任教員は，室長の職務を助け，調査室の業務を遂行する。
３　兼任教員は，調査室の専任教員とともに調査室の業務を遂行する。
４　調査室職員は，調査室の業務に従事する。
（専門員）
第10条　調査室に，必要に応じて，埋蔵文化財の調査研究に関し，それぞれの専門分野から特別な知識及び技術について協力及び助言を得るため，専門員を置くことができる。
２　専門員に関し必要な事項は，別に定める。
（事務）
第11条　調査室に関する事務は，施設基盤部施設企画課及び研究支援部研究支援課において処理する。
（雑則）
第12条　この規程に定めるもののほか，調査室に関し必要な事項は，別に定める。

附則
１ この規程は，平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
２ 国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程（平成 16 年規則第 19 号）は，廃止する。
３ 国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項（平成 16 年 4 月 1 日制定）は，廃止する。

表1　2014年度の埋蔵文化財小委員会

先端研究・学術推進機構学術研究会議埋蔵文化財小委員会			
	氏　名	所属・役職	備　考
委員長	大橋　裕一	理事（学術・環境）	第１号委員
委 員	田崎　博之	埋蔵文化財調査室長	第２号委員
委 員	柴田　昌児	埋蔵文化財調査室准教授	第３号委員
委 員	三吉　秀充	埋蔵文化財調査室講師	第３号委員
委 員	川岡　勉	教育学部教授	第４号委員
委 員	村上　恭通	東アジア古代鉄文化研究センター長	第４号委員
委 員	菊川　昭治	研究支援部長	第５号委員
委 員	蔵田　兼義	施設基盤部長	第５号委員

表2　埋蔵文化財調査室の体制

先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室		
	氏　名	所　属
室長	田崎　博之	先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室教授
専任教員	柴田　昌児	先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室准教授
専任教員	三吉　秀充	先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室講師
兼任教員	吉田　広	ミュージアム准教授
技術補助員	高久　武司	研究支援部
教育支援者	宮崎　直栄	研究支援部
教育支援者	田中いづみ	研究支援部
技能補佐員	井手野文江	研究支援部
技能補佐員	高木あゆみ	研究支援部

表3　2014年度発掘調査一覧

調査番号	団地	遺跡	工事名	調査種別	調査担当	調査期間	調査面積	出土遺物
01401	城北	文京58次	（城北団地）キャンパス環境整備工事	本格調査 （小規模調査）	柴田・三吉	2014年5月20日 2015年3月10日	313.9㎡	1
01404	樽味	持田10次	（持田団地）附属小学校給食室改修その他工事 （附属小学校本館給食室増築部分）	本格調査 （大規模調査）	柴田	2014年9月4日 ～10月6日	298.8㎡	4
01405	城北	文京59次	（城北団地）キャンパス環境整備工事 （歴史を学ぶ庭，図書館北側広場整備部分）	本格調査 （小規模調査）	柴田・三吉	2014年8月28日 2015年2月13日	276.4㎡	1
01406	城北	文京60次	（城北団地）生協売店改修工事 （城北事務センター1生協売店増築部分）	本格調査 （大規模調査）	三吉	2014年9月29日、 11月7日	135.0㎡	2
01407	樽味	樽味14次	（樽味団地）附属高校実習室改修工事	本格調査 （小規模調査）	三吉	2014年11月26日	1.5㎡	0
01408	城北	文京61次	（城北団地）キャンパス環境整備工事 （ルーバーウォール，既設モニュメント移設等追加）	本格調査 （大規模調査）	柴田	2014年12月8日 ～12月24日	112.08㎡	4
01409	樽味	樽味15次	（樽味団地）附属高校実習室改修工事総合研究棟 （理学系）等環境整備（植栽等）工事	本格調査 （小規模調査）	三吉	2015年2月6日	6.5㎡	0

表4　2014年度調査室・調査室資料利用一覧

	日時	利　用　者	利　用　資　料	目的	利用内容
1	2014/04/15	愛媛大学法文学部人文学科教員	施設	教育	施設見学
2	2014/05/06	松山市内在住市民	公開講座記録集	研究	記録集希望
3	2014/05/08	愛媛県埋蔵文化財センター職員	所蔵図書	研究	閲覧・複写
4	2014/05/08	松山市内在住市民	刊行報告書	研究	報告書希望
5	2014/05/11	愛知県陶磁美術館学芸員	刊行報告書	研究	報告書希望
6	2014/05/11	立命館大学大学院院生	刊行報告書	研究	報告書希望
7	2014/05/12	大韓民国研究者	文京遺跡出土土器	研究	観察
8	2014/05/19	松前町教育委員会職員	所蔵図書	研究	閲覧・複写
9	2014/05/06	愛媛大学埋蔵文化財調査室教員	文京遺跡出土切り取り土層	研究	熟覧・撮影
10	2014/05/28	愛媛大学埋蔵文化財調査室教員	文京遺跡16次調査A区出土土器画像	教育	熟覧・撮影
11	2014/06/20	静岡大学人文社会学部教員	文京遺跡出土切り取り土層	研究	熟覧・撮影
12	2014/05/20	愛媛大学法文学部人文学科教員	測量用平板一式	教育	借用
13	2014/07/07	大韓民国ウリ文化財研究院、慶南発展研究院職員	文京遺跡出土土器および刊行報告書	研究	熟覧・撮影・ 報告書希望
14	2014/07/18	愛媛大学ミュージアム教員	文京遺跡出土遺物、旧図書館保管遺物	教育	借用
15	2014/08/01	野村美術館学芸員	刊行報告書	研究	報告書希望
16	2014/07/31	愛媛大学ミュージアム教員	文京遺跡出土遺物	教育	借用
17	2014/09/30	広島大学考古学研究室学生	文京遺跡出土遺物、刊行報告書	研究	熟覧・写真撮影 ・報告書希望
18	2014/10/28	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター教員	文京遺跡出土遺物、旧図書館保管遺物	教育	借用
19	2014/10/29	弘前大学人文学部北日本考古学研究センター	文京遺跡12次調査出土炭化米	研究	分析
20	2014/10/29	愛媛大学考古学研究室学生	所蔵図書	研究	借用
21	2014/11/26	奈良文化財研究所、広島県埋蔵文化財調査室職員	文京遺跡出土遺物	研究	熟覧・写真撮影
22	2014/11/30	大阪文化財研究所職員	刊行報告書	研究	報告書希望
23	2014/11/30	奈良県立橿原考古学研究所職員	刊行報告書	研究	報告書希望
24	2014/06/17	鬼北町教育委員会職員	所蔵図書	研究	借用
25	2015/02/16	熊本県立装飾古墳館学芸員	刊行報告書	研究	報告書希望
26	2015/03/25	愛媛大学法文学部人文学科教員	測量用平板一式	教育	借用

表５　2014 年度の埋蔵文化財調査依頼・照会一覧

依頼			対応					
日付	発	工事名	意見書・回答文書		土木工事届	調査		
1月27日	施設基盤部長	（城北団地）教育学部身障者用駐車場整備工事	2月14日	周辺の既往調査から、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30㎝以上であると判断。	1月31日	工事立会	5月14日	写真1・2
3月16日	施設基盤部長	（城北団地）キャンパス環境整備工事	4月9日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	5月7日	本格調査（文京遺跡58次調査）	2014年5月20日～2015年3月10日	本文16頁
4月11日	施設基盤部長	（城北団地）城北団地ミューズ南側樹木移植工事	4月14日	樹木の移植に伴う工事であり、周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	－	工事立会	4月17日～４月18日	写真3～8
5月14日	施設基盤部長	（城北団地）キャンパス環境整備工事（Bブロック歴史を学ぶ庭、図書館北側広場整備部分）	5月30日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30㎝未満であると判断。	8月11日	本格調査（文京遺跡59次調査）	2014年8月23日～2015年2月13日	本文32頁
5月20日	施設基盤部長	（城北団地）工学部１号館東側身障者駐車場取設工事	5月26日	周辺の既往調査から、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30㎝以上であると判断。	5月28日	工事立会	7月2日	写真9・10
6月11日	施設基盤部長	（城北団地）生協売店改修工事（城北事務センター１生協売店増築部分）	6月13日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	6月17日	本格調査（文京遺跡60次調査）	9月29日～11月7日	本文64頁
6月12日	施設基盤部長	（持田団地）附属小学校給食室改修その他工事(附属小学校本館給食室増築部分)	6月23日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	6月25日	本格調査（持田遺跡10次調査）	9月4日～10月6日	本文32頁
6月12日	施設基盤部長	（持田団地）附属小学校給食室改修その他工事（附属特別支援学校校舎給食室改修部分）	6月23日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削によって埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	－	工事立会	2014年9月4日～2015年1月22日	－
6月30日	施設基盤部長	（城北団地）キャンパス環境整備工事（センタープラザ石畳範囲ガス工事部分）	7月4日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削によって埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	－	工事立会	7月7日～7月8日	－
7月23日	施設基盤部長	（樽味団地）附属高校実習室改修工事	8月19日	周辺に調査事例が少ないことから試掘調査を実施し､試掘調査の報告を行う。	－	試掘調査（01403調査）	8月19日	本文26頁
7月23日	施設基盤部長	（樽味団地）附属高校実習室改修工事	8月22日	試掘調査から、工事地点の一部で、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30㎝未満であると判断。	8月27日	本格調査（樽味遺跡14次調査）	11月26日	本文75頁
7月28日	施設基盤部長	（城北団地）国際連携施設給水設備等修繕工事	8月7日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30㎝未満であると判断。	9月11日	工事立会	11月12日	写真11・12
8月22日	施設基盤部長	（持田団地）附属幼稚園園舎107空調設備電源取設工事	8月26日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
9月4日	施設基盤部長	（持田団地）本館10排水管修繕工事	9月5日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
9月9日	農学部長	（樽味団地）農学部鋼管柱立替工事	9月10日	平成25年6月17日付けの愛媛県教育委員会による工事立会の指示範囲に該当する。埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	9月9日	工事立会	9月25日	本文98頁
9月17日	施設基盤部長	（城北団地）教育学部本館南防火水槽給水管修繕工事	10月29日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
10月6日	施設基盤部長	（城北団地）キャンパス環境整備工事	10月7日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
10月8日	施設基盤部長	（城北団地）生協売店改修工事（工事に伴う仮設電力引込柱）	10月14日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
10月10日	施設基盤部長	（山越団地）野球ネット修繕工事	10月20日	造成土であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
10月20日	施設基盤部長	（山越団地）屋外散水配管修繕工事	10月20日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
10月20日	施設基盤部長	（持田団地）附属中学校テニスコート改修工事	10月22日	周知の埋蔵文化財包蔵地の展開から、工事地点の一部で、工事による掘削によって埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	－	工事立会	10月30日	写真13～16
10月21日	施設基盤部長	（城北団地）キャンパス環境整備工事（ルーバーウォール、既設モニュメント移設等追加）	10月27日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	6月17日	本格調査（文京遺跡61次調査）	12月8日～12月24日	本文80頁
10月27日	施設基盤部長	（樋又団地）本部管理棟屋外散水栓取設工事	10月29日	周辺の既往調査から、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30㎝以上であると判断。	10月30日	工事立会	12月12日	写真17～20
10月27日	施設基盤部長	（樋又団地）本部管理棟屋外散水栓取設工事	10月28日	既往の調査成果から埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
12月2日	施設基盤部長	（城北団地）総合研究棟（工学系）改修工事	12月4日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	12月9日	慎重工事		本文21頁
12月15日	施設基盤部長	（樽味団地）附属高校実習室改修工事	12月16日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	12月17日	本格調査（樽味遺跡15次調査）	2月6日	本文96頁
12月19日	施設基盤部長	（樽味団地）附属高校実習室改修電気設備工事（設計変更に伴う外灯工事）	12月24日	平成平成26年9月2日付けでの愛媛県教育委員会による工事立会の指示範囲に該当する。埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	－	工事立会	－	－

依　頼			対　応					
日　付	発	工　事　名	意　見　書・回　答　文　書		土木工事届	調　査		
1月7日	農学部長	（樽味団地）農学部守衛室等絶縁不良改修工事	1月8日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1月7日	農学部長	（樽味団地）農学部水道管補修工事	1月8日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1月16日	施設基盤部長	（城北団地）交友会館ラウンジ改修機械設備工事	1月20日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1月19日	施設基盤部長	（山越団地）厩舎111等電気設備修繕工事	1月22日	造成土であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1月19日	施設基盤部長	（山越団地）野球場ベンチ取設工事	1月22日	造成土であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1月28日	施設基盤部長	（山越団地）ラグビーコート修繕工事	1月30日	造成土であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
2月23日	施設基盤部長	（城北団地）キャンパス環境整備工事（法文講義棟北側雨水排水管修繕部分）	2月24日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
2月27日	施設基盤部長	（城北団地）文京町２番フェニックス伐採その他業務	3月4日	樹木の伐採に伴う工事であり、周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	－	工事立会	3月18日	写真21
3月2日	施設基盤部長	（城北団地）教育学部技術科実習棟東側うさぎ小屋基礎取設工事	3月5日	周辺の既往調査から、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm以上であると判断。	3月11日	工事立会	年度内に工事実施せず	－
3月5日	農学部長	（樽味団地）農学部圃場排水路工事	3月6日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
3月14日	施設基盤部長	（城北団地）樹木移植工事	3月17日	樹木の移植に伴う工事であり、周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	－	工事立会	3月24日	写真22 ～ 28

行い、文京 12・14 次調査及び 16 次調査Ｂ区出土遺物の同定を（株）古環境研究所に委託して行った。加えて、発掘調査記録のデジタル化を進めた。

(3) 印刷物の刊行

2013 年度の実施事業と、実施した全面調査の正式報告・概要報告と小規模調査・立会調査などの報告をまとめた『埋蔵文化財調査室年報―2013 年度―』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸⅧ）を刊行した。同年報では、文京遺跡 52・55 次調査、樽味 12・13 次調査、持田遺跡８次調査、山越遺跡５次調査の正式報告を行っている。

年報の刊行後、全国の大学・研究機関、文化庁、教育委員会・埋蔵文化財センター、博物館・資料館等へ発送した。

(4) 広報、資料等の利活用

埋蔵文化財調査室では、これまで実施してきた構内遺跡出土の遺物や調査に関するデータなどを保管している。これらの調査室保管資料に関して、学内外から資料の公開や利用の要望が寄せられてきた。これらの要望に対して、資料の一部については愛媛大学ミュージアムにおいて常設展示し、広報パンフレットの配布や Web を利用した情報発信、公開講座の企画・実施などを通じて積極的に広報活動を進めている。

①埋蔵文化財調査室保管資料の活用状況

2013 年度、埋蔵文化財調査室保管資料等の利用申請件数は 26 件であった（表 4）。内訳は学内 9 件、学外 17 件である。この他に法文学部地域文化実験演習における学部学生、法文学研究科埋蔵文化財論課題研究における大学院教育における教材としても利用されている。また、愛媛大学国際連携促進事業：平成 25 年度「中国史学の領域を基盤とする相互交流型インターンシップ」の一環で復旦大学教員・学生の教育の場としても利用されている。そこでは室内整理作業の見学、微細遺物の水洗選別作業や土壌分析の方法などを紹介した。調査中の文京遺跡 61 次調査の見学は、参加した教員・学生一同の興味を引いた。日中間における考古資料の調査・整理方法の違いを理解する上で役立ったと考える。

②広報パンフレットの配布

広報パンフレット『発掘愛媛大学』を作成し、年度当初には、新入学生ならびに新規採用職員を対象として約 2,400 部を配布するとともに、希望者には随時配布している。

③公開講座の開催

平成 26 年度愛媛大学公開講座『文京遺跡から学ぶ（10）―文京遺跡をめぐる海と里の考古学― 』を以下の日程で開催した（写真 29 ～ 32）。

写真１　（城北団地）教育学部身障者用駐車場整備工事立会（調査地点全景、南西から）

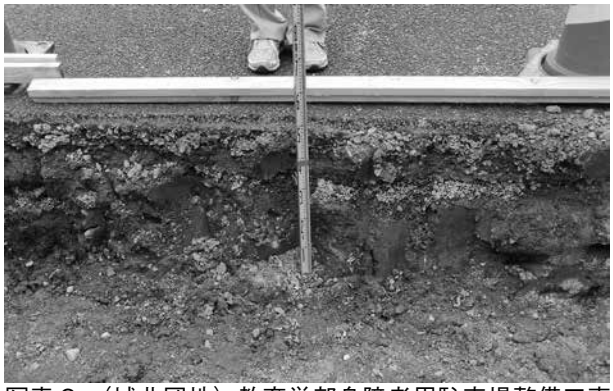


写真２　（城北団地）教育学部身障者用駐車場整備工事立会（土層断面、西から）

写真３　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（西端部調査地点全景、南から）

写真４　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（西部調査地点全景、南から）

写真５　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（東部調査地点１全景、南から）

写真６　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（ミューズ南東隅部北調査地点全景、東から）

写真７　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（ミューズ南東隅部南調査地点全景、東から）

写真８　（城北団地）ミューズ南側樹木移植工事立会（東部調査地点２全景、南から）

写真９　（城北団地）工学部１号館東側身障者駐車場取設工事立会（調査地点全景、南から）

写真 10　（城北団地）工学部１号館東側身障者駐車場取設工事立会（土層断面、南から）

写真 11　（城北団地）国際連携施設給水設備等修繕工事立会（調査地点全景、東から）

写真 12　（城北団地）国際連携施設給水設備等修繕工事立会（土層断面、東から）

写真 13　（持田団地）附属中学校テニスコート改修工事立会（調査地点全景、南西から）

写真 15　（持田団地）附属中学校テニスコート改修工事立会（調査状況）

写真 14　（持田団地）附属中学校テニスコート改修工事立会（土層断面、西から）

写真 16　（持田団地）附属中学校テニスコート改修工事立会（土層断面、西から）

写真 17　（城北団地）本部管理棟屋外散水栓取設工事立会（調査地点全景、南から）

写真 18　（城北団地）本部管理棟屋外散水栓取設工事立会（土層断面 1、南から）

写真 19　（城北団地）本部管理棟屋外散水栓取設工事立会（土層断面 2、西から）

写真 20　（城北団地）本部管理棟屋外散水栓取設工事立会（土層断面 3、北西から）

写真 21　（城北団地）文京町２番フェニックス伐採その他業務工事立会（調査地点全景、北から）

写真 22　（城北団地）樹木移植工事立会（調査地点全景、南西から）

写真 23　（城北団地）樹木移植工事立会（南端部調査地点全景、南から）

写真 24　（城北団地）樹木移植工事立会（南部調査地点全景、東から）

写真 25　（城北団地）樹木移植工事立会（中央部南調査地点全景、北から）

写真 26　（城北団地）樹木移植工事立会（中央部北調査地点全景、南から）

写真 27　（城北団地）樹木移植工事立会（北部調査地点全景、北から）

写真 28　（城北団地）樹木移植工事立会（北端部調査地点全景、北から）

図1　城北団地調査地点位置図（縮尺1/2,000）

写真 29　公開講座の様子 1

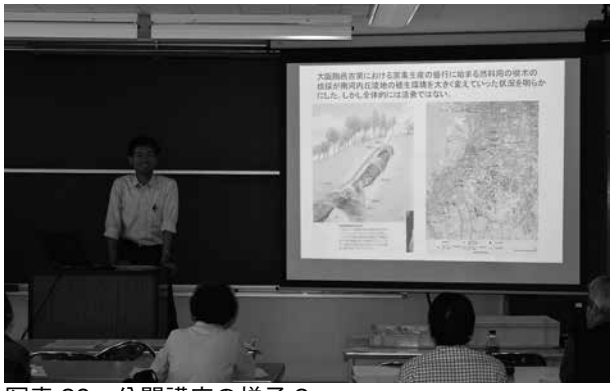


写真 30　公開講座の様子 2

写真 31　公開講座の様子 3

写真 32　公開講座の様子 4

第 1 回　10 月 11 日（土）田崎博之
「文京遺跡をめぐる地形環境の変化と人々の生活」
第 2 回　10 月 18 日（土）柴田昌児
「文京遺跡と瀬戸内海の人間活動」
第 3 回　10 月 25 日（土）三吉秀充
「文京遺跡周辺の植生変化と人間活動」
第 4 回　11 月 1 日（土）
槙林啓介（愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター）
「文京遺跡の時代における海辺の塩業」
第 5 回　11 月 8 日（土）田崎・柴田・槙林・三吉
「討論」

文京遺跡の出土資料を通じて、地勢環境と瀬戸内海に視座から、海辺の地形環境と塩生産、古代木造船と海上活動、文京遺跡の植生変化、そして地形環境の変化と人々の生活の関わり方をとおして、海と里で繰り広げられた人間活動の歴史と文化について講義を行った。

④ Web を利用した広報活動

埋蔵文化財調査室では、2004 年度にホームページを開設し、発掘調査や情報発信を行っている。2014 年度には、公開講座情報などを随時更新した。
（愛媛大学埋蔵文化財調査室ホームページアドレス http://maibun.adm.ehime-u.ac.jp/ を参照）

⑤愛媛大学ミュージアム展示品関連事業

2009 年 11 月に開館した愛媛大学ミュージアム「人間の営み」ゾーンにおいて、文京遺跡を中心とした構内遺跡出土資料の常設展示を行っており、2014 年度も継続して展示活動を行っている。　（柴田）

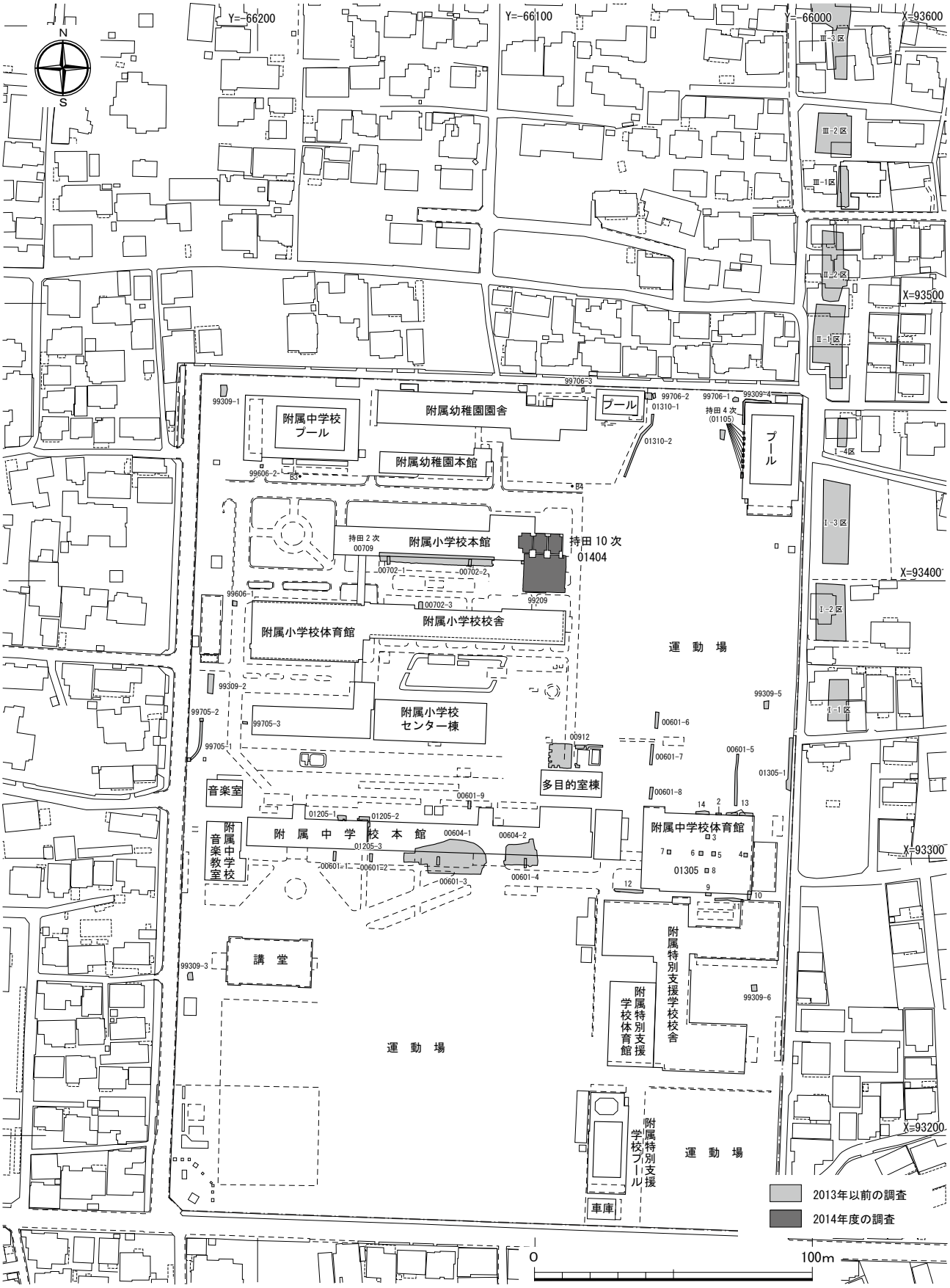


図2　持田団地調査地点位置図（縮尺1/2,000）

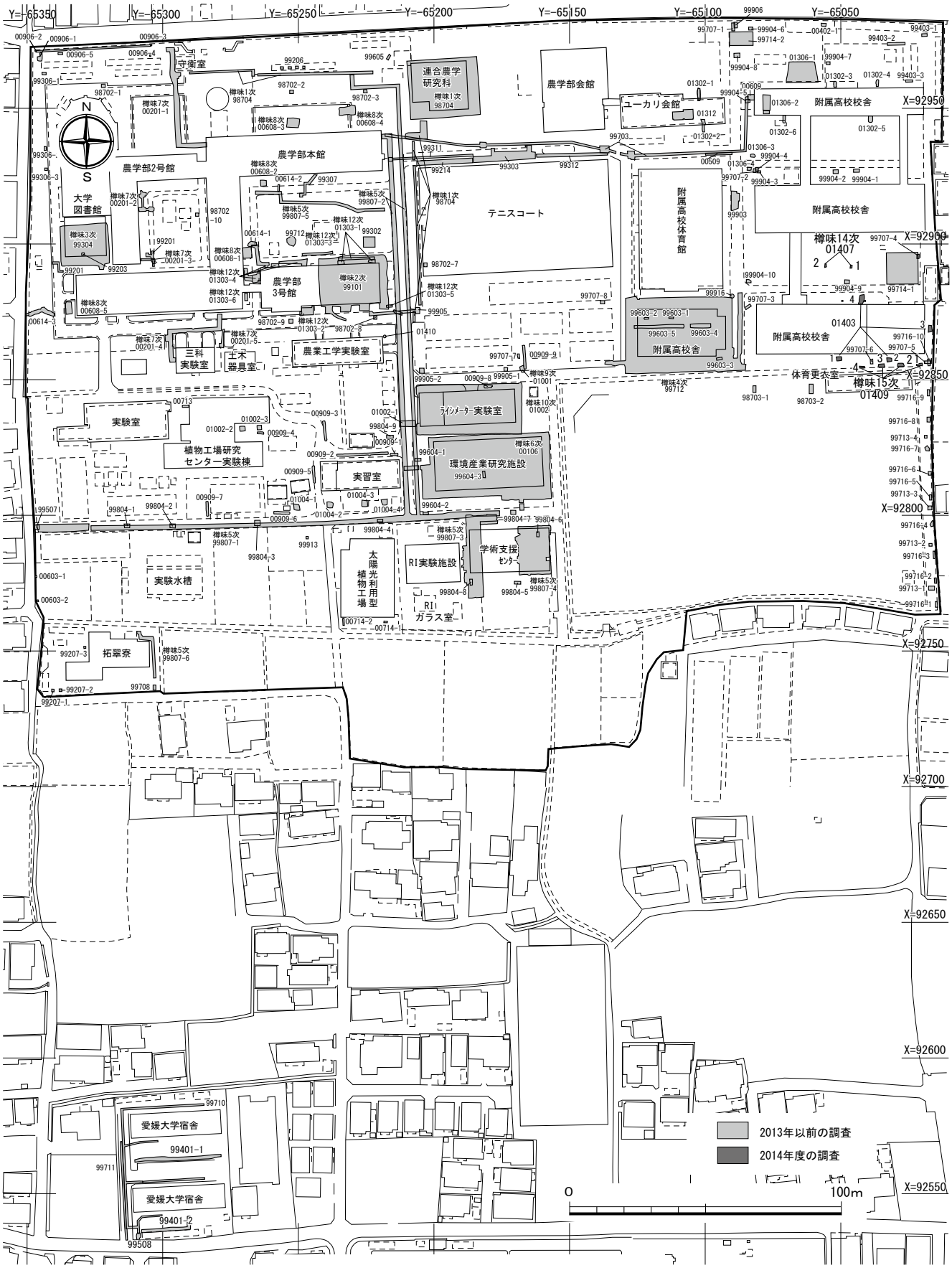


図3　樽味団地調査地点位置図（縮尺1/2,000）

Ⅱ　2014 年度の発掘調査

01401 （城北団地）キャンパス環境整備工事に伴う文京遺跡 58 次発掘調査

調査地点　松山市文京町 3 番　城北団地内
調査面積　313.9㎡
調査期間　2014 年 5 月 20 日～ 2015 年 3 月 10 日
調査種別　本格調査
調査担当　柴田昌児・三吉秀充
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
（平成 26〈2014〉年 3 月 16 日付）

1. 調査に至る経緯

2014 年 3 月、施設基盤部から文京遺跡の保存地区であるグリーンゾーンをグリーンプラザとし、大学正門からグリーンプラザに至る範囲をグリーンプロムナードとして環境整備する計画が報告された。保存地区であるグリーンプラザにおける遺跡破壊を防ぐため、工事影響範囲や工法などを調整し、すべての工事において遺跡破壊がないことを確認した。これを踏まえて、3 月 16 日付で、意見書を作成、5 月 7 日付で土木工事等届出書を提出した。これに対して、5 月 7 日付で愛媛県教育委員会から「発掘調査を必要とする範囲」「工事立会が必要となる範囲」「慎重に工事をする必要がある範囲」の指示があった（図 4)。「発掘調査を必要とする範囲」との指示があった該当工事地点については､5 月 14 日付で発掘調査届出書の提出を行い、5 月 15 日付で発掘調査に係る届出を受理したとの通知があった。これを受けて、工事の実施時期に対応しながら 5 月 20 日～ 2015 年 3 月 10 日にかけて断続的に調査を行った。

調査区はグリーンプロムナードをⅠ区、グリーンプラザをⅡ区として、発掘調査と工事立会を行った（図 4)。

本報告は発掘調査の正式報告である。

2. 調査の記録

(1) 基本層序

既往の調査成果で設定している基本層序に準じ、流路内埋土など調査地点で検出された遺構埋土はアラビア数字を付して分層している。Ⅱ区の断面のみ、グラウンド造成土層をⅠ層より分離して分層している。以下、基本層序の特徴である。

Ⅰ層は表土層である。

Ⅱ層は、造成以前の灰白色系の近世～近代の水田層である。下位には鉄・マンガンが沈着する床土層がみられる。

Ⅲ層は、弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する黒色～暗褐色系の堆積層である。

Ⅳ層は、黄褐色系のシルト～砂質土層である。縄文時代の遺構・遺物を包含することがある。

Ⅴ層は、Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫あるいは礫層である。

(2) Ⅰ区（図 5・6、写真 33 ～ 49）

グリーンプロムナード部分であるⅠ区は、掘削深度の深い集水桝や街路灯、排水管、アクアカフェ基礎部分が発掘調査の対象となった。調査対象となった範囲にトレンチ番号を付し、1 ～ 11 トレンチを設定した。

集水桝である 1 トレンチと 2 トレンチは隣接し、Ⅰ・Ⅱ層の層厚は北側で 30cm、南側で 50cm を測る。その下位では 70cm 以上のラミナ堆積が認められる流路堆積層 1 ～ 6 層が検出され、近世遺物細片がごく少量出土している。南側に位置する 2 トレンチの南端では地表下 75cm、標高 28.20m でⅤ層を確認しているものの、2 トレンチ北側と 3 トレンチでは 3・4・6 層の底面は確認できていない。検出された 1 ～ 6 層は近世以降の流路は、肩部が未検出のため全体規模は不明であるが、検出幅は 5.5m 以上であることから大型の流路である（写真 33・34)。

街路灯部分に当たる 3 トレンチは､地表下 70cm で、1･2 トレンチで確認した流路の 3･4 層があらわれた。遺物は出土していない（写真 35)。

排水管路に当たる 4 トレンチの工事掘削深度は浅く、50cm 未満である。西端断面・中央断面・東端断面とも掘削底面がⅡ層中に収まっている。遺物は出土していない（写真 36 ～ 38)。

街路灯の基礎部分に当たる 5・6 トレンチは、既存のコンクリートに接しており、掘削底面までⅠ層が続く。5 トレンチでは標高 27.40m でⅤ層上面を部分

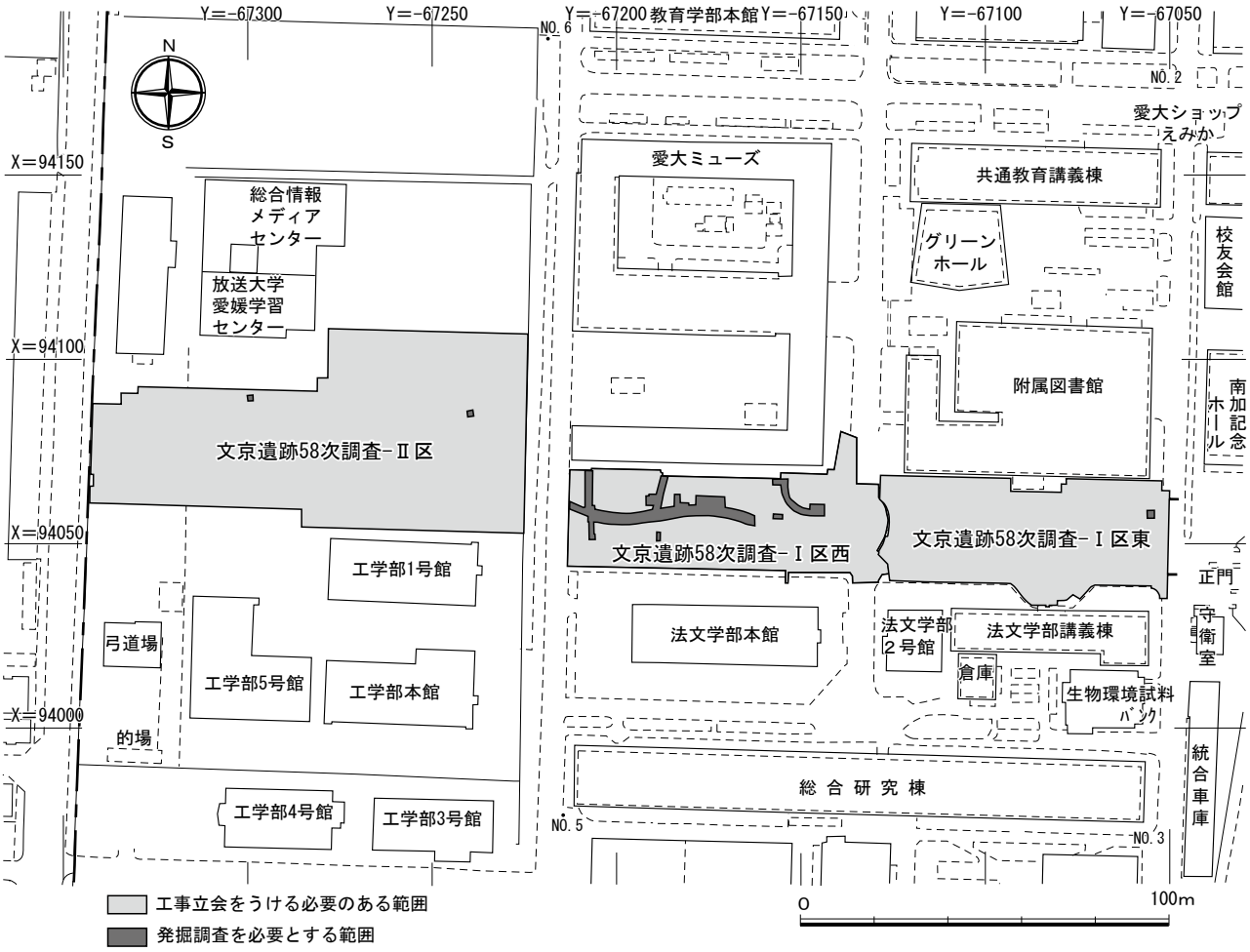


図4　01401調査（文京遺跡58次）愛媛県教育委員会の指示による調査範囲

的に確認できた。遺物は出土していない（写真 39・40）。

排水管取排水口部分である 7・8 トレンチは、工事による掘削深度が地表下約 80cm である。7 トレンチではⅠ・Ⅱ層の下位、地表下 55cm でⅤ層を検出した。遺物は出土していない。8 トレンチでは地表下 42cm でⅤ層を検出、そのⅤ層を肩に近世以降の土器細片を含む 1・2 層が出土している。1・2 層はラミナ堆積が認められることから、流路の一部と考える（写真 41・42）。

9 トレンチはアクアカフェ基礎部分に当たる。北端断面ではⅠ・Ⅱ層の下位、地表下 62cm、標高 27.90m でⅣ層を検出した。また、近世以降の土器細片と弥生土器細片を含む 1・2 層が出土している。1・2 層はラミナが認められることから、流路の一部と考える。中央東断面・中央西断面・西端西断面はいずれも 60cm 前後の工事掘削深度で掘削底面がⅡ層中に収まっている。遺物は出土していない。西端東断面は掘削深度 76cm を測り、標高 27.82m でⅣ層を検出した。遺物は出土していない（写真 43 ～ 47）。

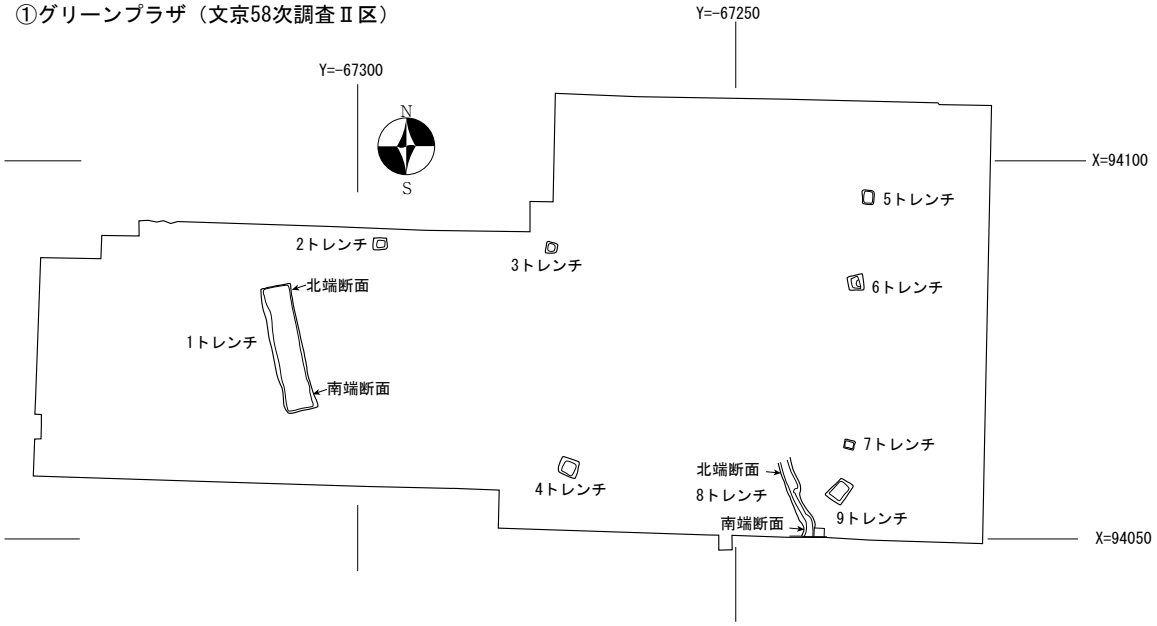
街路灯に当たる 10 トレンチはⅠ・Ⅱ層の下位、地表下 50cm、標高 27.95m でⅣ層を検出した。そのⅣ層を肩にした近世以降の土器細片と弥生土器細片を含む 1・2 層が出土している。1・2 層はラミナが認められることから、流路の一部と考える。（写真 48）。

グリーンプロムナード東端の集水桝に当たる 11 トレンチは、掘削深度の 96cm、標高 28.28m まで掘り下げたが、Ⅱ層中に収まっている。遺物は出土していない（写真 49）。

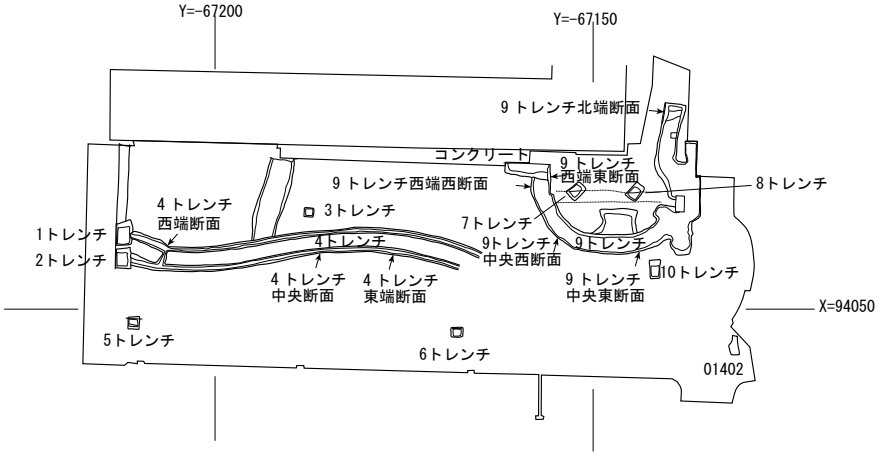
（3）Ⅱ区（図 5・7、写真 50 ～ 60）

グリーンプラザ部分であるⅡ区では、遺跡破壊を防ぐため、工事影響範囲を綿密に打ち合わせ、工法などを調整し、すべての工事において遺跡破壊がないことを確認した。掘削深度が深い工事箇所は、既掘部分に

①グリーンプラザ（文京58次調査Ⅱ区）



②グリーンプロムナード（文京58次調査Ⅰ区西側）



③グリーンプロムナード（文京58次調査Ⅰ区東側）

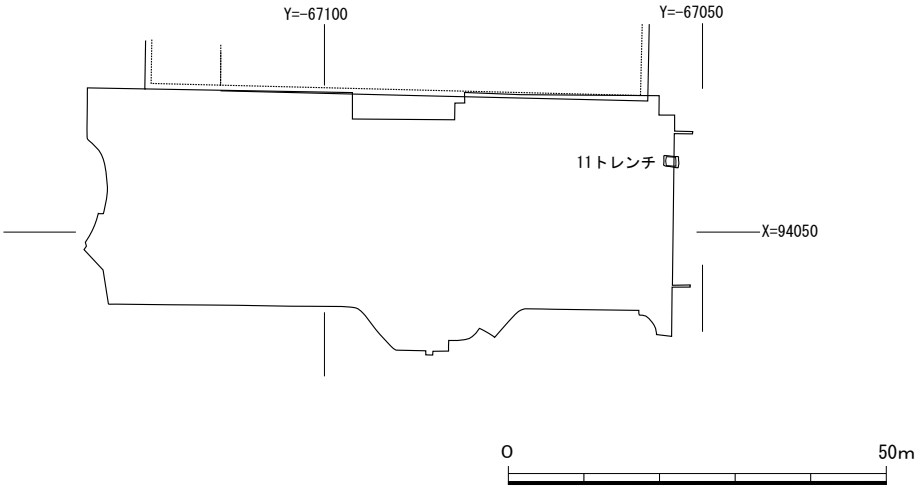


図５　01401 調査（文京遺跡 58 次）平面図（縮尺 1/1,000）

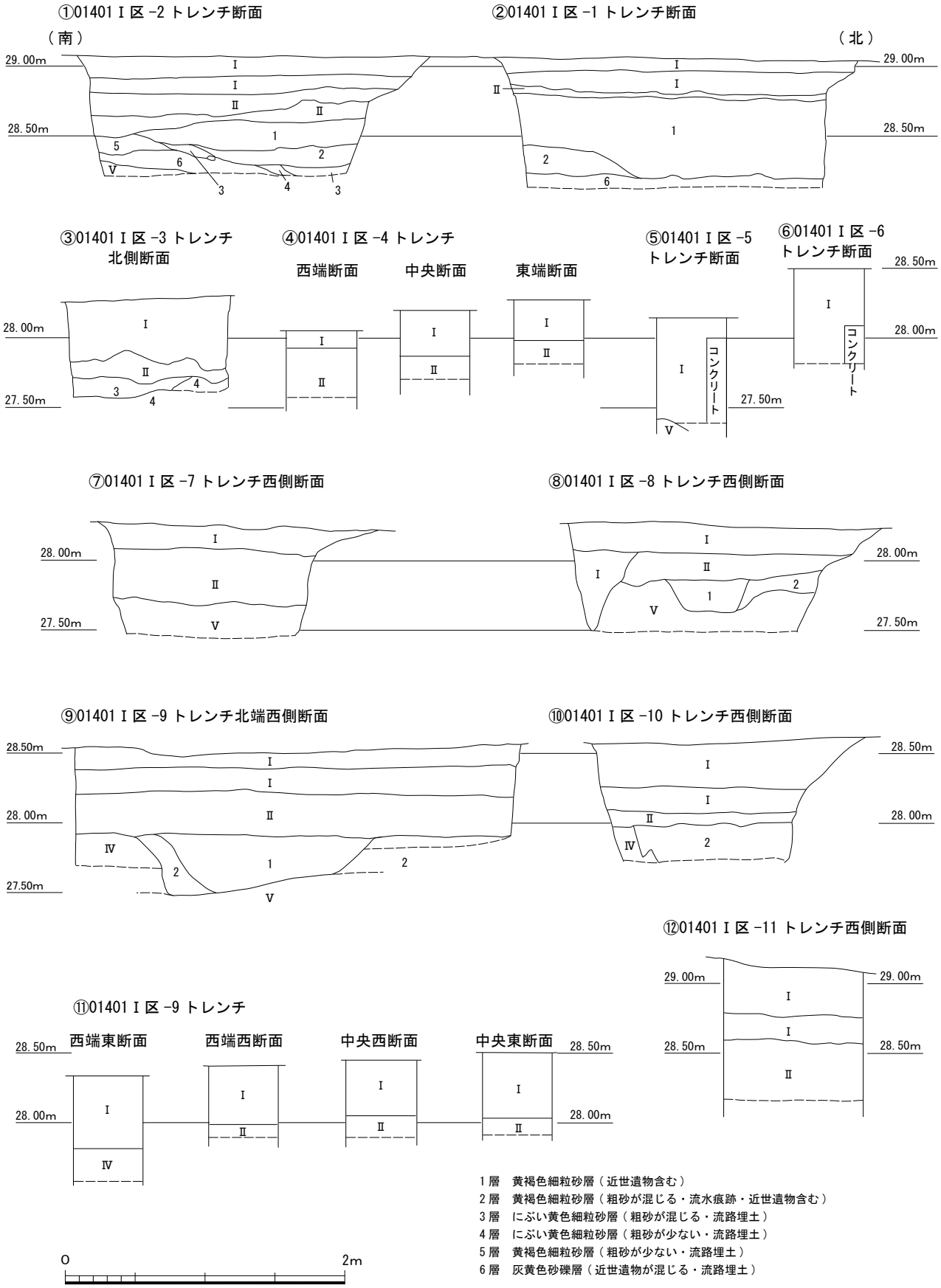


図6　01401調査（文京遺跡58次）Ⅰ区土層断面図（縮尺1/40）

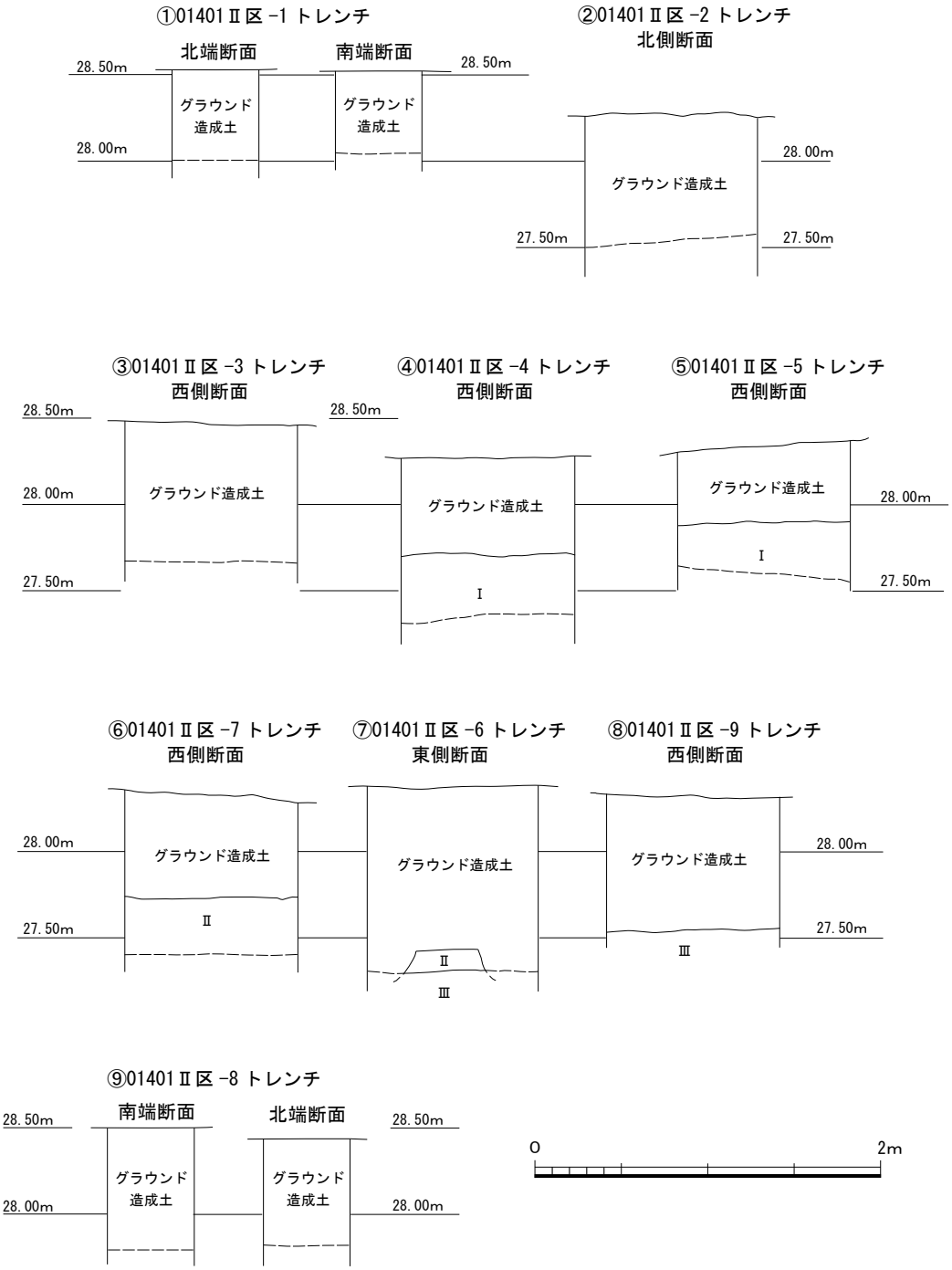


図7　01401調査（文京遺跡58次）Ⅱ区断面図（縮尺1/40）

写真 33　01401 調査　Ⅰ区 1 トレンチ西側断面

写真 34　01401 調査　Ⅰ区 2 トレンチ西側断面

写真 35　01401 調査　Ⅰ区 3 トレンチ北側断面

写真 36　01401 調査　Ⅰ区 4 トレンチ全景(西から)

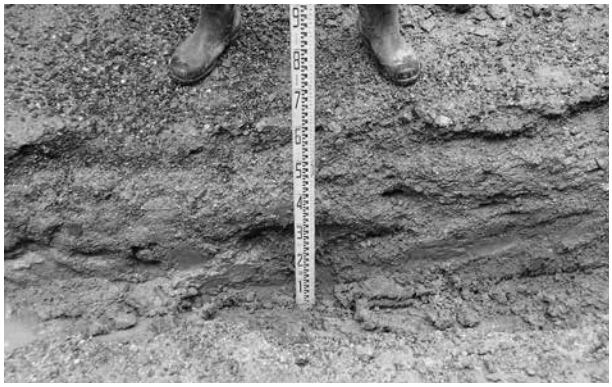


写真 37　01401 調査　Ⅰ区 4 トレンチ西端断面
(南から)

写真 38　01401 調査　Ⅰ区 4 トレンチ中央断面
(北から)

写真 39　01401 調査　Ⅰ区 5 トレンチ南側断面

写真 40　01401 調査　Ⅰ区 6 トレンチ南側断面

写真 41　01401 調査　Ⅰ区 7 トレンチ西側断面

写真 42　01401 調査　Ⅰ区 8 トレンチ西側断面

写真 43　01401 調査　Ⅰ区 9 トレンチ全景（東から）

写真 44　01401 調査　Ⅰ区 9 トレンチ北端断面
（東から）

写真 45　01401 調査　Ⅰ区 9 トレンチ中央東断面
（北から）

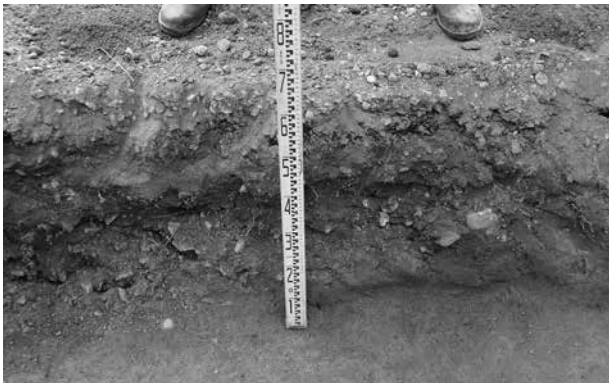


写真 46　01401 調査　Ⅰ区 9 トレンチ中央西断面
（北から）

写真 47　01401 調査　Ⅰ区 9 トレンチ西端東断面
（西から）

写真 48　01401 調査　Ⅰ区 10 トレンチ西側断面

写真 49　01401 調査　Ⅰ区 11 トレンチ西側断面

写真 50　01401 調査　Ⅱ区 1 トレンチ（北から）

写真 51　01401 調査　Ⅱ区 2 トレンチ北側断面

写真 52　01401 調査　Ⅱ区 3 トレンチ西側断面

写真 53　01401 調査　Ⅱ区 4 トレンチ西側断面

写真 54　01401 調査　Ⅱ区 5 トレンチ西側断面

写真 55　01401 調査　Ⅱ区 6 トレンチ東側断面

写真 56　01401 調査　Ⅱ区 7 トレンチ西側断面

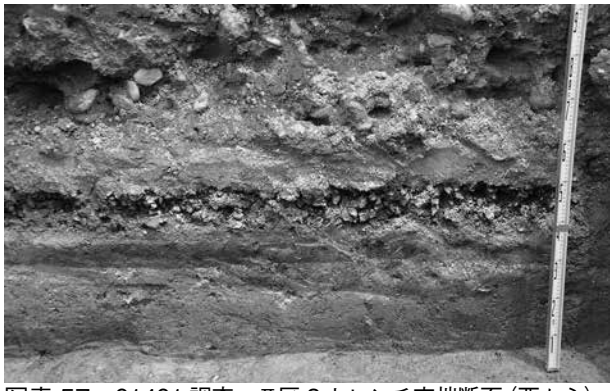


写真 57　01401 調査　Ⅱ区 8 トレンチ南端断面（西から）

写真 58　01401 調査　Ⅱ区 9 トレンチ西側断面

写真 59　完成したグリーンプラザ（北東から）

写真 60　完成したグリーンプラザ（東から）

設けるように随時、協議し、工事地点の移動を行った。1 ～ 9 トレンチを設定した。調査は、主に遺跡が保全できているかどうかの確認作業であった（写真 50 ～ 58）。

ステージ基礎に当たる 1 トレンチ、街路灯基礎の 2･3･5･7 トレンチ、集水桝に当たる 4 トレンチは、いずれもグラウンド造成土及びⅠ・Ⅱ層中に収まり、Ⅲ層まで工事が及ばないことを確認した。集水桝に当たる 6･9 トレンチで標高 27.30 ～ 27.60m でⅢ層上面を検出、直ちに工事を止めて、協議を行い、工事でⅢ層が痛まないように保護層として砂を充填し、遺跡の保全を実施したうえで集水桝の工事を実施した。

3. まとめ

Ⅰ区では基本層序のⅢ層は検出されず、Ⅰ・Ⅱ層下位でⅣ層もしくはⅤ層を確認した。遺構・遺物は出土しなかった。1･2 トレンチで出土した近世以降の大型流路は、東側に位置する 3･8･10 トレンチと 9 トレンチ北端断面でも確認することができた。このことからⅠ区には東西に流れる近世以降の流路が存在していることを確認できた。今回の調査では工事による埋蔵文化財への影響がない深度と箇所では、現状保存している。将来、調査地点周辺で掘削を伴った工事を行う際には、発掘調査が必要である。

Ⅱ区では工事の影響が遺跡に及ばないことを確認した。現在、遺跡を保存したグリーンプラザは、憩いの場、学びの場として活用されている（写真 59･60）。

（柴田）

01402 （城北団地）キャンパス環境整備工事（センタープラザ石畳範囲ガス工事部分）に伴う立会調査

調査地点　松山市文京町 3 番　城北団地内
調査面積　2.5㎡
調査期間　2014 年 7 月 7 日～ 2014 年 7 月 8 日
調査種別　立会調査

調査担当　三吉秀充
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
（平成 26〈2014〉年 7 月 4 日付）

1. 調査に至る経緯

2014 年 7 月上旬、施設基盤部からガス管設置に伴う工事計画が示された。工事計画は附属図書館の南西部、城北団地キャンパス環境整備工事内におけるセンタープラザ石畳部分を、幅 50 ～ 60㎝で南北約 20 m にわたって掘削するという計画である。施設基盤部から提示された工事計画では、ガス管設置に伴う掘削工事は既掘部分の再掘削工事にあたることから、埋蔵文化財への影響はないと判断した。しかし、既設ガス管の取り付き部分については、埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性もあることから、工事立会を実施することとした。

2. 調査の記録

工事地点は南北約 20 m におよび、工事地点南端部をのぞき、既設掘削部分の掘り返しであることを確認した（写真 61・62）。工事地点南端部、南北約 1.5 m、幅約 50㎝部分では既設の掘り返し部分ではなく、埋蔵文化財を破壊する結果となってしまった。埋蔵文化財調査室では、施設基盤部職員、施工業者に対し現状保存し、以降の工事において埋蔵文化財へ影響を及ぼさない工事の実施を強く要望した。その結果、現状における掘削範囲内でガス管設置工事を行うこととなった。それと同時に、現状における記録化を行った。

調査区南端部（図 5・8、写真 63・64）では、現地表下 131㎝まで掘り下げが行われていた。土層の詳細を見ると、現地表下 47㎝まで表土層である Ⅰ 層が続き、Ⅱ層は現地表下 63㎝まで続く。Ⅱ層直下にⅢ層が堆積し、現地表下 77㎝まで続く。Ⅲ層中には、橙色の部分も見られ、遺物の存在も想定されたが、土層観察では確認できなかった。またⅢ層下で確認したⅣ層中にも、土器や炭化物片等は確認できなかった。以上を記録した後、工事が埋蔵文化財へ影響を及ぼさないことを、確認した上で調査を終了した。

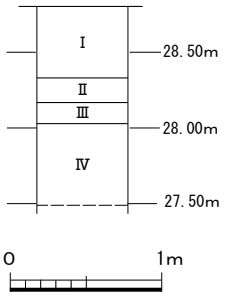


図 8　01402 調査土層柱状図（縮尺 1/50）

3. まとめ

当初、本工事では本工事地点内では埋蔵文化財への直接的な影響はないと予想していたが、埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で情報が共有化されていなかったため、結果として埋蔵文化財へ影響を与えることとなった。今後は、埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で、綿密な工事計画の確認を行い遺跡保護に努める必要がある。　（三吉）

写真 61　01402 調査　ガス工事北端部の状況（南東から）

写真 62　01402 調査　ガス工事の南半部の状況（北から）

写真 63　01402 調査　ガス工事南端部の状況（南西から）

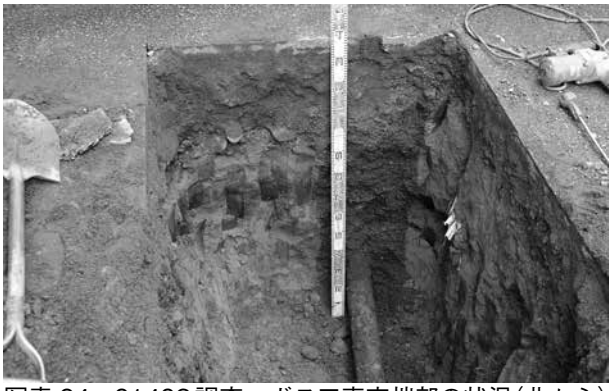


写真 64　01402 調査　ガス工事南端部の状況（北から）

01403 （樽味団地）附属高校実習室改修工事に伴う試掘調査

調査地点　松山市樽味 3 丁目 5 番 7 号　樽味団地内
調査面積　13.6㎡
調査期間　2014 年 8 月 19 日
調査種別　試掘調査
調査担当　三吉秀充
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
（平成 26〈2014〉年 7 月 23 日付）

1. 調査に至る経緯

2014 年 7 月下旬、施設基盤部から附属高校実習室改修工事計画が示された。改修工事予定建物の正確な余掘り範囲が不明であること、周辺における埋蔵文化財データが少ないことから、工事による埋蔵文化財への影響判断が難しいと判断した。そこで、施設基盤部と協議し、試掘調査を実施することとした。

2. 調査の記録

試掘調査では、改修工事が予定されている附属高校第 3 校舎の余掘り範囲の確定を主目的として、校舎南側に西から 1 トレンチ、2 トレンチ、校舎東側に 3 トレンチ、校舎北側に 4 トレンチを設定した（図 9・10）。

（1）1 トレンチ（図 10・写真 65 ～ 67）

校舎南側のほぼ中央に設けたトレンチである。校舎建物に接して複数の配管が東西方向に走っていることから、建物壁から約 150㎝離れた地点に設けた。重機を用いて現地表下 133㎝、標高 42.91 ｍまで瓦礫を伴う造成土である Ⅰ 層を掘り下げたが、掘削底面で管路に伴うコンクリートが出土した。これ以上掘り下げることができないことから、記録をとって調査を終了した。なお、Ⅰ層中から近世以降の遺物が出土している。

（2）2 トレンチ（図 10・写真 65・68・69）

校舎南東半部に設けたトレンチである。1 トレンチと同様に配管を避け、建物壁から約 160㎝離れた地点に調査区を設けた。重機を用いて、現地表下約 152㎝、標高 42.67 ｍまで瓦礫を伴った Ⅰ 層の掘り下げ、調査区南半部でⅣ層を確認した。Ⅳ層は、明黄褐色細砂で 3 トレンチで確認できているⅣ -2 層に対応する。現地表下約 185㎝まで人力によって精査を行い、Ⅳ -2 層が続くことを確認して調査を終了した。遺物は出土していない。

建物壁から南へ約 210㎝離れた地点ではⅣ層が確認できており、校舎建築時の建物余掘りは建物壁から約 210㎝までと判断できる。

（3）3 トレンチ（図 10・写真 70 ～ 72）

校舎東側に設けたトレンチである。建物近くで配管を確認したことから、建物壁から約 140㎝離れた地点に調査区を設けた。重機を用いて現地表下 96㎝、標高 43.10 ｍまで瓦礫を伴った Ⅰ 層を掘り下げ、調査区東半部でⅣ層を確認した。さらに、人力によって現地表下 161㎝、標高 42.446 ｍまで調査を行い、Ⅳ層が続くことを確認した。Ⅳ層は 2 層に細分ができる。上部のⅣ -1 層は明黄褐色シルト、下部のⅣ -2 層は黄色細砂層である。遺物は出土していない。

建物壁から東へ約 210㎝離れた地点ではⅣ層が確認でき、校舎建築時の建物余掘りは建物壁から約 210㎝までと考える。

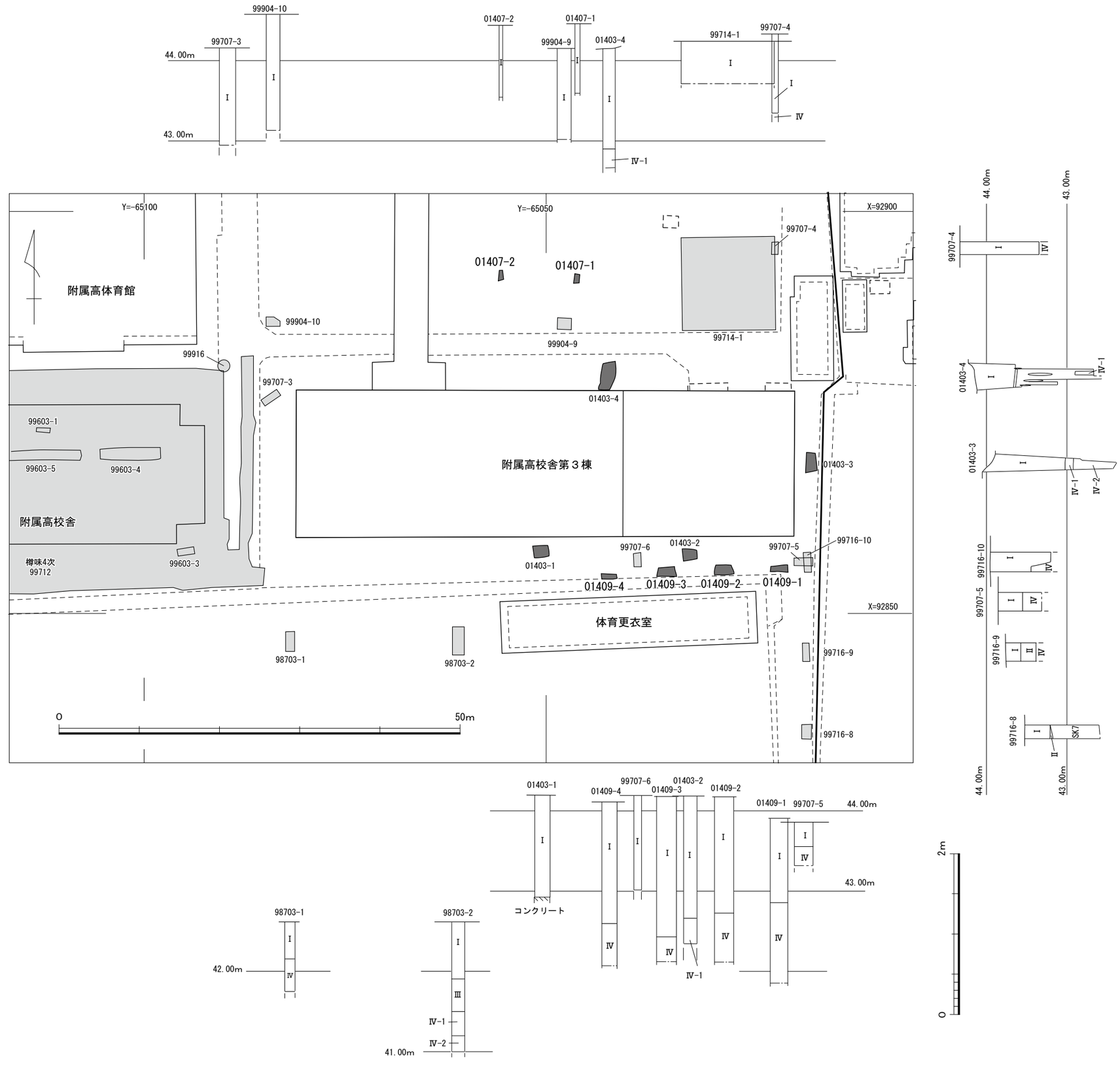


図９　附属高校第３棟周辺の調査地点平面図（縮尺 1/500）・土層断面図（縮尺水平方向 1/500、垂直方向 1/50）

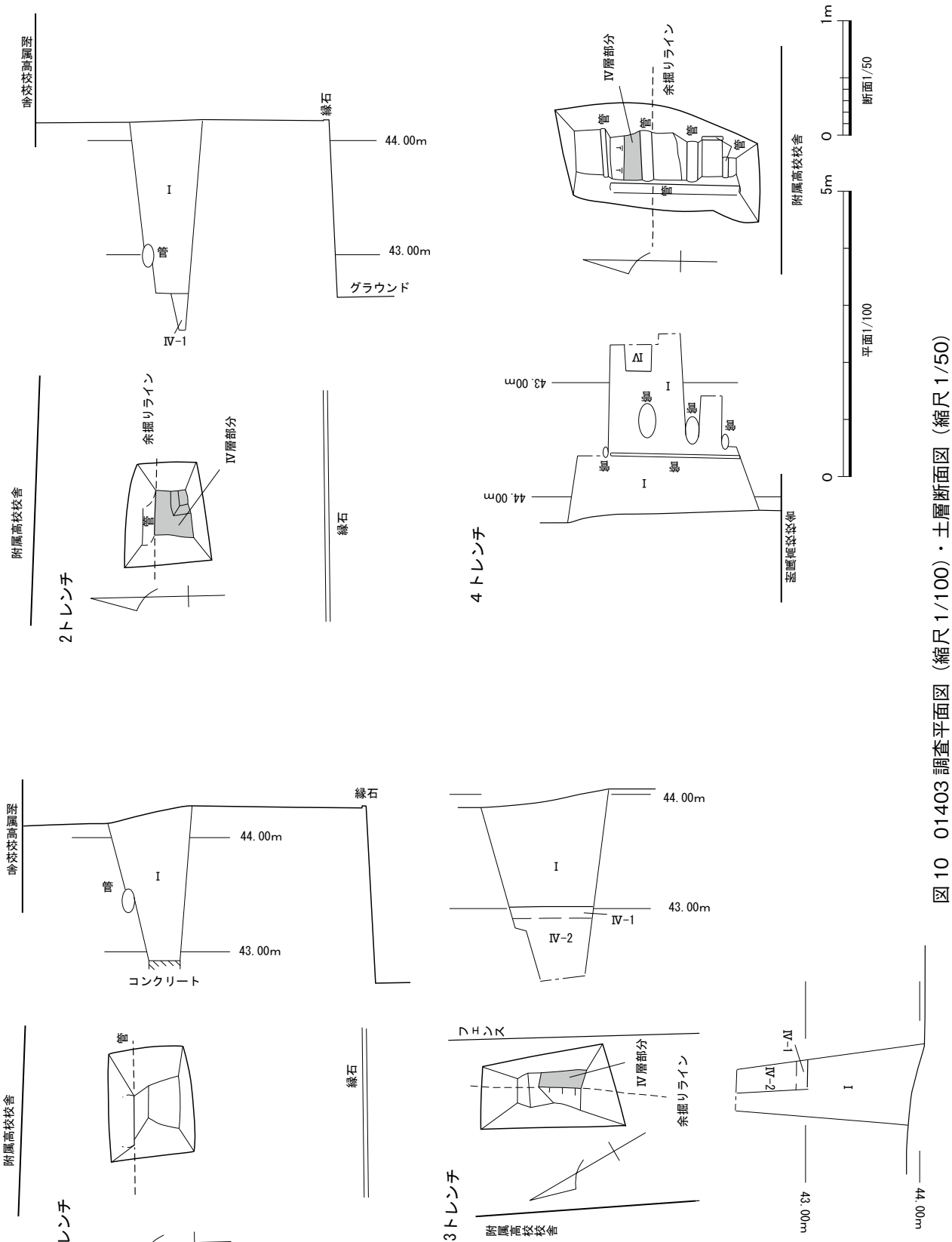


図 10　01403 調査平面図（縮尺 1/100）・土層断面図（縮尺 1/50）

(4) 4トレンチ（図10・写真73～76）

校舎北側ではアスファルト舗装されていない地点に調査区を設けた。重機を用いて現地表下約136cm、標高42.92ｍまで瓦礫を伴ったⅠ層を掘り下げ、調査区南半部でⅣ層を確認した。Ⅳ層は明黄褐色シルトで、3トレンチで確認できているⅣ-1層に対応する。上部は鉄分・マンガン粒を含む。人力によって現地表下163cm、標高42.65ｍまで調査を行い、Ⅳ-1層が続くことを確認して調査を終了した。遺物は出土していない。

建物壁から北側へ約225cm離れた地点ではⅣ層を確認でき、校舎建築時の建物余掘りは建物壁から約225cmまででであることを確認できた。

3. まとめ

①第3棟建物の余掘りについて

2～4トレンチにおける調査成果から、第3棟建物の余掘りは、建物壁から約210～225cmまでである。

②第3棟建物南東部の状況

第3棟建物南東部周辺では、99707調査5トレンチや99716調査などの調査が行われ、グラウンド東部の高まり部には埋蔵文化財が残されていることが明らかになっている。しかし、グラウンド部分に関しては、埋蔵文化財の分布状況は不明であった。そこで今回の調査成果を基に、第3建物校舎東部において南北方向、校舎北部および南部において東西方向の断面図を作成した（図9）。

南北方向の断面を見ると、今回調査を行った3トレンチや4トレンチではⅣ層の検出レベルは、標高43.00ｍ前後と他の調査地点に比べてやや低く、窪地状の落ち込みが見られる。

校舎南部の断面を見ると、グラウンド東部の高まり部分から西側にかけてⅣ層検出面を追うことができる。ただし、今回調査を行った2トレンチで検出したⅣ層はⅣ-2層であり、本来、上部に堆積しているⅣ-1層はすでに削平されたと考えられる。一方、99703調査2トレンチでは、Ⅳ層の上部にⅢ層が堆積し、旧地形が残されている。以上のことから、グラウンド北東部周辺ではⅣ層の上部が削平されているが、一部では遺構が残されていると考えられる。

③第3棟建物の北側の状況

第3棟建物北側では、3トレンチで現地表下96cm、4トレンチで現地表下136cmの高さでⅣ層を確認できた（図2）。99707調査4トレンチでは現地表下100cmでⅣ層を確認している。第3棟建物北側の東半部では、現地表下96～136cmまでⅠ層が続き、直下でⅣ層が出土する。

一方、西半部を見ると、99904調査9トレンチでは現地表下110cm、999707調査3トレンチでは現地表下120cm、99904調査10トレンチでは現地表下140cmまで掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続くことを確認している。Ⅲ層あるいはⅣ層の存在を確認できていないが、少なくとも現地表下110cm～140cmまではⅠ層が続いている。（三吉）

写真65　01403調査　1・2トレンチ周辺（東から）

写真66　01403調査　1トレンチ（西から）

写真 67　01403 調査　1 トレンチ（西から）

写真 68　01403 調査　2 トレンチ（西から）

写真 69　01403 調査　2 トレンチ南壁土層（北から）

写真 70　01403 調査　3 トレンチ（南から）

写真 71　01403 調査　3 トレンチ全景（西から）

写真 72　01403 調査　3 トレンチ東壁土層（西から）

写真 73　01403 調査　4 トレンチ全景（北東から）

写真 74　01403 調査　4 トレンチ全景（東から）

写真 75　01403 調査　4 トレンチ北端部西壁土層（東から）

写真 76　01403 調査　4 トレンチ北端部の状況（南から）

01404 （持田団地）附属小学校給食室改修その他工事（附属小学校本館給食室増築部分）に伴う持田遺跡 10 次発掘調査

調査地点　松山市持田町一丁目 860 番の一部
　　持田団地内
調査面積　298.8㎡
調査期間　2014 年 9 月 4 日～ 10 月 6 日
調査種別　本格調査
調査担当　柴田昌児
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成 26〈2014〉年 6 月 12 日付）

1. 調査に至る経緯

2014 年 6 月、施設基盤部から附属小学校本館給食室の増築･改修工事を計画している旨の報告があった。6 月 12 日付で、施設基盤部から依頼があり、埋蔵文化財調査室は意見書を作成、6 月 30 日付で土木工事等届出書を提出した。これに対して、7 月 1 日付で愛媛県教育委員会から「発掘調査を必要とする範囲」「工事立会が必要となる範囲」の指示があった（図 11）。発掘調査の指示があった該当工事地点については、7 月 23 日付で発掘調査届出書を提出し、7 月 30 日付で届出受理の通知があった。これを受けて、工事に先駆けて9月4日～10月6日にかけて発掘調査を実施した。本報告は発掘調査の正式報告である（図 11）

2. 調査の経過

9 月 4 日、重機による表土層の掘削と併せて、層序確認のため、調査区壁に沿って深掘りの先行トレンチを人力で掘削する。調査区西壁・南壁・東壁のうち、西壁は既設の管路のため､層序の確認はできなかった。9 月 4・5 日に基準点の移動を行う。南壁と東壁のトレンチ掘削では、自然堆積構造が残されていることがわかった。さらに上位層及び下位層から須恵器片や土師器片が出土するも摩滅が激しく、明らかに二次堆積による遺物の混入である。以上、堆積環境をおおよそ把握することができ、平面的調査の指針とした。

9 月 8 日から調査区北側の給食室建物内の掘削を重機で行う。建物の基礎部分を露出させ、基礎部分周辺に遺構面や包含層が残存していないか、確認しながら慎重に掘削を続ける。9 月 11 ～ 17 日に一部人力掘削をまじえて、建物基礎下位まで掘り下げ、建物内全域が基礎工事によって地表下約 2.5m、標高 32.20m まで掘削されていることを確認した。給食室建物内の平面測量を行い、調査を終了した。

9 月 12 日から調査区南側の表土層（後述するⅠ層）を重機により掘削、近世水田面と考えられるⅡ層上面があらわれた。9 月 17 日にⅡ層上面の完掘状況写真及び土層断面写真を撮影、礫層（後述するⅤ層）上面を検出するため、人力掘削を開始した。9 月 25 日にⅤ層上面があらわれ、26 日に完掘状況写真を撮影した。29 日よりⅤ層下位を確認するため、トレンチを設け（図 12 の e-d ライン）、人力掘削及び重機掘削を行った。10 月 2 日に完掘し、写真撮影と測量を実施した。引き続き 6 日に調査区に接して行われた配管付け替え工事の立会調査を実施し、発掘調査を終了し

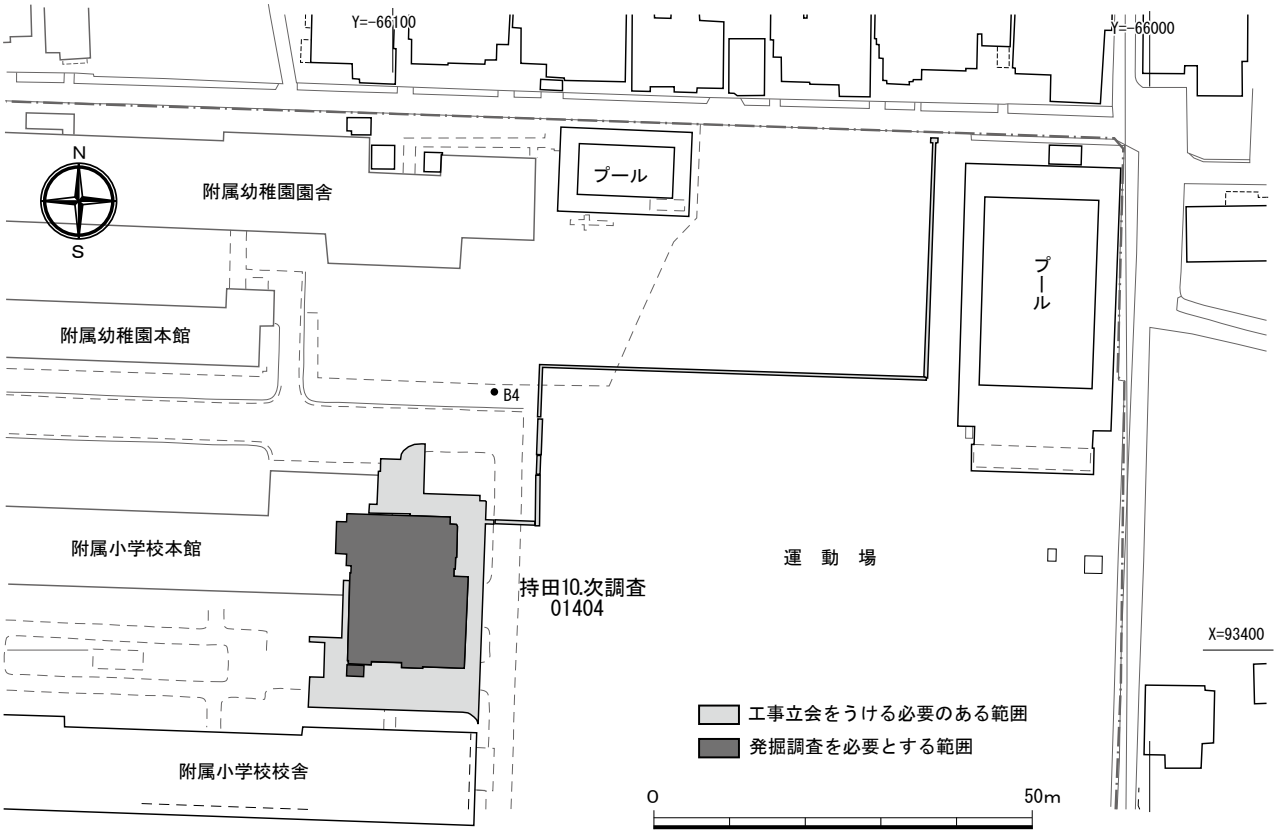


図11　持田遺跡10次（01404調査）愛媛県教育委員会の指示による調査範囲

た。また発掘調査期間終了後のプール北側に至る配管工事に伴う立会調査は 11 月 25 日と 2015 年 1 月 22 日に実施した。

3. 調査の記録

（1）層序

調査地点は持田団地の中央、北寄りに位置する（図 11・写真 77）。調査区の北側は既存給食室の建物内に当たり、建物基礎によって地表下約 2.5m、標高 32.20m まで掘削されていた（図 12・写真 78 ～ 80）。調査区南側は配管などによる攪乱があるものの、表土層下位の堆積層が残存していた（図 12・写真 81 ～ 83）。

既往の調査を参照しながら、以下の層序を設定した（図 13）。

Ⅰ層：表土・造成土層

Ⅱ層：調査区の南壁（図 13-①）と東壁（図 13-②）の土層断面図は、Ⅱ-1 層はオリーブ褐色シルト層で、径 2㎜の細粒砂が少量混じり、下部に鉄分が帯状に沈着する。Ⅱ-2 層は黄褐色シルト層で極細粒砂を含む。Ⅱ-3 層はオリーブ褐色シルト層で下部に鉄分・マンガンの沈着が認められる。このように、Ⅱ層は細粒砂や極細粒砂が混じるオリーブ褐色シルト層と黄褐色シルト層で、下部に帯状に鉄・マンガンが沈着していることから、団地造成前の水田耕作土層と判断できる。Ⅱ層上面は削平や攪乱が激しく、畦などの水田に伴う遺構は確認できなかった。Ⅱ層中から出土した遺物には 11 世紀末～ 12 世紀の古代末の土器がある。多くは激しく摩滅しており、土砂とともに流されてきたものと考えられる。

Ⅲ層：径 2 ～ 3㎜の細礫を主体とする砂礫層である

Ⅲ層は、6・7 次調査に対応する洪水砂層で、平面で見ると流路の痕跡を確認することができた（図 14）。Ⅲ層は 1 ～ 12 層に分層できる。

Ⅲ-1 層は暗灰黄色細砂層で、遠沈管による簡易粒度観察を行い、微量の有機質を含んでいることがわかった。Ⅲ-2 層は黄褐色細粒～粗粒砂層である。Ⅲ-3 層は黄褐色極細

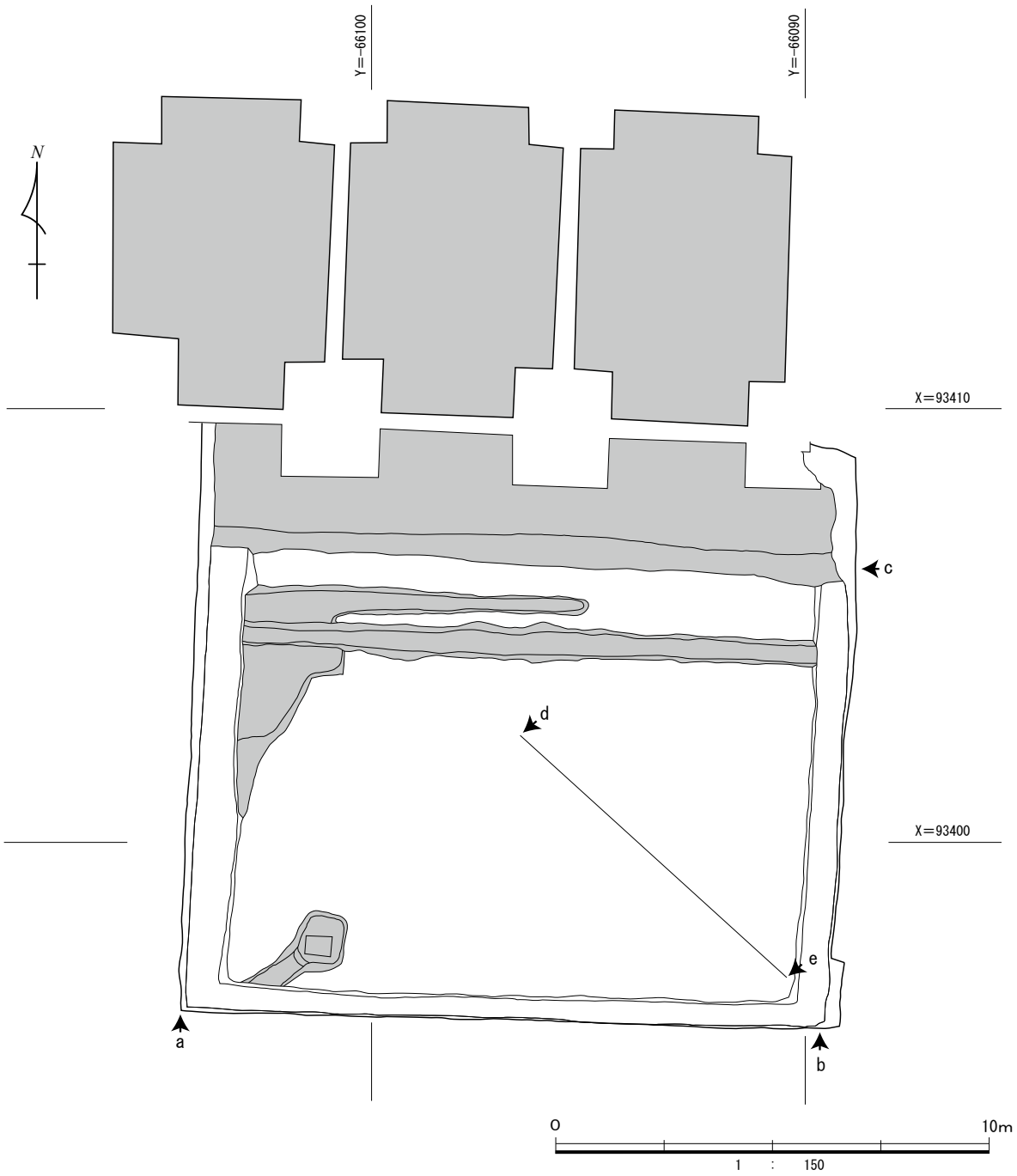
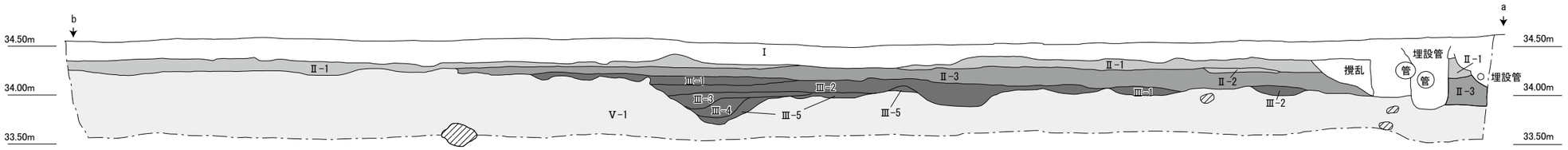
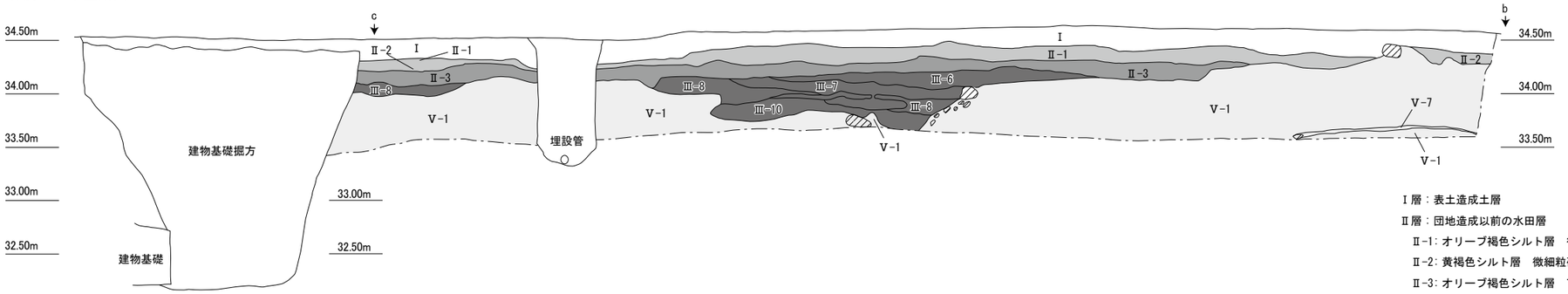


図 12　持田遺跡 10 次（01404 調査）平面図（縮尺 1/150）

①調査区南壁断面



②調査区東壁断面



③砂礫層確認トレンチ断面

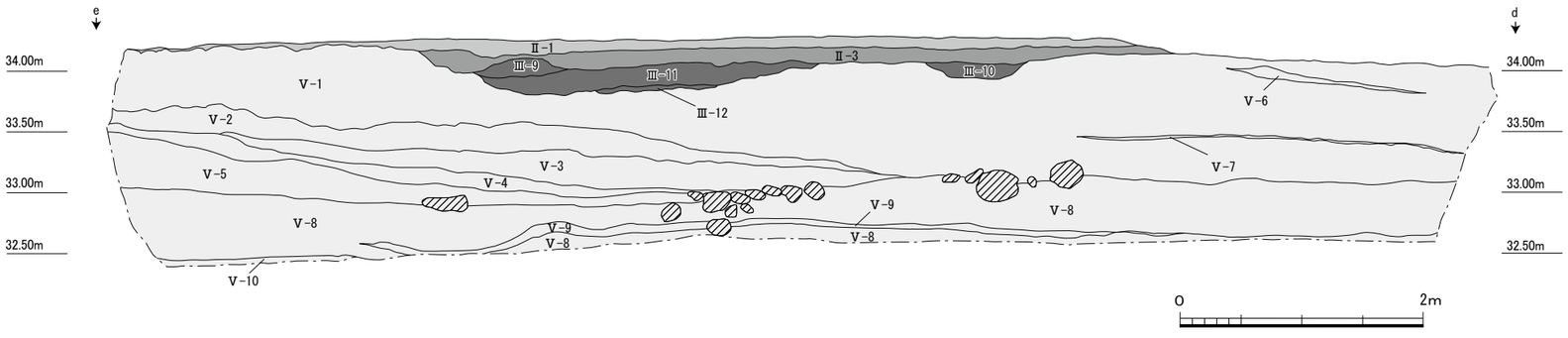


図13　持田遺跡10次(01404調査)土層断面図（縮尺1/50）

Ⅰ層：表土造成土層

Ⅱ層：団地造成以前の水田層

- Ⅱ-1：オリーブ褐色シルト層　径 2㎜ の細粒砂が少量混じる。下位には鉄分が沈着。
- Ⅱ-2：黄褐色シルト層　微細粒砂を含む。
- Ⅱ-3：オリーブ褐色シルト層　下位に鉄分・マンガンの沈着が認められる。

Ⅲ層：洪水砂層

- Ⅲ-1：暗灰黄色細粒砂層　微量の有機質を含む。
- Ⅲ-2：黄褐色細～粗粒砂層
- Ⅲ-3：黄褐色極細～細粒砂層
- Ⅲ-4：黄褐色粗粒砂層
- Ⅲ-5：灰オリーブ色細粒砂層
- Ⅲ-6：浅黄色細粒砂層
- Ⅲ-7：黄褐色極細～細粒砂～粗粒砂からなる互層堆積層
- Ⅲ-8：オリーブ褐色細粒砂層
- Ⅲ-9：灰黄色細粒砂層
- Ⅲ-10：浅黄色極細～細粒砂層
- Ⅲ-11：灰黄色粗粒砂層　ラミナ
- Ⅲ-12：灰白色微細粒砂混りシルト層　ラミナ

Ⅳ層：水田耕作土層（本調査区では確認できず）

Ⅴ層：礫堆積層

- Ⅴ-1：灰白色砂礫層　こぶし大から人頭大の円礫を多く含む。
- Ⅴ-2：灰白色粗粒砂混じり砂礫層　下位にマンガン沈着。
- Ⅴ-3：灰黄色砂礫層　下位にマンガン沈着。
- Ⅴ-4：にぶい黄色砂礫層　下位にマンガン沈着。
- Ⅴ-5：灰黄色砂礫層
- Ⅴ-6：黄褐色微細粒砂層
- Ⅴ-7：褐色粗粒砂層　マンガン沈着。
- Ⅴ-8：灰黄色砂礫層　人頭大の円礫を多く含む。
- Ⅴ-9：褐色粗粒砂層　マンガン沈着。
- Ⅴ-10：灰黄色砂礫層　人頭大の円礫を多く含む。

図 14　持田遺跡 10 次（01404 調査）Ⅴ層上面地形図（縮尺 1/100）

～細砂層である。 Ⅲ-4 層は黄褐色粗砂粒層、Ⅲ-5 層は灰オリーブ色細砂粒層、Ⅲ-6 層は浅黄色細粒砂層である。Ⅲ-7 層は黄褐色を呈し、極細粒砂・細粒砂・粗粒砂からなるラミナ堆積層である。Ⅲ-8 層はオリーブ褐色細粒砂層、Ⅲ-9 層は灰黄色細粒砂層、Ⅲ-10 層は浅黄色極粒細～細粒砂層、Ⅲ-11 層は灰黄色粗粒砂層、Ⅲ-12 層は灰白色微砂混りシルト層である。下位層であるⅢ-4 ～ 12 層は細粒砂と粗粒砂が互層堆積し、とくにⅢ-11・12 層ではラミナが確認できた。

Ⅲ層中からは遺物は出土していない。

Ⅳ層 :6・7 次調査で水田耕作土や畠の畝などが確認できる層であるが、上部が団地造成前後の削平により、本調査区では確認することはできなかった。

Ⅴ層 : こぶし大から人頭大の花崗岩の亜円礫が多く混じる灰白色系の礫層である。層厚と堆積状況を確認するために流路方向に直交するトレンチを設けた（図 13-③）。Ⅴ層は、上方粗粒化が認められ、1 ～ 10 層に分層できる。

Ⅴ-1 層は灰白色砂礫層でこぶし大から人頭大の円礫を多く含む。Ⅴ-2 層は灰白色粗粒砂混じり砂礫層、Ⅴ-3 層は灰黄色砂礫層、Ⅴ-4 層はにぶい黄色砂礫層、Ⅴ-5 層は灰黄色砂礫層、Ⅴ-6 層は黄褐色微砂層、Ⅴ-7 層は褐色

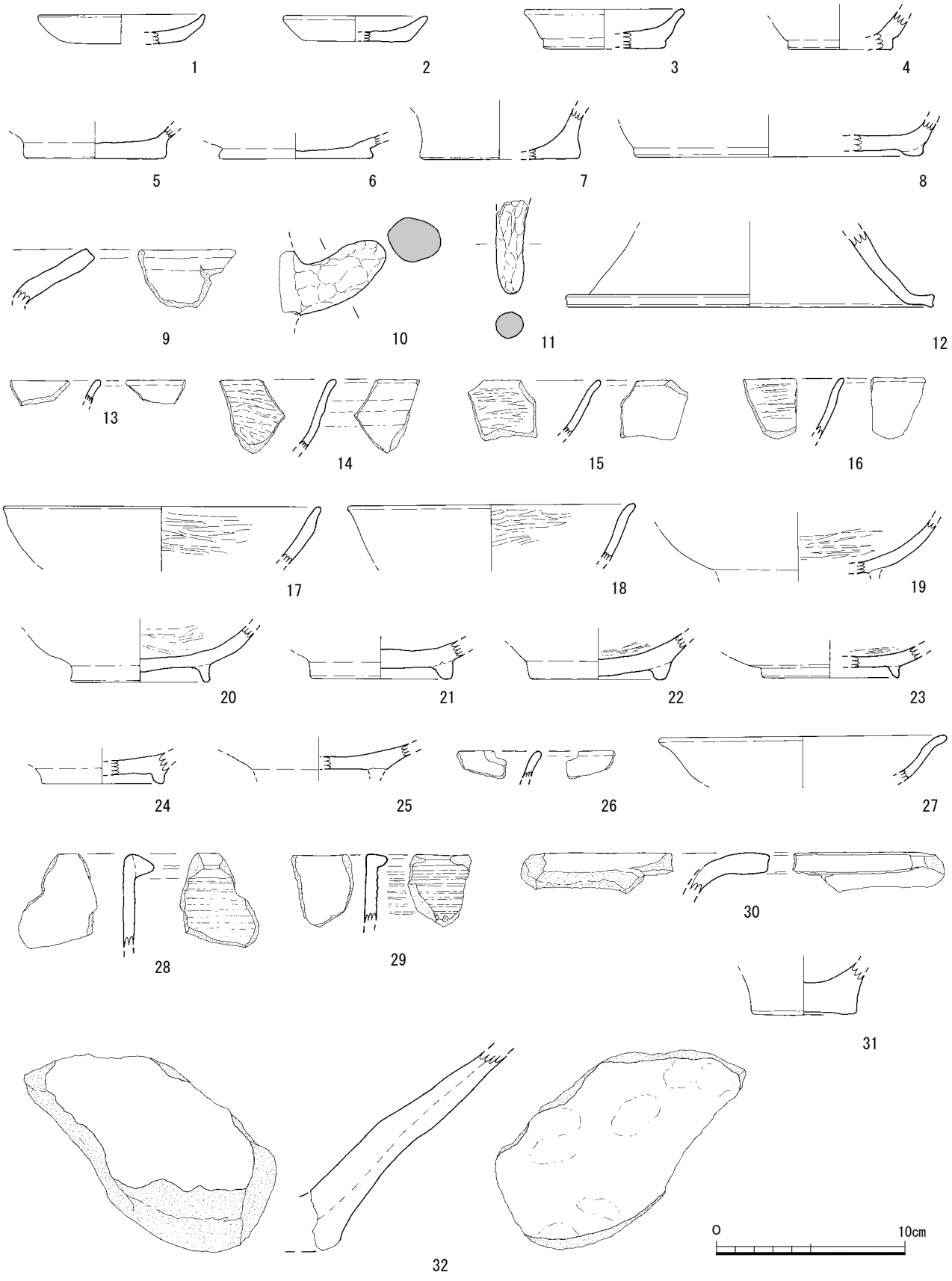


図 15　持田遺跡 10 次（01404 調査）出土遺物（縮尺 1/3）

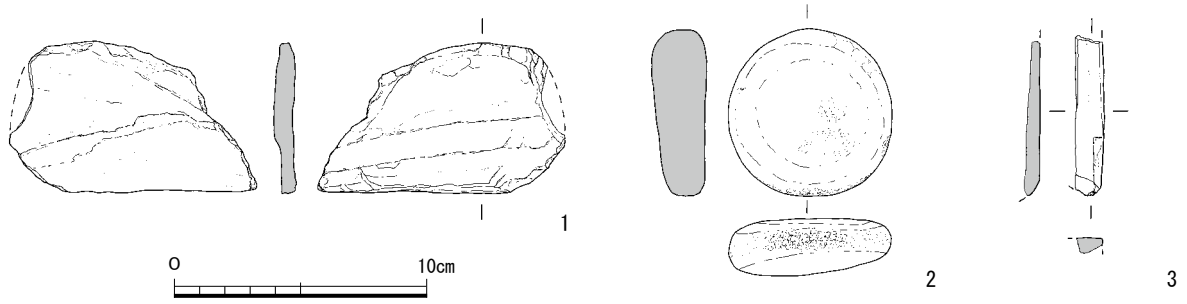


図 16　持田遺跡 10 次（01404 調査）出土石器（縮尺 1/3）

粗粒砂層である。V-8 層は灰黄色砂礫層で人頭大の円礫を多く含む。V-9 層は褐色粗粒砂層で、V-10 層は灰黄色砂礫層で人頭大の円礫を多く含む。

V-2 ～ 4・7・9 層の堆積層下底部にマンガンの沈着が認められる。V 層の層厚は 2.5m 以上である。V-2 ～ 10 層中からは激しく摩耗した弥生土器や土師器、石器が出土しているが、二次堆積による混入と考えられる。

(2) 遺構

①流路

流路の埋土は上述したように 6・7 次調査に対応する洪水砂層のⅢ層である。平面ではⅤ層上面が開析され、流路の痕跡を確認できた（図 14）。

調査区の中では流路の幅はわからないものの、流路底面、つまり礫堆積層であるⅤ層上面の起伏で流向を把握できる。附属小学校本館給食室周辺の地形は南東側が高くなっており、現在の地形勾配をみると、調査区南東隅Ⅴ層上面が標高 34.20m と高く、調査区北西に向かって低くなり、北西端では標高 33.70m を測る（図 14）。その傾斜は調査区内の約 10m で 20cm の高低差となっている。Ⅲ層が堆積した窪地の状況から流路の方向は S-41 ～ 55° -W で、北東から南西に向かって流れていたと考えられる。

流路からは遺物の出土はなく、埋没した時期の特定は難しいが、Ⅴ層堆積後、Ⅱ層堆積以前の流路であることから、上限は古墳時代後期、下限は 12 世紀に収まるものと考えられる。

(3) 出土遺物

①Ⅱ層出土遺物

表土層を除去後、団地造成前の水田面であるⅡ層を検出した。後の削平のため畦畔や畠の畝は残存していない。Ⅱ層には古代末の遺物が含まれている。多くは激しく摩滅しており、二次堆積による遺物の混入と考えられる。

図 15-1 ～ 27 はⅡ層から出土した遺物である。1 ～ 3 は土師皿である。1・2 は口径が 7.8 ～ 9.0cm、器高 1.2cm と低平で、底部切り離し技法は摩滅しているため不明である。3 は円盤高台の土師皿で底部切り離し技法は回転ヘラ切りである。4 ～ 7 は土師器埦の円盤高台部の破片である。4 は回転ヘラ切りである。5 も回転ヘラ切りでスノコ痕が残る。6 の切り離し技法が不明である。7 は円盤高台埦の底部破片で、切り離し技法が回転ヘラ切りである。8 は低平な高台の土師器壺の底部である。9 は上面がやや内湾する土師器甕の口縁部で回転横ナデで端部に面をつくる。内外面ともナデが施されている。10 は土師器の把手破片である。全体を指頭で整形する。11 の器種は不明であるが、土師質土器の脚部片である。全体を指頭で整形している。12 は焼成不良の軟質須恵器で、台付壺の脚部である。色調は内外面とも橙色を呈している。13 は黒色土器 B 類（両黒）埦の口縁部である。口縁部はわずかに外反し、端部は丸く収められている。14 ～ 18 は黒色土器 A 類（内黒）埦の口縁部である。いずれも内面に幅の狭い暗文風のヘラミガキを施す。口縁部はわずかに外反し、端部は丸い。17･18 のようにやや厚手のものが含まれる。19 ～ 25 は黒色土器 A 類（内黒）埦の底部である。いずれも高台が付く。21･24 のように摩滅しているもの以外は内面に幅の狭い暗文風のヘラミガキを施す。高台の形状は 20 のように細くやや高くなるものや、幅広の 21･22 などバリエーションがある。底部切り離し技法は 19 ～ 24 が回転ヘラ切りであるのに対して、25 のみ回転糸切りである。図 15-26 は京都洛西系緑釉陶器の埦口縁部である。口縁部がわずかに外反する。27 は白磁 5 類の皿で、口縁部が緩やかに外反している。

写真 77　持田遺跡 10 次調査　調査前全景（南から）

写真 78　持田遺跡 10 次調査　建物基礎内掘削状況 1

写真 79　持田遺跡 10 次調査　建物基礎内掘削状況 2

写真 80　持田遺跡 10 次調査　建物基礎掘り形断面

写真 81　持田遺跡 10 次調査　Ⅱ層上面検出状況（南から）

写真 82　持田遺跡 10 次調査　Ⅱ層上面検出状況（南東から）

写真 83　持田遺跡 10 次調査　Ⅱ層上面検出状況（東から）

写真 84　持田遺跡 10 次調査　調査区南側土層断面（北西から）

写真 85　持田遺跡 10 次調査　調査区南側土層断面（北東から）

写真 86　持田遺跡 10 次調査　調査区南側土層断面（北から）

写真 87　持田遺跡 10 次調査　調査区南側土層断面（東から）

写真 88　持田遺跡 10 次調査　調査区東側土層断面（北西から）

写真 89　持田遺跡 10 次調査　調査区東側土層断面（西から）

写真 90　持田遺跡 10 次調査　調査区東側土層断面（西から）

写真 91　持田遺跡 10 次調査　調査区東側土層断面（南西から）

写真 92　持田遺跡 10 次調査　Ⅴ層上面検出状況（南から）

写真 93　持田遺跡 10 次調査　Ⅴ層上面検出状況（南東から）

写真 94　持田遺跡 10 次調査　Ⅴ層上面検出状況（東から）

写真 95　持田遺跡 10 次調査　Ⅴ層上面検出状況（北東から）

写真 96　持田遺跡 10 次調査　Ⅴ層上面検出状況（南西から）

写真 97　持田遺跡 10 次調査　砂礫層確認トレンチ（東から 1）

写真 98　持田遺跡 10 次調査　砂礫層確認トレンチ（東から 2）

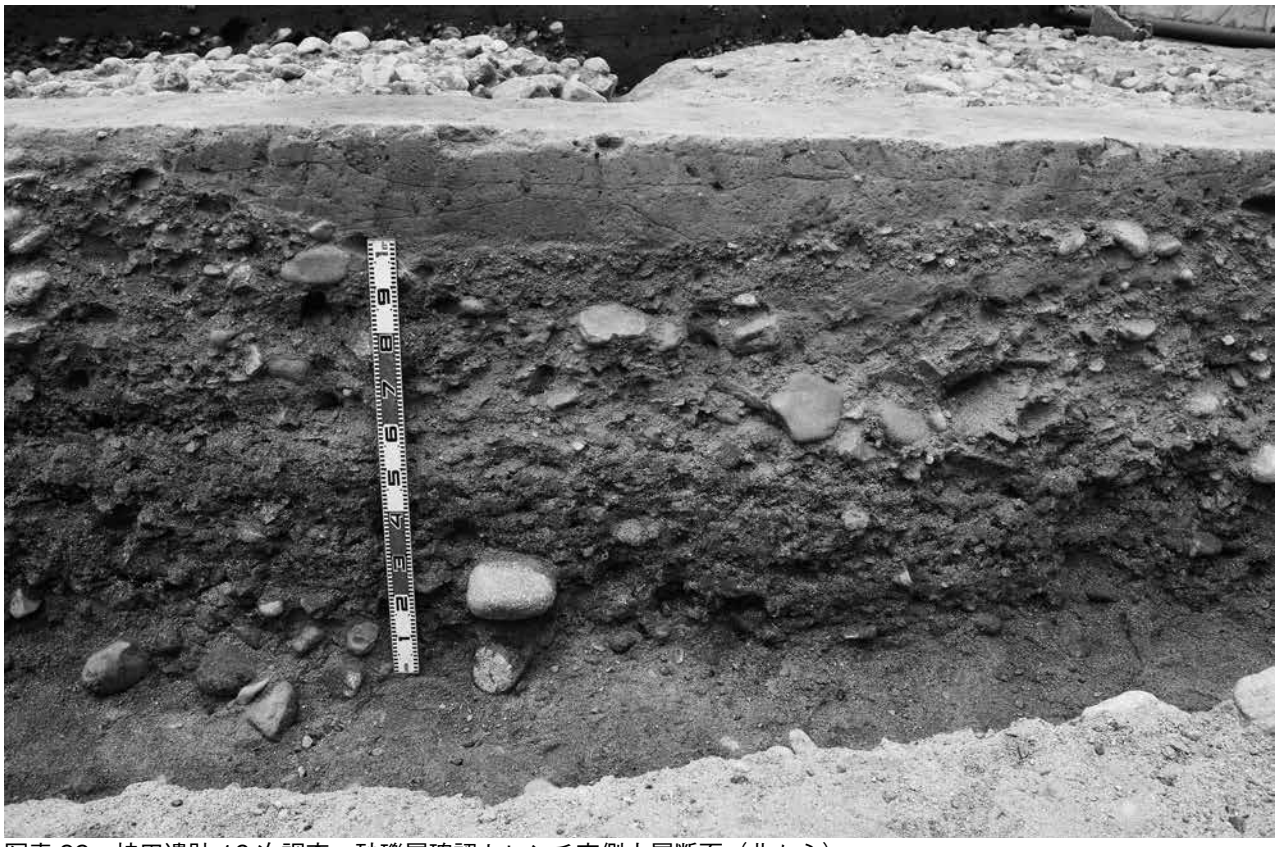


写真 99　持田遺跡 10 次調査　砂礫層確認トレンチ南側土層断面（北から）

写真 100　持田遺跡 10 次調査　砂礫層確認トレンチ南側土層断面（北西から）

写真 101　持田遺跡 10 次調査　砂礫層確認トレンチ南側土層断面（北東から）

写真 102　持田遺跡 10 次調査　砂礫層確認トレンチ南側土層断面（東から）

写真 103　持田遺跡 10 次調査　砂礫層確認トレンチ全景（北東から）

写真 104　持田遺跡 10 次調査　砂礫層確認トレンチ最深部（北東から）

写真 105　持田遺跡 10 次調査　調査区南西配管部分確認調査 1

写真 106　持田遺跡 10 次調査　調査区南西配管部分確認調査 2

写真 107　持田遺跡 10 次調査　配管工事立会

写真 108　持田遺跡 10 次調査　水道管工事立会

写真 109　持田遺跡 10 次調査　グラウンド配管工事立会 1

写真 110　持田遺跡 10 次調査　グラウンド配管工事立会 2

写真 111　持田遺跡 10 次調査　グラウンド電気工事立会

写真 112　持田遺跡 10 次調査　水道電気配管工事立会 1

写真 113　持田遺跡 10 次調査　水道電気配管工事立会 2

写真 114　持田遺跡 10 次調査　作業風景 1

写真 115　持田遺跡 10 次調査　作業風景 2

写真 116　持田遺跡 10 次調査　作業風景 3

写真 117　持田遺跡 10 次調査　考古学専攻生の見学 1

写真 118　持田遺跡 10 次調査　考古学専攻生の見学 2

Ⅱ層出土遺物で圧倒的多数を占める底部切り離し技法が回転ヘラ切りの黒色土器 A 類は、10 世紀～ 11 世紀前半の所産である。一方、1 点だけ、底部切り離し技法が回転糸切りである図 15-25 は、11 世紀後半以降に比定できる。さらに出土した遺物の下限は図 15-27 の白磁 5 類で、12 世紀後半を上限としている。以上、10 世紀から 11 世紀の遺物が大半を占め、わずかに 12 世紀後半の遺物が混じる。いずれにしても古代後半から末の遺物である。

Ⅱ層は、12 世紀後半以降に発生した氾濫・洪水などにより土砂が自然堆積したことにより形成したと考える。

②Ⅴ層出土遺物

こぶし大から人頭大の花崗岩の亜円礫が多く混じる灰白色系の礫層であるⅤ層は、層厚 2.5m 以上あり、今回の調査では掘削深度が下面に至っていない。Ⅴ層には弥生時代の遺物が出土し、わずかであるが須恵器細片も出土している。多くは激しく摩滅し、二次堆積による遺物の混入と考えられる。

図 15-28 ～ 32・図 16-1 ～ 3 がⅤ層から出土した遺物である。図 15-28・29 は口縁部に断面三角形の貼付突帯が施された逆 L 字形口縁の甕である。28 は口縁部下に篦描きもしくは櫛描きの多条沈線文が巡らされる。29 は外面に 7 条以上の篦描き沈線を施す。図 30 は口縁部がラッパ形に水平近くまで開く広口壺である。口縁部分はやや肥厚し、端面は横ナデ調整で面取りされている。31 は平底の甕の底部破片である。図 32 は厚さが 2㎝の大型壺の底部である。平底と考えられる。

図 16-1 は塩基性片岩製の板状素材で縁辺部を打ち欠いていることから石庖丁の未成品である。長さ 9.9cm、幅 5.9cm、最大厚 0.8cm、重量 73.2g を測る。図 16-2 は砂岩の円盤形の亜円礫を用いた敲石である。径 6.7cm。最大厚 2.2cm で縁辺部に敲打痕が残る。重量は 137.3g を測る。図 16-3 は塩基性片岩製の磨製柱状片刃石斧の破片である。破片のため全容はわからないが、残存長 6.3cm、幅 1.1cm、最大厚 0.6cm、重量 7.1g を測る。上面には研磨痕跡が残り、刃部は左側が特にすり減っており、片減りしている。

細片で図示できないが、古墳時代後期の須恵器体部破片が出土している。摩耗が激しく、器種や部位は不明であるが、奈良時代以降の須恵質土器ではない。

Ⅴ層出土遺物には、弥生土器とわずかに須恵器細片が混じる。弥生土器は前期末～中期初頭に位置づけることができる。一方、須恵器細片は、時期比定は難しいが、古墳時代後期の所産と考えられる。つまりⅤ層中に含まれる遺物の時期は、弥生時代前期末を主体にその下限は古墳時代後期である。

Ⅴ層は、古墳時代後期以降に発生した氾濫・土石流などにより土砂が急激に堆積したことにより形成したと考えられる。

5. まとめ

調査範囲が狭いものの、出土した流路は北東から南西に向かって流れていたことがわかった。持田 6･7 次調査の成果を踏まえると、Ⅴ層上面の起伏は、石手川の旧河道内に網の目状に形成された谷状の凹部の起伏である。Ⅴ層上面の凹部と流路は 12 世紀頃までにⅡ層によって埋積する。

二次堆積した遺物を含むⅡ層は、団地造成前の水田耕作土層となる。本調査では、削平や攪乱が激しく、畦などの水田に伴う遺構は確認できなかった。

以上から、次のような地形環境と変遷を復元することができる。

古墳時代後期以前は、土石流などの急激な堆積により、南東方向にのびるⅤ層の砂礫の起伏が谷状の凹部として形成する。調査区周辺は谷状の凹部が網目状に発達した地形環境を復元することができる。

Ⅲ層はそうしたⅤ層上面に細流した流路の堆積層である。

谷状の凹部と流路は、古代末以降にⅡ層によって埋積され、現状の地形に近い平坦な地形面を形成する。Ⅱ層上部は水田・畠として農耕地化が進み、団地造成前後に削平され、現代にいたる。　（柴田）

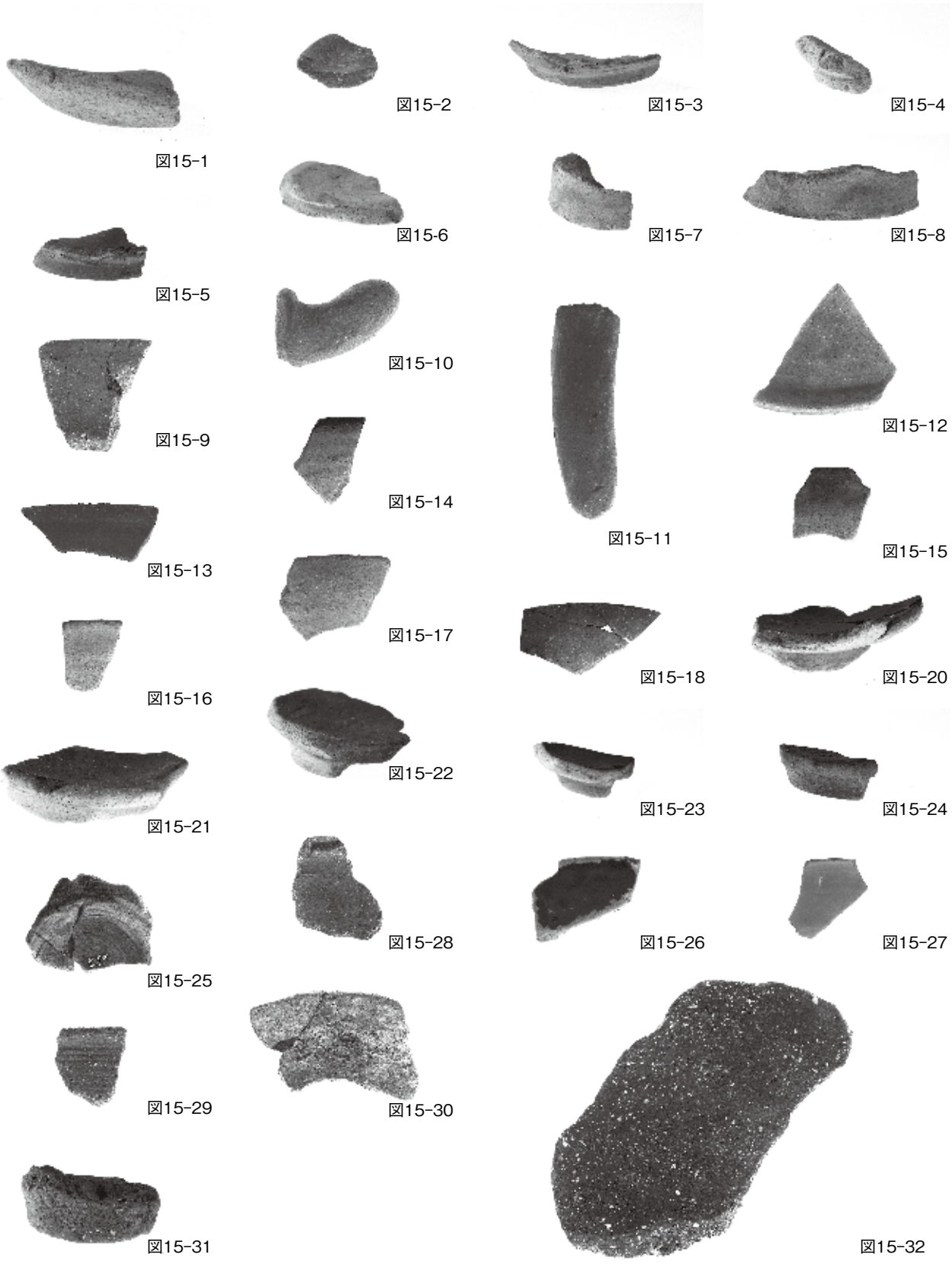


写真 119　持田遺跡 10 次調査　出土遺物 1

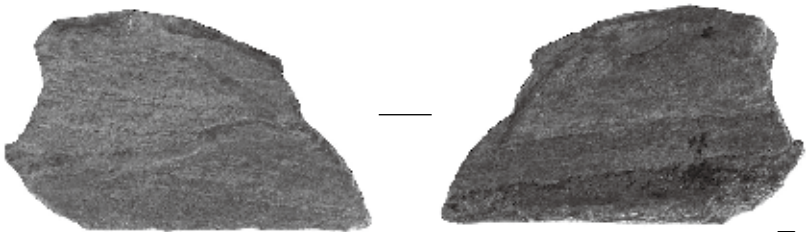


図16-1

図16-3

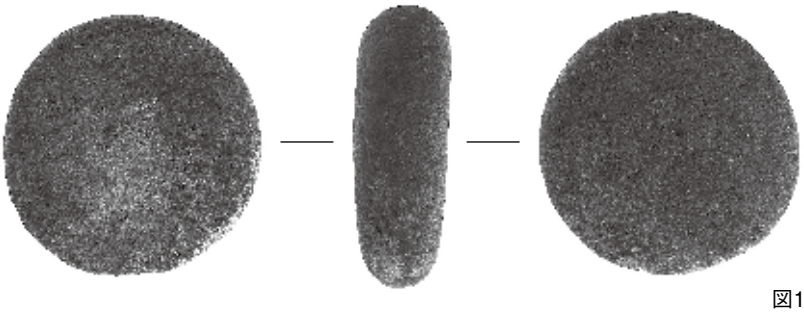


図16-2

写真 120　持田遺跡 10 次調査　出土遺物 2

01405　（城北団地）キャンパス環境整備工事（B ブロック歴史を学ぶ庭、図書館北側広場整備部分）に伴う文京遺跡 59 次発掘調査

調査地点　松山市文京町 3 番　城北団地内
調査面積　298.8㎡
調査期間　2014 年 8 月 23 日～ 2015 年 2 月 13 日
調査種別　本格調査
調査担当　柴田昌児・三吉秀充
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
（平成 26〈2014〉年 5 月 14 日付）

1. 調査に至る経緯

2014 年 5 月、施設基盤部から文京遺跡の保存地区であるグリーンプラザとし、大学正門からグリーンプラザに至る範囲をグリーンプロムナードとする環境整備工事に関連して、B ブロックとしてグリーンプラザから愛大ミュージアムに至る範囲を歴史の庭として整備する工事と図書館北側広場の環境整備工事を計画しているとの報告があった。5 月 14 日付で、施設基盤部から依頼があり、埋蔵文化財調査室は意見書を作成、8 月 12 日付で土木工事等届出書を提出した。これに対して、8 月 18 日付で愛媛県教育委員会から「発掘調査を必要とする範囲」「工事立会が必要となる範囲」「慎重に工事をする必要がある範囲」の指示があった（図 17）。「発掘調査を必要とする範囲」との指示があった該当工事地点については、8 月 19 日付で発掘調査届出書を提出し、受理したとの通知があった。これを受けて、工事に先駆けて 8 月 23 日から 2015 年 2 月 13 日にかけて断続的に調査を行った（図 17）。

調査区は図書館北側広場をⅠ区、歴史の庭をⅡ区として、発掘調査と工事立会を行った。

本報告は発掘調査の正式報告である。

2. 調査の記録

（1）基本層序

既往の調査成果で設定している基本層序Ⅰ～Ⅴ層に準じ、流路内埋土など調査地点で検出された遺構埋土はアラビア数字を付して分層している。

Ⅰ区では調査地点が窪地になっており、Ⅱ層の堆積層厚が約 80cm と厚く、Ⅱ -1 ～ 6 層に分層できる。いずれも水田層と考えられ、Ⅱ -2 層とⅡ -4 層に鉄・マンガンの沈着が認められる。その間層にはⅡ -3 層

表６　01404 調査（持田遺跡 10 次）出土遺物観察表

挿図		遺構	遺物の観察				遺物登録	遺物採り	遺物	収納
図	No.	／層位	種別	器種	外面色調	内面色調	番号	上げ番号	実測図No.	コンテナ
15	1	Ⅱ層	土師器	皿	にぶい黄橙色	褐灰色	R-001	R-21	2	1
15	2	Ⅱ層	土師器	皿	にぶい橙色	にぶい橙色	R-002	R-21	2	1
15	3	Ⅱ層	土師器	皿（円盤高台）	にぶい橙色	にぶい橙色	R-003	R-27	1	1
15	4	Ⅱ層	土師器	埦（円盤高台）	灰白色	浅黄橙色	R-004	R-24	1	1
15	5	Ⅱ層	土師器	埦（円盤高台）	にぶい褐色	にぶい橙色	R-005	R-23	1	1
15	6	Ⅱ層	土師器	埦（円盤高台）	灰白色	灰白色	R-006	R-8	1	1
15	7	Ⅱ層	土師器	埦（円盤高台）	にぶい橙色	にぶい橙色	R-007	R-22	2	1
15	8	Ⅱ層	土師器	壺	淡橙色	淡橙色	R-008	R-45	1	1
15	9	Ⅱ層	土師器	甕	灰黄褐色	にぶい黄橙色	R-009	R-24	1	1
15	10	Ⅱ層	土師器	把手	橙色	橙色	R-010	R-45	4	1
15	11	Ⅱ層	土師器	脚部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	R-011	R-17	4	1
15	12	Ⅱ層	須恵器	台付壺（脚部）	橙色	橙色	R-012	R-29	2	1
15	13	Ⅱ層	黒色土器	埦Ｂ類（両黒）	黒色	黒色	R-013	R-22	2	1
15	14	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	灰白色	黒色	R-014	R-21	2	1
15	15	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	灰白色	黒色	R-015	R-21	2	1
15	16	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	灰白色	黒色	R-016	R-10	1	1
15	17	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	灰白色	黒色	R-017	R-21	2	1
15	18	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	褐灰色	黒色	R-018	R-23	1	1
15	19	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	灰白色	黒色	R-019	R-8	1	1
15	20	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	灰白色	黒色	R-020	R-22	1	1
15	21	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	にぶい橙色	黒色	R-021	R-22	2	1
15	22	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	灰白色	黒色	R-022	R-24	1	1
15	23	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	灰白色	黒色	R-023	R-24	1	1
15	24	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	褐灰色	黒色	R-024	R-8	1	1
15	25	Ⅱ層	黒色土器	埦Ａ類（内黒）	灰白色	黒色	R-025	R-21	2	1
15	26	Ⅱ層	緑釉陶器	埦（洛西系）	緑釉	灰白色	R-026	R-10	2	1
15	27	Ⅱ層	白磁	埦　白磁５類	灰白色	灰白色	R-027	R-23	1	1
15	28	Ⅴ層	弥生土器	甕	橙色	淡黄色	R-028	R-40	3	2
15	29	Ⅴ層	弥生土器	甕	にぶい橙色	浅黄橙色＋橙色	R-029	R-18	3	2
15	30	Ⅴ層	弥生土器	広口壺	にぶい黄橙色	灰白色	R-030	R-32	3	2
15	31	Ⅴ層	弥生土器	甕	橙色	黄灰色	R-031	R-36	3	2
15	32	Ⅴ層	弥生土器	壺	黒褐色	浅黄色	R-032	R-15	3	2
16	1	Ⅴ層	石器（塩基性片岩）	石庖丁未成品			R-033	R-34	4	2
16	2	Ⅴ層	石器（砂岩）	敲石			R-034	R-32	4	2
16	3	Ⅴ層	石器（塩基性片岩）	柱状片刃石斧			R-035	R-45	4	2

のように洪水砂に起因する細粒砂層が含まれている層位も確認できる。

(2) Ⅰ区

図書館北側広場に当たるⅠ区は、Ⅱ区である歴史の庭予定地の既設のシェルター移設を中心とする工事である。大型のシェルター移設地点を1トレンチとして、小型のシェルター移設地点を2～5トレンチとした(図18)。

1トレンチでは、造成土と表土であるⅠ層を除去後、標高28.55cmでⅡ層を検出した。Ⅱ層は6層に分層ができる。Ⅱ-1層は層厚18cmのシルト層で、その下部でマンガン・鉄分が沈着した層厚20cmのⅡ-2層を検出した。Ⅱ-3層は層厚10cmの細粒砂の砂層で、上方細粒化が認められることから洪水砂に起因する堆積層である。その下部にはマンガン・鉄分が沈着した層厚15cmのⅡ-4層も細粒砂の砂層である。Ⅱ-3層と同様、上方細粒化が認められることから洪水砂に起因している可能性が高い。層厚12cmのⅡ-5層、層厚15cmのⅡ-6層も細粒砂の砂層である。

さらに下部の標高27.75mではシルト及び細粒砂の砂層からなる1～4層を検出した。2～3層にラミナが認められることから流路の堆積層である。堆積が層厚60cmを超える堆積層で地表下2mほど掘削したが、流路底面を確認することはできなかった。Ⅱ-1～6層及び1～4層からは遺物は出土していない(写真121・122)。

2トレンチでは、造成土と表土であるⅠ層を除去後、標高28.50cmでⅡ-1層があらわれた。地表下約90cmまで掘削したが、Ⅱ-2層の中に収まっていた。Ⅱ-1・2層からは遺物は出土していない(写真123)。

3トレンチでは、造成土と表土であるⅠ層を除去後、標高28.25cmでⅡ-1層があらわれた。地表下約90cmまで掘削したが、Ⅱ-2層の中に収まっていた。Ⅱ-1・2層からは遺物は出土していない(写真124)。

4トレンチでは、造成土と表土であるⅠ層を除去後、標高28.50cmでⅡ-1層が出土した。その下部にはマンガン・鉄分が沈着した層厚10cmのⅡ-4層、層厚5cmのⅡ-5層が出土、いずれも細粒砂の砂層で、上方細粒化が認められる。地表下約90cmまで掘削したが、その下部はⅡ-6層の中に収まっていた。Ⅱ-1・4～6層からは遺物は出土していない(写真125)。

5トレンチでは、造成土と表土であるⅠ層を除去後、標高28.30cmでⅡ-1層があらわれた。層厚18cmのⅡ-1・2層の下位では他のトレンチでは検出されなかった黄褐色シルトのⅣ層を確認できた。地表下約90cmまで掘り下げたが、Ⅳ層が続く。遺物は出土していない(写真126)。

(3) Ⅱ区

歴史の庭であるⅡ区では、パーゴラ基礎工事部分、街灯路基礎工事部分、排水管設置に伴う掘削工事部分を6～8トレンチとし、9月24日～26日に調査を行った(図19)。

6トレンチはパーゴラ基礎工事部分で、工事計画では現地表下74cmまでの掘削が予定されていた。調査では、重機を用いて現地表下66cmまでⅠ・Ⅱ層を掘り下げ(写真127)、直下で基本層序Ⅳ層を検出した(写真128)。施設基盤部職員と、工事ではこれより下部への掘り下げを行わないこと、調査停止面上に保護土層を敷き、掘削停止面以下を現状保存することとした。

7トレンチは排水管設置に伴う掘削工事部分である。県教育委員会による指示では、北側は工事立ち会いの指示であったが、南側の発掘調査地点と一連のものとして調査を行った(写真129)。工事計画では、現地表下67cmまでの掘削が予定されていた。調査では、重機を用いて現地表下65cmまで掘り下げ、団地造成土であるⅠ層、近現代の水田層であるⅡ層の調査を行った(写真130～133)。施設基盤部職員と、工事ではこれより下部への掘り下げを行わないこと、調査停止面上に保護土層を敷き、掘削停止面以下を現状保存することとした。

8トレンチはパーゴラ基礎工事部分、街灯路基礎工事部分、排水管設置に伴う掘削工事部分であり、工事計画では現地表下63～74cmまでの掘削が予定されていた。調査では、重機を用いて現地表下72cmまで掘り下げ、団地造成土であるⅠ層、近現代の水田層であるⅡ層が続くことを確認した(写真134～136)。施設基盤部職員と、工事ではこれより下部への掘り下げを行わないこと、調査停止面上に保護土層を敷き、掘削停止面以下を現状保存することとした。

3. まとめ

Ⅰ区では1～4トレンチにかけて谷状の地形と考えられる。層厚75cmのⅡ-1～6層が堆積している。Ⅱ-1・2層は近世以降の水田層である。Ⅱ-3～6層は00502調査の成果を参照すると、中世段階を下限とする水田層である。1トレンチでⅡ-6層の下位で検出

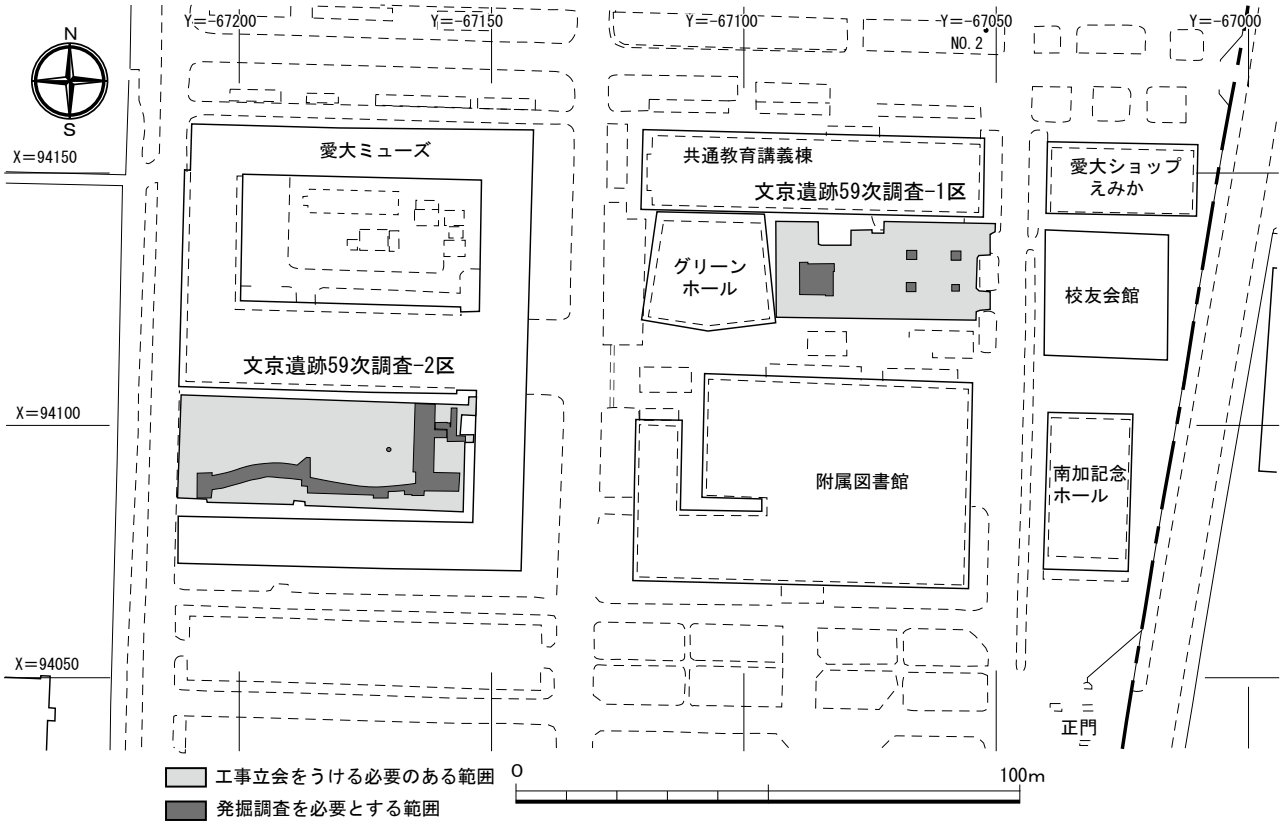


図 17　01405 調査（文京遺跡 59 次）愛媛県教育委員会の指示による調査範囲

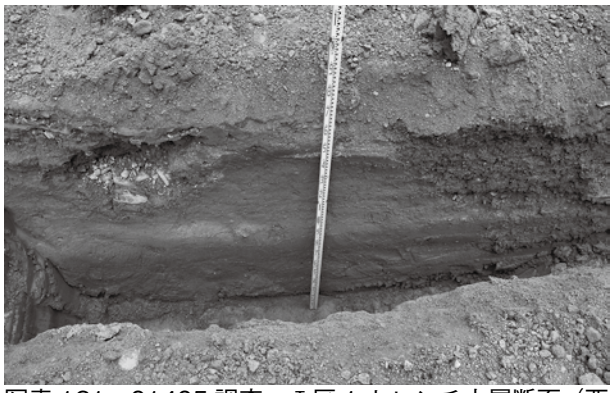


写真 121　01405 調査　Ⅰ区 1 トレンチ土層断面（西から）

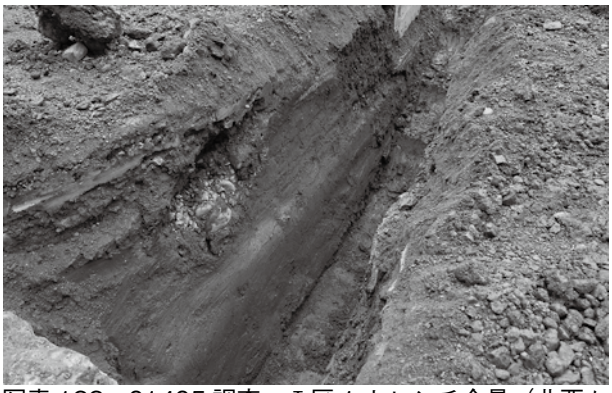
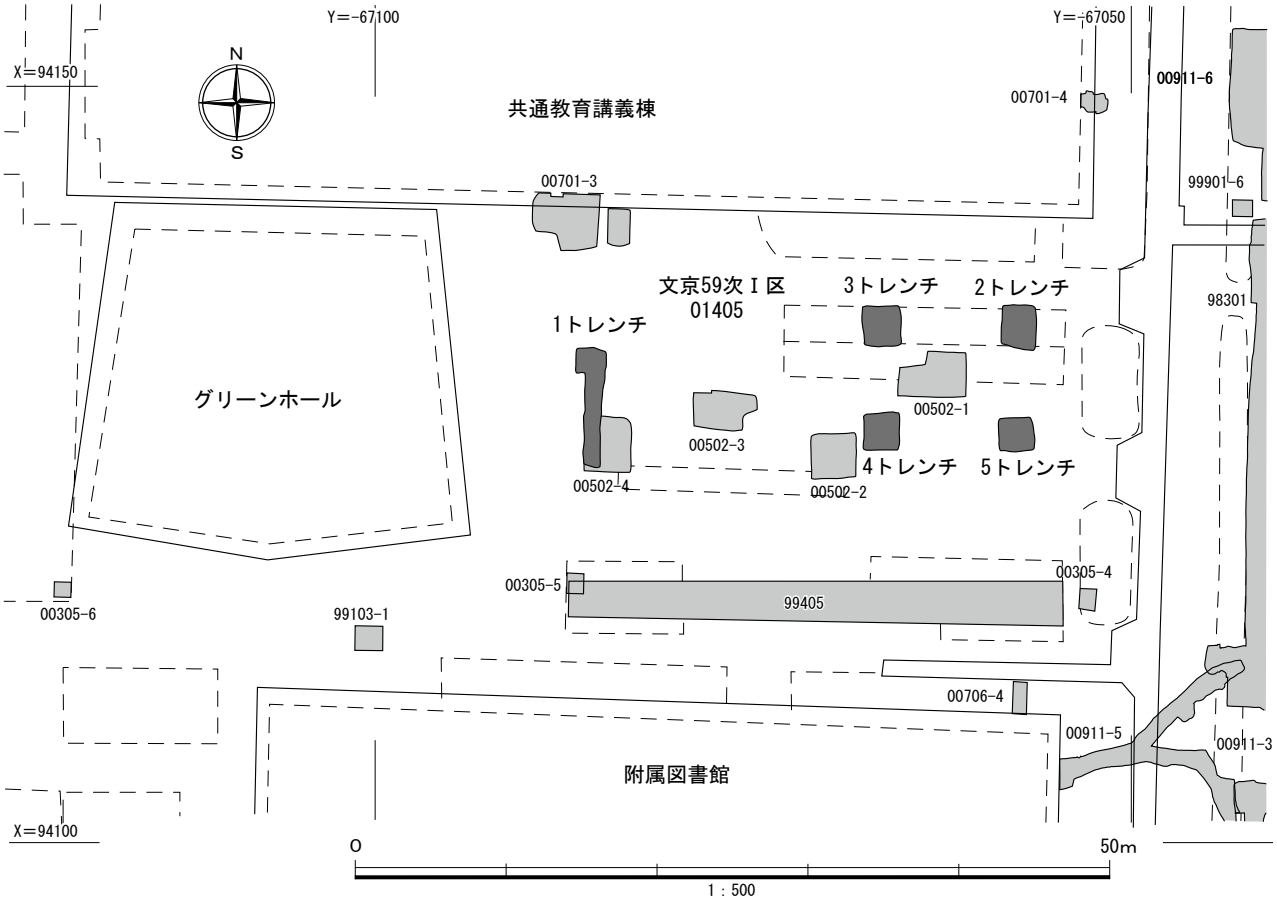
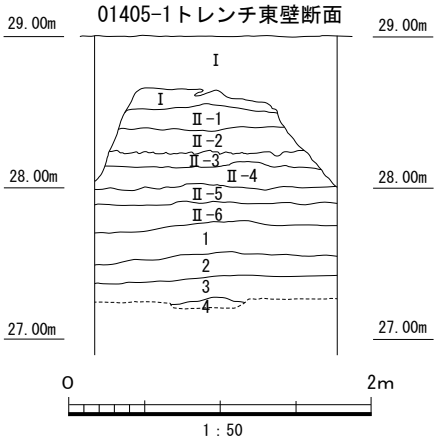


写真 122　01405 調査　Ⅰ区 1 トレンチ全景（北西から）

写真 123　01405 調査　Ⅰ区 2 トレンチ土層断面（南から）

写真 124　01405 調査　Ⅰ区 3 トレンチ土層断面（南から）





Ⅰ層　　造成土・表土
Ⅱ-1 層　にぶい褐色粘性シルト層
Ⅱ-2 層　灰黄褐色シルト層（マンガン・鉄分沈着）
Ⅱ-3 層　暗灰黄色細粒砂層（洪水砂）
Ⅱ-4 層　黄褐色粘性細粒砂層（マンガン・鉄分沈着）
Ⅱ-5 層　暗灰黄色粘性細粒砂層
Ⅱ-6 層　にぶい黄色シルト質細粒砂層
1 層　灰黄褐色砂質シルト層（流路埋土）
2 層　暗灰黄色細粒砂層（流路埋土）
3 層　明黄褐色細粒砂層（流路埋土）
4 層　灰黄色細粒砂層（流路埋土）
Ⅳ層　　黄褐色シルト層

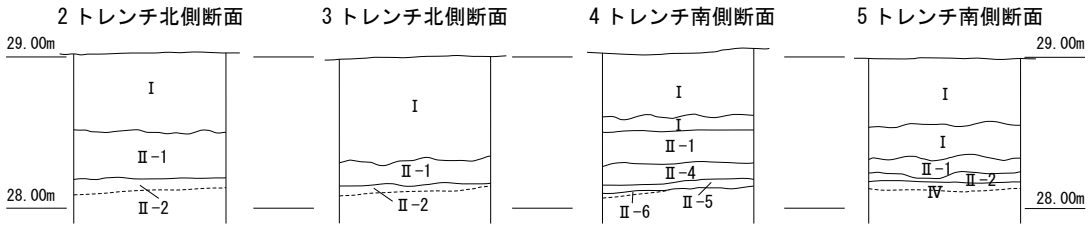


図18　01405調査（文京遺跡59次）Ⅰ区平面図(縮尺1/500)・柱状図（縮尺1/50）

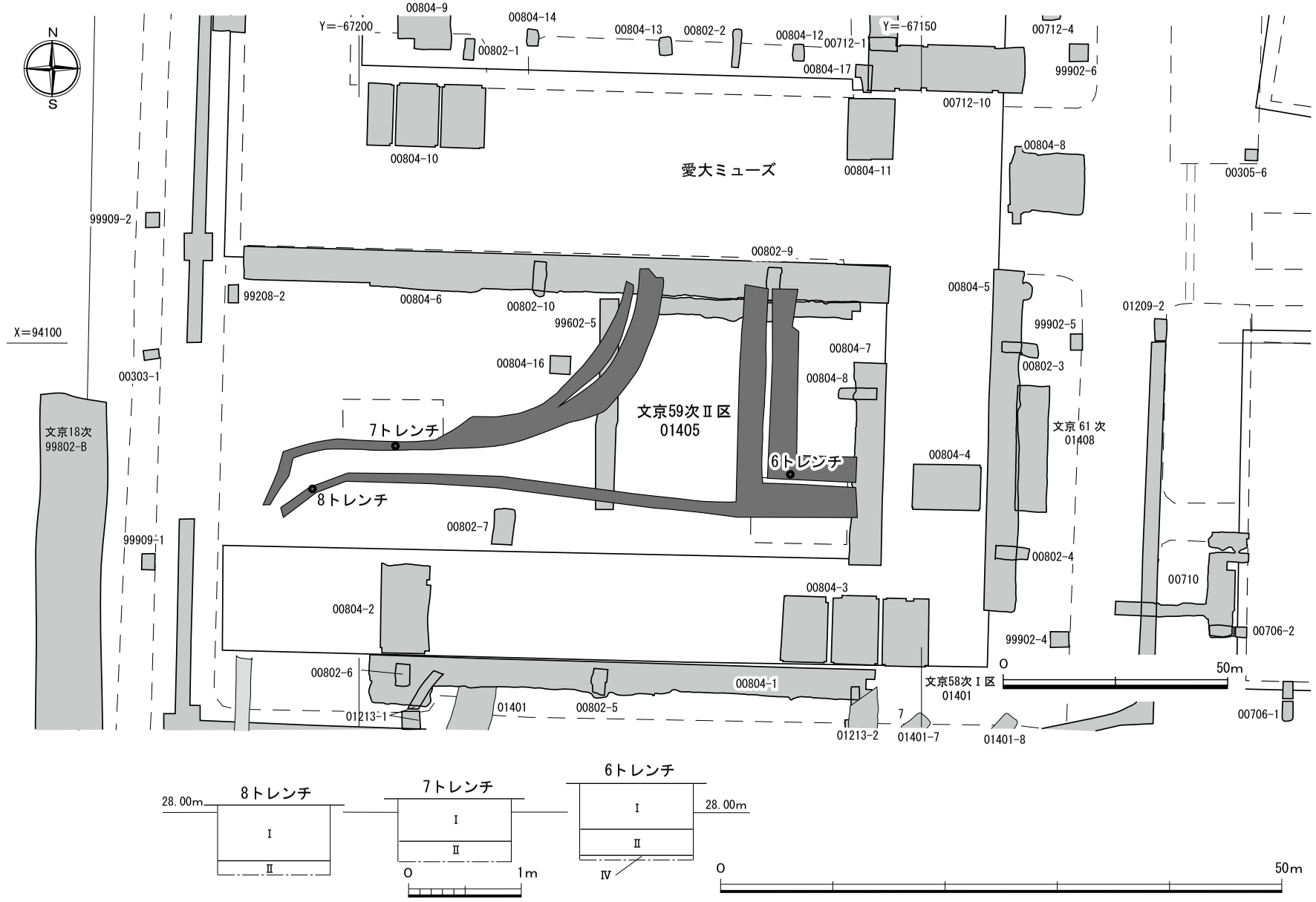


図 19　01405 調査（文京遺跡 59 次）Ⅱ区平面図（縮尺 1/500）・土層柱状図（1/50）

写真 125　01405 調査　Ⅰ区 4 トレンチ土層断面（北から）

写真 126　01405 調査　Ⅰ区 5 トレンチ土層断面（北から）

写真 127　01405 調査　Ⅱ区 6 トレンチ完掘状況（南西から）

写真 128　01405 調査　Ⅱ区 6 トレンチ南壁土層断面（北から）

写真 129　01405 調査　Ⅱ区 7 トレンチ北部完掘状況（南から）

写真 130　01405 調査　Ⅱ区 7 トレンチ中央部完掘状況（東から）

写真 131　01405 調査　Ⅱ区 7 トレンチ中央部北壁土層断面（南から）

写真 132　01405 調査　Ⅱ区 7 トレンチ西部完掘状況（東から）

写真 133　01405 調査　Ⅱ区 7 トレンチ西端部土層断面（東から）

写真 134　01405 調査　Ⅱ区 8 トレンチ東部完掘状況（北西から）

写真 135　01405 調査　Ⅱ区 8 トレンチ中央部南壁土層断面（北から）

写真 136　01405 調査　Ⅱ区 8 トレンチ西部完掘状況（北から）

した流路は、出土遺物がなく、層位関係から古代以前に形成されたものと考える。また、本調査区での南東隅である 5 トレンチにおいてⅣ層が検出されたことから谷状の地形は北西に向かって傾斜することが判明した。流路もそれに沿っている可能性が高い。今回の調査では工事による埋蔵文化財への影響がない深度と箇所では現状保存している。将来、調査地点周辺で掘削を伴った工事を行う際には、発掘調査が必要である。

Ⅱ区では、6 トレンチの一部で基本層序Ⅳ層を検出し、7・8 トレンチでは基本層序Ⅱ層を確認した。調査停止面以下については、工事による埋蔵文化財への影響がないと判断できることから、現状保存している。

（柴田・三吉）

01406　（城北団地）生協売店改修工事（城北事務センター 1 生協売店増築部分）に伴う文京遺跡 60 次発掘調査

調査地点　松山市文京町 3 番　　城北団地内
調査面積　約 135㎡
調査期間　2014 年 9 月 29 日～ 2014 年 11 月 7 日
調査種別　本格調査
調査担当　三吉秀充
調査補助　田中いづみ・宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成 26〈2014〉年 6 月 11 日付）

1. はじめに

2014 年 2 月、施設基盤部から城北事務センター 1 の改修計画中である旨の報告があった。既存建物の柱基礎データがないため、3 月 7 日に試掘調査（調査番号：01311）を行うこととした。試掘調査では、現地表下 70 ～ 73㎝で文京遺跡基本層序Ⅲ層、その直下でⅣ層を確認し、3 月 18 日付けで施設基盤部に報告した。この報告に基づき、施設基盤部で工事計画が策定され、6 月 11 日付けで正式な調査依頼があった。埋蔵文化

財調査室では意見書を作成し、6 月 17 日付けで土木工事等届出書を提出した。それを受けた愛媛県教育委員会からの指示が 6 月 30 日付けにあり、7 月 7 日付けで発掘調査届出書を提出し、7 月 9 日付けで受理したとの通知があった。発掘調査は 9 月 29 日に着手した。

調査期間中には、学部共通教育における臨地講義（写真 153）、高校生による職場体験学習としても利用された（写真 154）。

2. 調査の記録

(1) 調査区の区割りと調査経過

調査では、建物本体部分を 1 区、西側に隣接する桝設置部分を北から 2 区、3 区、4 区、5 区とした。調査は 1 区から調査に着手した。重機を用いてⅠ・Ⅱ層を掘り下げ、Ⅲ層以下については人力で調査を進めた。同時に、1 区の調査区北壁、東壁に沿って先行トレンチを設定し、調査区内の土層の堆積状況を確認した。特に、調査区北壁での観察では、Ⅳ層中に後述するように古土壌層であるⅣ- 2 層を確認できた。古土壌（Ⅳ-2 層）は灰白色細粒砂～極細粒砂の砂層（Ⅳ-1 層）に覆われており、旧地表面が残存していることが予想された。さらに北壁ではⅣ-2 層下底面に、深さ 10 ～ 20cmの凹みが 1.5 ～ 2 m間隔で落ち込みが見られることから、畠の畝である可能性も考えた。この落ち込みの底には、後述の凹み③にあたる断面「V」や「レ」字形の深さ 5 ～ 10cmの凹みも確認できた。

Ⅲ層の調査を進め、Ⅳ-1 層上面で自然流路 1 条と溝 1 条、土壙 1 基、小穴 4 基を検出した。埋土の特徴、層序関係、出土遺物などから弥生時代～古墳時代の遺構と考えられる。続いて、人力でⅣ-1 層を掘り下げ、Ⅳ-2 層上面を検出した。Ⅳ-2 層上面で調査区全体の遺構精査を行ったが、遺構は確認できなかった。調査区南半部ではⅣ-2 層を精査しながら掘り下げ、Ⅳ-3 層上面で土壙 6 基、小穴 3 基を確認した。調査区北半部では、Ⅳ-2 層を数cm単位で掘り下げ、その都度平面的に精査を行い、何らかの人為的な掘り込み痕跡の有無を確認することを試みた。しかし、Ⅱ層起源の草木根痕以外に、他に人為的な掘り込み痕跡と判断できるものは確認できなかった。北壁土層ではⅣ-2 層底面に大小の凹みが見られるのに対して、平面的に確認できないことから、部分的にしか存在していないことが予想された。そこで、調査区北端部に設けた先行トレンチに平行して、東西方向に先行トレンチを新しく設けて精査した結果、径 20 ～ 50cm、深さ約 10cmの凹みが東西方向に点々を続くことを確認できた。ここで確認した凹みと北壁土層（写真 146・147）、東壁土層に見られるⅣ-3 層上面の凹みとの対応関係から、調査区の北東方向から南西方向へ溝状に続くことが予想できた。この凹みに直交するように、北西－南東方向を軸として土層観察畦を 3 地点に設け、観察畦に接して先行トレンチを設定し、Ⅳ-2 層を掘り下げ、Ⅳ-3 層上面で凹みを精査した。しかし、溝状に凹みが連なるような状況は確認できなかった。北半部全体でⅣ-2 層を掘り下げ、Ⅳ-3 層上面で大小の凹みが不連続に広がることを確認した。当初、畠の畝と想定していた落ち込みは、このⅣ-3 層上面に見られる大小の凹みが、規則的に掘り込まれているように見えていたことによるものであった。Ⅳ-2 層には炭化物が混じり、種子と考えられるものも見られることから、Ⅳ-2 層の土壌をすべて採集し、埋蔵文化財調査室に持ち帰り、水洗選別を行うこととした。また、室内における土層観察を目的として、Ⅳ-2･3 層の切り取り（サンプル 1、約 113cm× 29cm、厚さ 7 cm）、北壁土層の切り取り（サンプル 4、約 93cm× 46cm、厚さ 10cm）を行っている（写真 148）。また、Ⅳ-3 層上面では、掘削痕跡と考えられる凹みが見られることから、サンプル 2（約 30cm× 20cm、深さ 10cm）、サンプル 3（約 50cm× 30cm、深さ 15cm）として切り取り、調査室に持ち帰ることとした。2 ～ 5 区は、1 区の調査と併行して、調査期間後半の 10 月 22 日～ 11 月 5 日に調査を行った。

(2) 層序

各調査区内で文京遺跡の基本層序であるⅠ層（近現代の造成土）、Ⅱ層（古代～近世の水田層）、Ⅲ層（弥生時代～古墳時代の包含層）、Ⅳ層（縄文時代の包含層）を確認できた（図 20）。Ⅳ層は、さらにⅣ-1 層（灰白あるいは明黄褐色細砂～極細砂）、Ⅳ-2 層（灰黄褐色シルト）、Ⅳ-3 層（明黄褐色極細砂層）に細分できる。Ⅳ-1 層・Ⅳ-2 層は、これまでの調査成果から縄文時代晩期後半の堆積層と考えられる。Ⅳ-3 層は縄文時代晩期後半以前の堆積層である。Ⅳ-2 層は淘汰が悪く、Ⅳ-3 層を起源とする明黄褐色土の径約 1 ～ 2cmの丸い小塊やレンズ状の小塊がごくごく少量混じる。また、砂礫が多く混じり、下部には直径 6cmの大きな円礫が見られ、自然堆積とは考えられない。また、炭化物が小片の状態で混じる。Ⅳ-2 層下底面は、幅 80cm前後の凹み（後述の凹み①、以下同じ）や 5 ～ 15

cm前後の凹み（凹み②）によって大きく波打ち、さらに凹みの底面には幅5～10cmの小さな凹み（凹み③）が多数見られた。

(3) 出土遺構と遺物

1）1区

①Ⅳ-1層上面検出遺構（図21・写真137・138）

自然流路1条（SR-1）と溝1条（SD-2）、土壙1基（SK-3）、小穴4基（SP-4～7）を検出した。後述するように弥生時代～古墳時代の遺構である。

SR-1（写真139・140）：調査区の東から西にのび、南北幅は約8.5ｍである。Ⅳ-1層上面で検出したが、西壁土層での観察ではⅢ層を切っていることを確認できた。北岸の立ち上がりは、攻撃面と考えられ、直立気味もしくはオーバーハングしている。一方、南岸はなだらかに立ち上がり、かつ大きく蛇行する。調査区壁の崩落の危険性があったため、全体の調査は現地表下120cmまでに止め、調査区西壁に沿って一部深掘りトレンチを設け、現地表下213cmでSR-1の底面となるⅣ-3層を確認した。

埋土は灰色の砂礫、砂質土の互層堆積であり、流水を示すラミナが見られる。弥生土器壺の底部片が1点、焼土塊が出土している。SK-3に切られる。古墳時代後期以降に位置づけられる。

SD-2（写真141）：調査区南部、南西から北東方向へのびる幅45～55cm、深さ12cmの溝である。北東部にはテラス状の高まりが見られる。埋土は灰黄褐色シルトで、浅黄色砂質土の丸いブロックが混じる。一辺5㎜ほどの炭化物片や縄文土器小片が出土している。

SK-3：調査区中央部、SR-1を切る。南北約100cm、東西約80cmの隅丸方形状の土壙である。検出面であるⅣ層上面からの深さは8cm。埋土は灰黄褐色シルトで、径0.3～2㎜の砂礫が多く混じる。SR-1を切っていることから、古墳時代後期以降に位置づけられる。

SP-4：調査区南部で検出した長径55cmの長楕円形の小穴である。埋土は暗灰黄色シルト。SD-2に切られる。

SP-5：調査区南西部、西壁沿いで検出した径23cmの円形の小穴である。埋土の上層である①層は暗灰シルト、下層の②層は暗灰色シルトで、浅黄色の丸いブロックが混じる。

SP-6：調査区南西部の西壁近くで検出した径30～34cmの歪な円形の小穴である。埋土は暗灰シルト。

SP-7：調査区南壁土層で確認した径34cmの小穴である。埋土は暗灰シルト。

②Ⅳ-3層上面検出遺構（図22）

調査着手後に設けた先行トレンチにおける土層観察から、調査区の北半部では、古土壌であるⅣ-2層は灰白色細粒砂～極細粒砂であるⅣ-1層に覆われており、旧地表面が残存していることも予想された。一方、南部ではⅣ-1層が明黄褐色シルトであり、Ⅳ-2層上面は一部削平されていると考えられた。以下、南半部と北半部とにわけて報告する。

［**南半部の調査**（写真142・143）］

調査区南半部ではⅣ-2層を数回にわたって掘り下げ、Ⅳ-3層上面で土壙6基（SK-103～108）と小穴3基（SP101・102・109）を検出した。遺構やⅣ-2層から出土遺物から縄文時代晩期後半の遺構に位置づけられる。検出した遺構は以下の通りである。

SK-103：長径89cm、短径53cmの長楕円形の掘り形をもつ。深さ1.3cm。埋土はにぶい黄褐色砂質土で、粗粒砂がやや多く混じる。

SK-104：長径48cm、短径35cmの長楕円形の掘り形をもつ。深さ13cm。埋土はにぶい黄褐色砂質土で、径1～5㎜の砂礫を多く含む。

SK-105：長軸65cm、短軸38cmの長楕円形の掘り形をもつ。深さ15cm。底部は2段になっており、東側に1段高くテラス状に残る。埋土は暗褐色砂質シルトである。

SK-106：南北140cm、幅35～50cm、深さ8cm前後の溝状の遺構を検出した。底面には長軸10～20cm、幅7～13の掘り込み痕跡が見られた。埋土はにぶい黄褐色砂質土である。

SK-107：東側にある微高地状の高まりの裾部に掘り込まれた土壙である。長辺165cm、短辺100cmの方形の掘り形をもち、北東部に突出部がある。深さは13cmを測る。埋土は2層からなり、上層の①層は粗粒砂が多く混じる黒褐色砂質土である。下層の②層はにぶい黄褐色砂質土である。

SK-108：東半部は攪乱で破壊されていた。長軸143cm、残存幅40cm、深さ9cmの掘り形の土壙である。埋土は暗褐色砂質土である。

SP-101・109：埋土はにぶい黄褐色砂質土。粗粒砂がやや多く混じる。検出段階では1つの小穴と考えていたが、最終的には2つの小穴となった。西側（SP-101）は径38～40cmの円形、深さ10cmである。東側（SP-109）は調査区外へと続く。径27cm～27cm

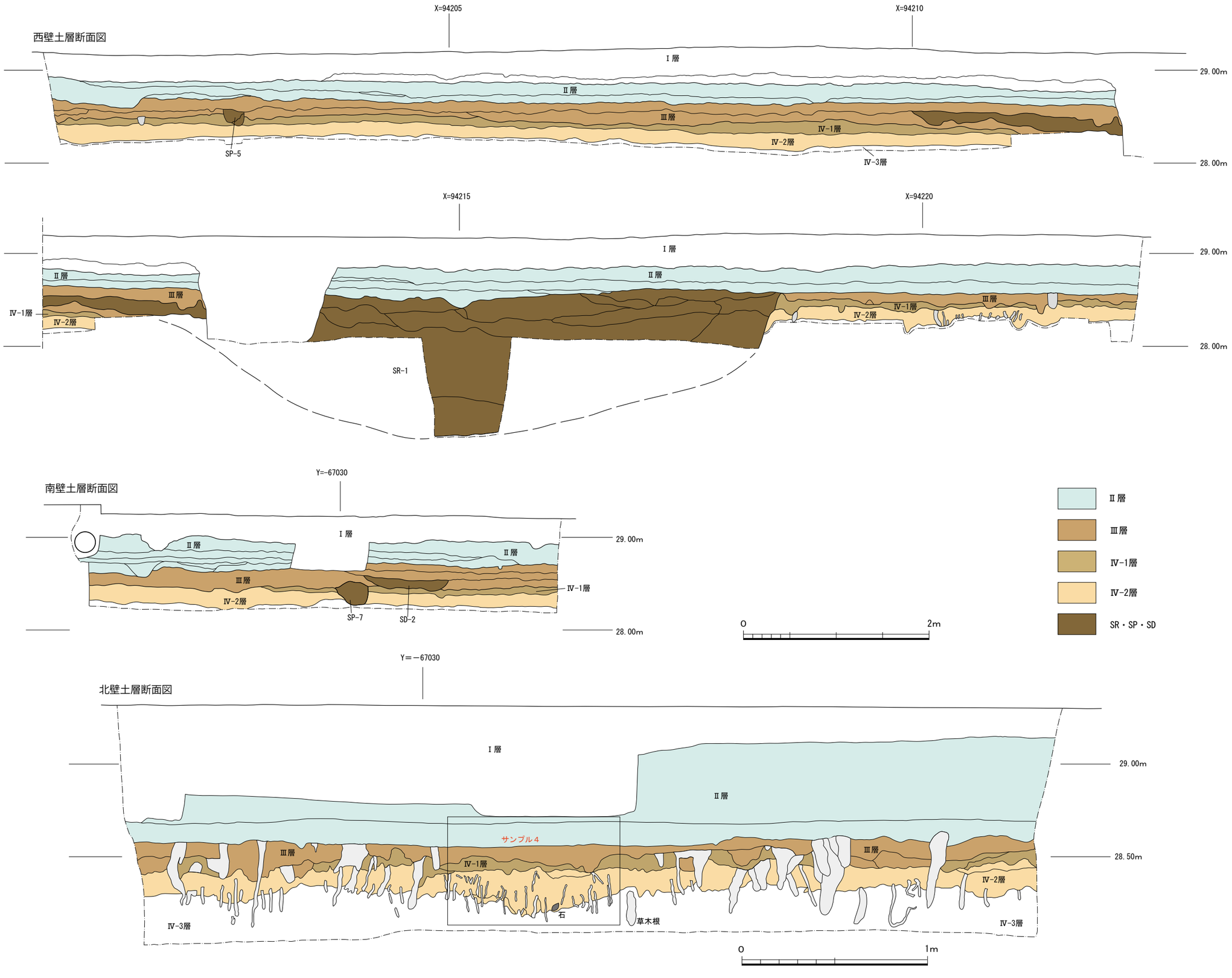


図 20　01406 調査（文京遺跡 60 次）西壁・南壁土層断面図（縮尺 1/40）・北壁土層断面図とサンプリング位置図（縮尺 1/20）

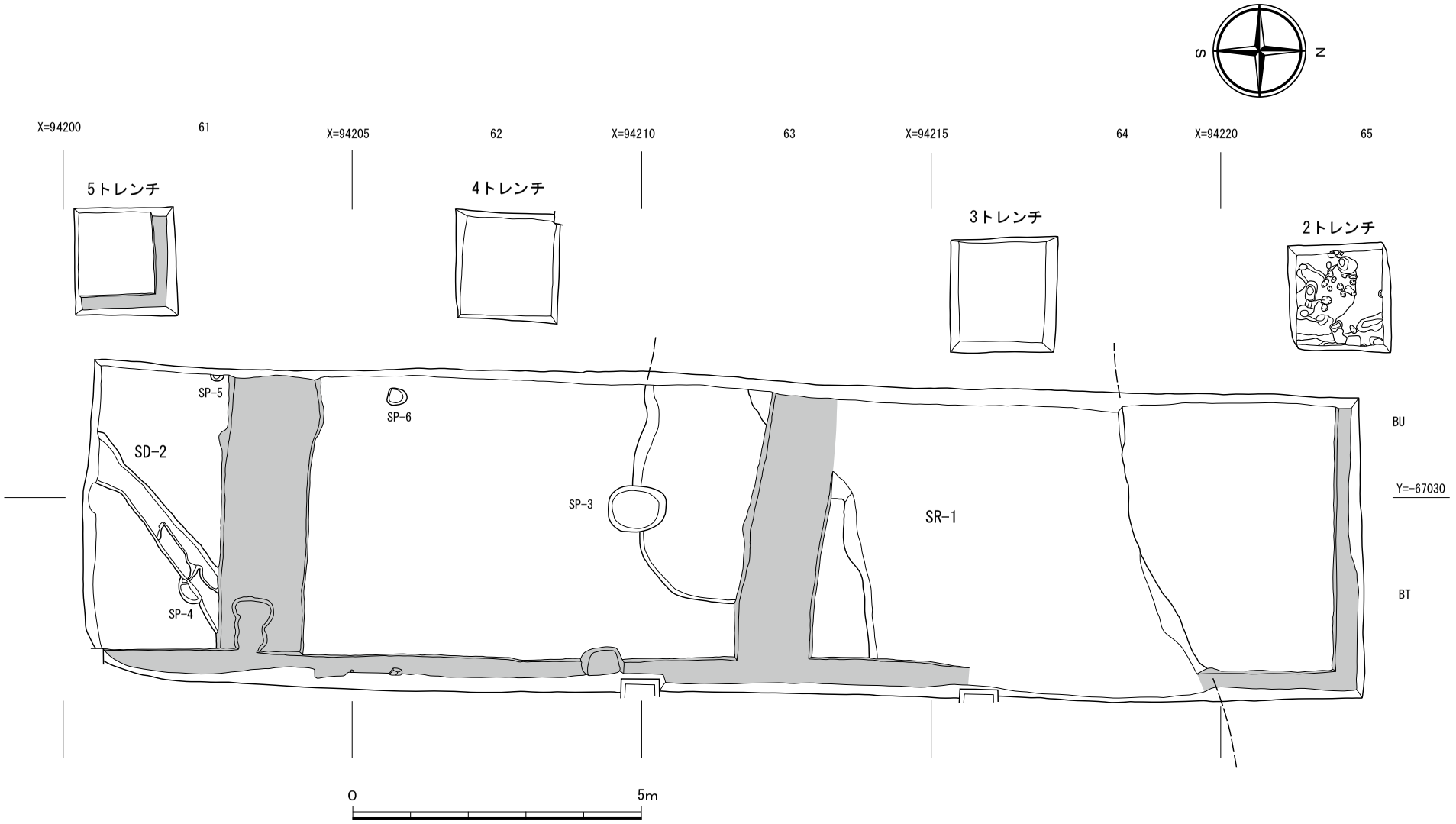


図 21　01406 調査（文京遺跡 60 次）Ⅳ-1 層上面遺構平面図（縮尺 1/100）

以上の長楕円形で深さ5cmである。

SP-102：径38～42cmの円形。深さ4cm。埋土はにぶい黄褐色砂質土。粗砂をやや多く含む。

［北半部の調査］

北半部では、Ⅳ-2層を数cm単位で掘り下げ、その都度平面的に精査を行い、何らかの人為的な掘り込み痕跡の有無の確認に努めた。Ⅳ-2層中では人為的な掘り込みの痕跡と判断できるものは検出できなかったが、Ⅳ-3層上面で大小の凹みを確認できた。凹みには凹み①、凹み②、凹み③、凹み④の4者がある。凹みの埋土はいずれもⅣ-2層と同質のもので、しまりがある。凹み①は、幅80cm前後の大きな凹みである。凹みは②は､幅5～15cmの小さな凹みである。凹み①･②の底面は直線的ではなく、小さな凹凸が見られる。凹み①・②は地点で深さも異なり、溝として掘られたものではなく、大小の凹み①・②が不規則に重なり合う状況を確認できた（写真144・145)。凹み③は、凹み①･②の底面で確認できた平面形が長さ12～15cm、幅5～10cmの隅丸の長底辺三角形で、底辺に直交して断面が「V」や「レ」字形を呈する凹みで、掘削痕跡の可能性を考えた。また、一箇所に集中するのではなく、一定の間隔を置きながら分布する。凹み①・②の底面で見られることから、凹み③は凹み①・②が形成される一連の活動の中で生成された痕跡と考えられる。凹み④は平面形が径20～50cm前後の楕円形で深さ10～20cmの穴状のものである。埋土には、柱痕跡などは見られず､基盤のⅣ-3層との境は漸移的である。植物の根痕である可能性が高い。

Ⅳ-2層からは炭化物片や小指先～親指先大の縄文土器小片が少量出土している。

2）2区（図22、写真149)

雨水枡設置工事部分の最北端に位置し、南北約1.75m、東西約1.83mの調査区である。現地表下約77cm、標高28.52mまで重機を用いてⅠ・Ⅱ層の掘り下げを行い、直下でⅢ層を検出した。Ⅲ層以下は人力で調査を進めた。Ⅲ層は黒褐色シルトで、西壁土層中から弥生土器の壺の破片が出土した。層厚は6～16cm。

Ⅲ層直下でⅣ層を検出した。Ⅳ層はⅣ-1～3層からなる。Ⅳ-1層は東側に隣接する1区北端部に共通して灰色砂質土で、層厚は7～14cmである。Ⅳ-2層は暗褐色砂質シルトで古土壌である。層厚は11～20cmであるが、調査区北東隅部では層厚40cmである。Ⅳ-3層上面で長さ12～15cm、幅5～10cmの長楕円形状で、断面形が「レ」字形の凹みを検出した。1区北端部で確認している凹み③と同じものである。

調査では、調査区の一部を現地表下128cm、28.01mまで掘り下げ、にぶい黄褐色シルトからなるⅣ-3層が続き、遺構・遺物が出土しないことを確認した。

3）3区（図22、写真150)

雨水枡設置工事部分に当たる。南北約1.8m、東西約1.85mの調査区である。現地表下約55cm、標高28.65mまで重機を用いてⅠ・Ⅱ層の掘り下げを行い、直下でⅢ層を検出した。Ⅲ層以下については人力で調査を進めた。なお調査区の西側は既設配管設置時の掘削によって破壊されていた。

Ⅲ層はⅢ-1層とⅢ-2層とからなる。Ⅲ-1層は砂礫が多く混じり、調査区の北東部に広がる。Ⅲ-2層は砂礫が混じらない。

Ⅳ層はⅣ-1～3層からなる。Ⅳ-1層はにぶい黄褐色シルトで、層厚は14～20cmである。Ⅳ-2層は暗褐色砂質シルト。古土壌である。14～18cmの層厚である。Ⅳ-3層はにぶい黄褐色砂質土。粗粒砂～細粒の砂層。現地表下108cm、標高28.17mでⅣ-3層を確認した。

4）4区（図22、写真151)

雨水枡設置工事部分である。南北約1.85m、東西約2.0mの調査区である。現地表下約55cm、標高28.65mまで重機を用いてⅠ・Ⅱ層の掘り下げを行い、直下でⅢ層を検出した。Ⅲ層以下については、人力で調査を進めた。

Ⅲ層は層厚20～35cmである。暗茶褐色砂質土で径2mm～1cmの角のある砂礫をやや多く含む。調査区の西側は既設配管設置時の掘削によって破壊されていた。Ⅲ層直下でSR-1を調査区全面で検出し、現地表下118cm、標高27.98mまで掘り下げを行った。SR-1の上層は灰黄褐色砂礫層で、3cm大の角の取れた砂礫を多く含む。SR-1の下層は暗灰黄色粗砂層である。遺物は出土していない。

5）5区（図22、写真152)

雨水枡設置工事部分の最南端に位置し、南北約1.8m、東西約1.9mの調査区である。現地表下約55cm、標高28.70mまで重機を用いてⅠ・Ⅱ層の掘り下げを行い、直下でⅢ層を検出した。Ⅲ層以下については、

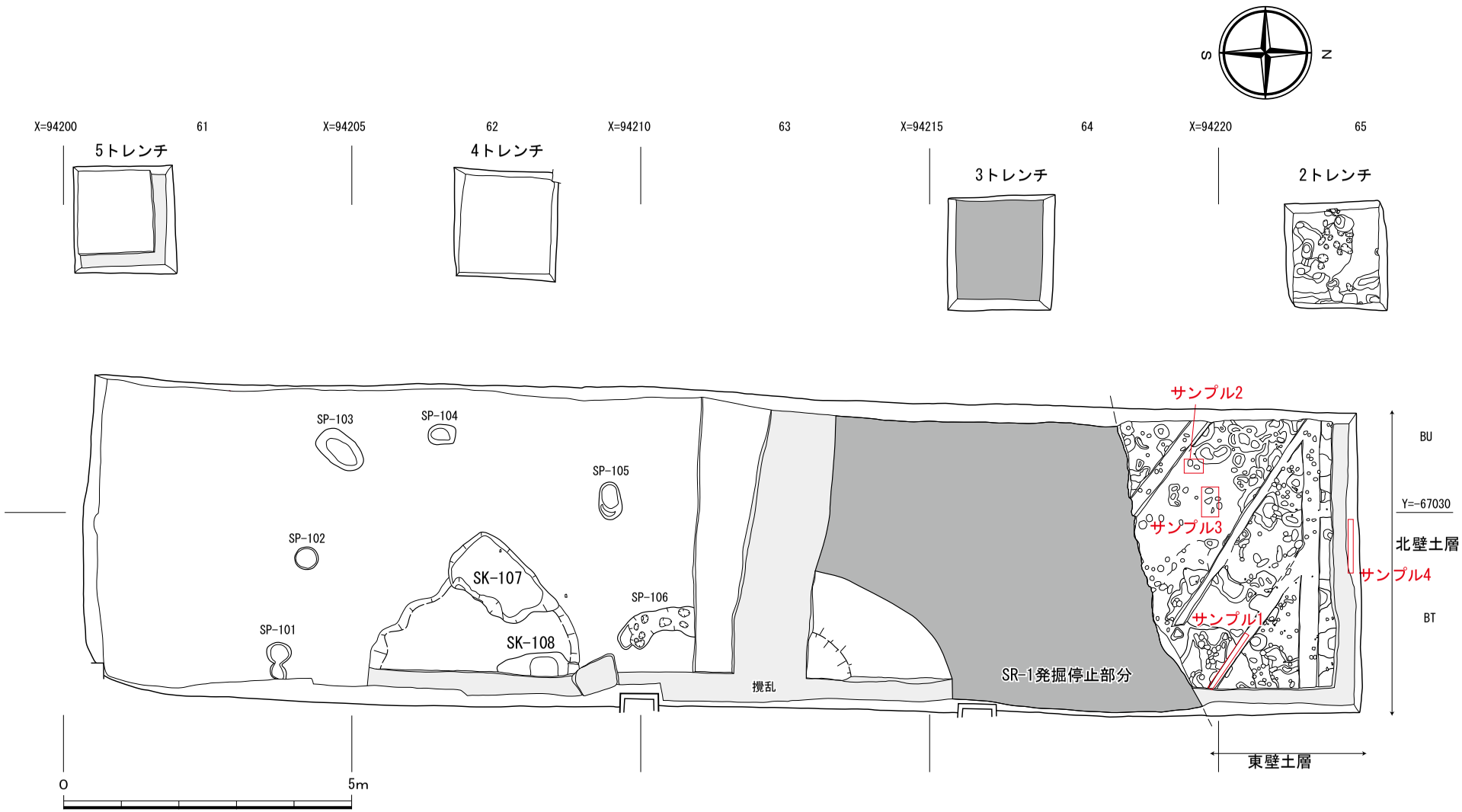


図 22　01406 調査（文京遺跡 60 次）Ⅳ-3 層上面検出遺構配置図とサンプリング地点位置図（縮尺 1/100）

人力で精査を進めた。

Ⅲ層は、Ⅲ-1層とⅢ-2層とからなる。Ⅲ-1層は暗褐色砂質土で、径1～5㎜大の砂礫が多く混じる。Ⅲ-2層は暗褐色シルトで、砂礫がほとんど混じらない。調査区東壁土層中央部で幅約25cm、深さ約15cmの落ち込みを、さらにその南側で幅約60cm、深さ約10cmの落ち込みを確認できた。平面では明確な掘り込み輪郭ラインを確認できていないことから自然の落ち込みと考えておく。Ⅲ層中から弥生土器・土師器片が少量出土している。

Ⅲ層直下でⅣ層を検出した。Ⅳ層はⅣ-1層～Ⅳ-4層からなる。Ⅳ-1層はにぶい黄褐色シルトで径1～2㎜大の砂礫をごく少量含む。1区北側に堆積するⅣ-1層とは大きく異なる。3cm～10cmの層厚である。Ⅳ-2層は暗褐色砂質シルトで、径5㎜～1cm大の角張った炭化物がごく少量出土した。8～20cmの層厚である。

古土壌であるⅣ-2層の調査を終えた後、下層に堆積するⅣ-3・4層の調査を目的として調査区内北壁および東壁沿いに25～30cm幅で深掘りを行った。Ⅳ-3層はにぶい黄褐色砂質土で、中砂～細砂層である。Ⅳ-4層は、にぶい黄褐色砂質土で、細砂層である。Ⅳ-3層・Ⅳ-4層は上方粗粒化を示す。調査区内北西部ではⅣ-4層の高まりがあり、北東部にかけて落ち込み、その落ち込み部にⅣ-3層が堆積している。Ⅳ-4層を現地表130cmまで掘り下げを行い、遺構・遺物が出土しないこと確認した。

3. まとめ

今回の調査では、①Ⅳ-1層上面で弥生時代～古墳時代の自然流路、溝、土壙、小穴、②縄文時代晩期後半に位置づけられる古土壌（Ⅳ-2層）、③Ⅳ-3層上面で縄文時代晩期後半に位置づけられる土壙6基と小穴3基を確認した。

これらの成果の中でも、1区北部や2区周辺で検出した古土壌であるⅣ-2層は注目される。その特徴をまとめると、以下の通りである。

1）Ⅳ-2層は、シルトが主体であるが、砂礫やⅣ-3層を起源とする小塊がごく少量混じるだけではなく、自然の営為によって持ちこまれたとは考えられない直径6cmの円礫も見られる。

2）Ⅳ-2層から採集した炭化物片も、木材片としてではなく、小片の状態で混じって出土している。炭化物が集中する地点もあることから、Ⅳ-2層の古土壌が人為的に混ぜられた結果によるものと考えた。

3）Ⅳ-3層上面に分布する凹み①・②の底面では掘削痕跡の可能性もある凹み③が見られる。一箇所に集中せず、一定の間隔を置きながら分布し、凹み①・②が形成される一連の活動の中で生成された痕跡と考えられる。

4）凹み①・②の底面は、小さな凹凸が見られ、住居や柱穴などの掘削行為に伴う掘り返しとは異なる。

以上から、Ⅳ-2層中やⅣ-3層上面に見られる痕跡は、人為的な撹拌活動によって生成されたものと位置づけられる。縄文時代晩期後半段階における人間活動と関連づけて考えると、畠における作土の掘り返し作業の可能性などを挙げることができる。現在、弥生時代以降の畝立されない畠は確認されていない。畝立しない畠がないのか検証しなければならない。現在、遺構、土層の一部を切り取ったサンプル1～4を、考古学、地質学的な視点から、精査･分析している。また、Ⅳ-2層の水洗選別によって微細炭化物を採取しており、樹種の同定作業を進めている。これらの分析を踏まえて、Ⅳ-2層中、Ⅳ-3層上面に残された人為的な撹拌活動の内容について今後明らかにしたい。

（三吉）

写真137　01406調査　1区Ⅳ層上面遺構検出状況（南西から）

写真138　01406調査　1区北半部Ⅳ層上面検出遺構完掘状況（南西から）

写真 139　01406 調査　SR-1 完掘状況（南西から）

写真 140　01406 調査　SR-1 西壁土層（北東から）

写真 141　01406 調査　SD-2 完掘状況（北東から）

写真 142　01406 調査　１区南部Ⅳ－３層上面検出遺構完掘状況（南から）

写真 143　01406 調査　１区南部Ⅳ－３層上面検出遺構完掘状況（北から）

写真 144　01406 調査　１区北端部Ⅳ－３層検出状況（北から）

写真 145　01406 調査　１区北端部Ⅳ－３層検出状況（南西から）

写真 146　01406 調査　１区北壁土層（南から）

写真 147　01406 調査　１区北壁土層断面（南から）

写真 148　01406 調査　遺構切り取り作業

写真 149　01406 調査　２区完掘状況（西から）

写真 150　01406 調査　３区 SR-1 完掘状況（西から）

写真 151　01406 調査　４区完掘状況（西から）

写真 152　01406 調査　５区完掘状況（南から）

写真 153　01406 調査　共通教育における臨地講義風景

写真 154　01406 調査　高校生による職場体験学習風景

01407 （樽味団地）附属高校実習室改修工事に伴う樽味遺跡 14 次発掘調査

調査地点　松山市樽味 3 丁目 305 番の一部
樽味団地内
調査面積　1.5㎡
調査期間　2014 年 11 月 26 日
調査種別　本格調査
調査担当　三吉秀充
調査補助　田中いづみ・宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
（平成 26〈2014〉年 7 月 23 日付）

1. 調査に至る経緯

2014 年に附属高校実習室改修工事が実施されることとなり、8 月に実施した試掘調査（01403 調査）の結果を踏まえて 2014 年 8 月 22 日付で意見書を作成し、9 月 2 日付で土木工事届出書を提出した。9 月 9 日付で愛媛県教育委員会から発掘調査と工事立会の指示があった（図 23）。

発掘調査の指示があったのは、校舎北側の雨水枡工事地点 2 カ所と校舎南東部周辺における芝張り工事地点である。施設基盤部と調査日程を調整し、校舎北側の雨水枡工事地点の調査を 11 月、校舎南東部周辺に改修工事の足場が設置されていることから、その他の工事地点の調査を 2015 年 2 月以降に実施することとした。その後、12 月に施設基盤部から校舎南東部周辺で防球ネット設置工事を計画しているとの連絡があった。工事対象地点は、9 月 9 日付で愛媛県教育委員会から発掘調査と指示された地点に含まれており、芝張り工事では現状の地表面を掘り下げる工事がないことから、01409 調査に含めて発掘調査を実施することとした。

2. 調査の記録

工事立会の指示があった地点については、2014 年 11 月 25 日と 2015 年 1 月 27 日に実施した。11 月 25 日には北西部側溝桝部分の工事立会（写真 159 ～ 164）、北西部側溝部分の工事立会（写真 165・166）を行い、埋蔵文化財への影響がないことを確認した。1 月 27 日に北西部電灯基礎工事の工事立会（写真 167 ～ 170）、北部管路工事立会（写真 171 ～ 174）、北西部管路工事立会（写真 175 ～ 178）を行い、埋蔵文化

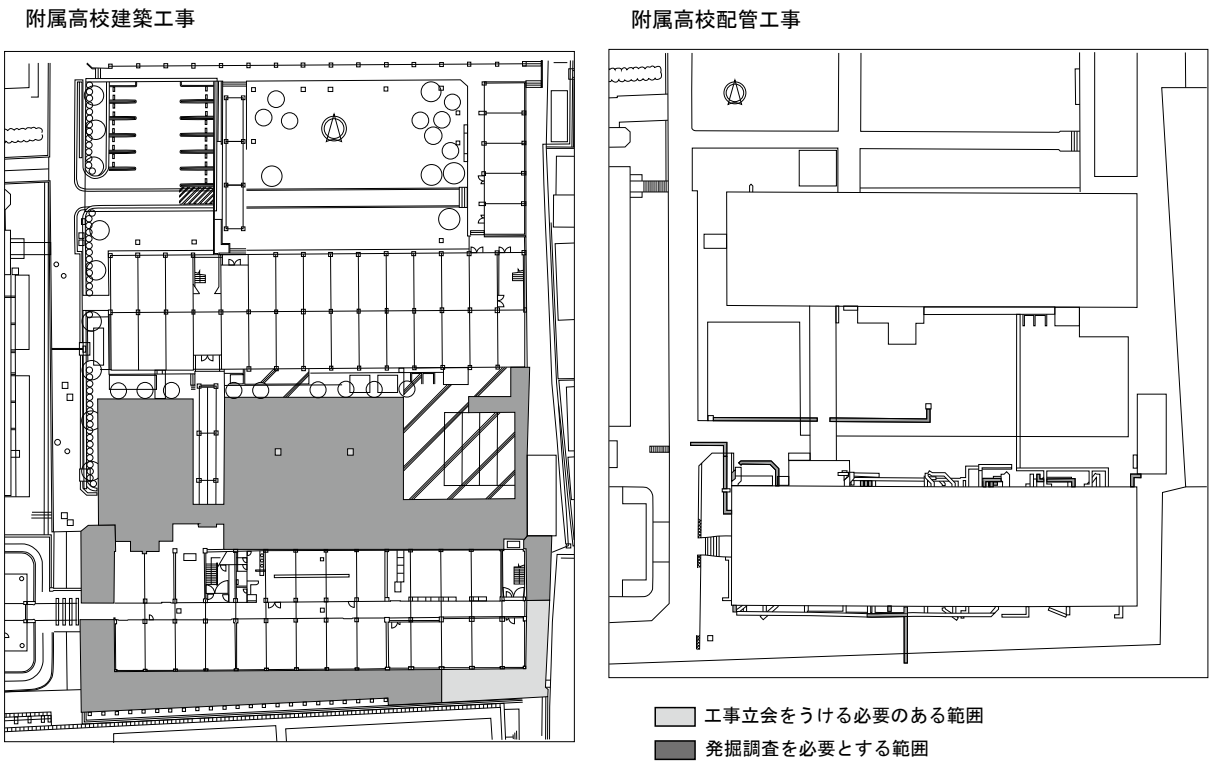


図 23　01407 調査（樽味遺跡 14 次）愛媛県教育委員会の指示による調査範囲

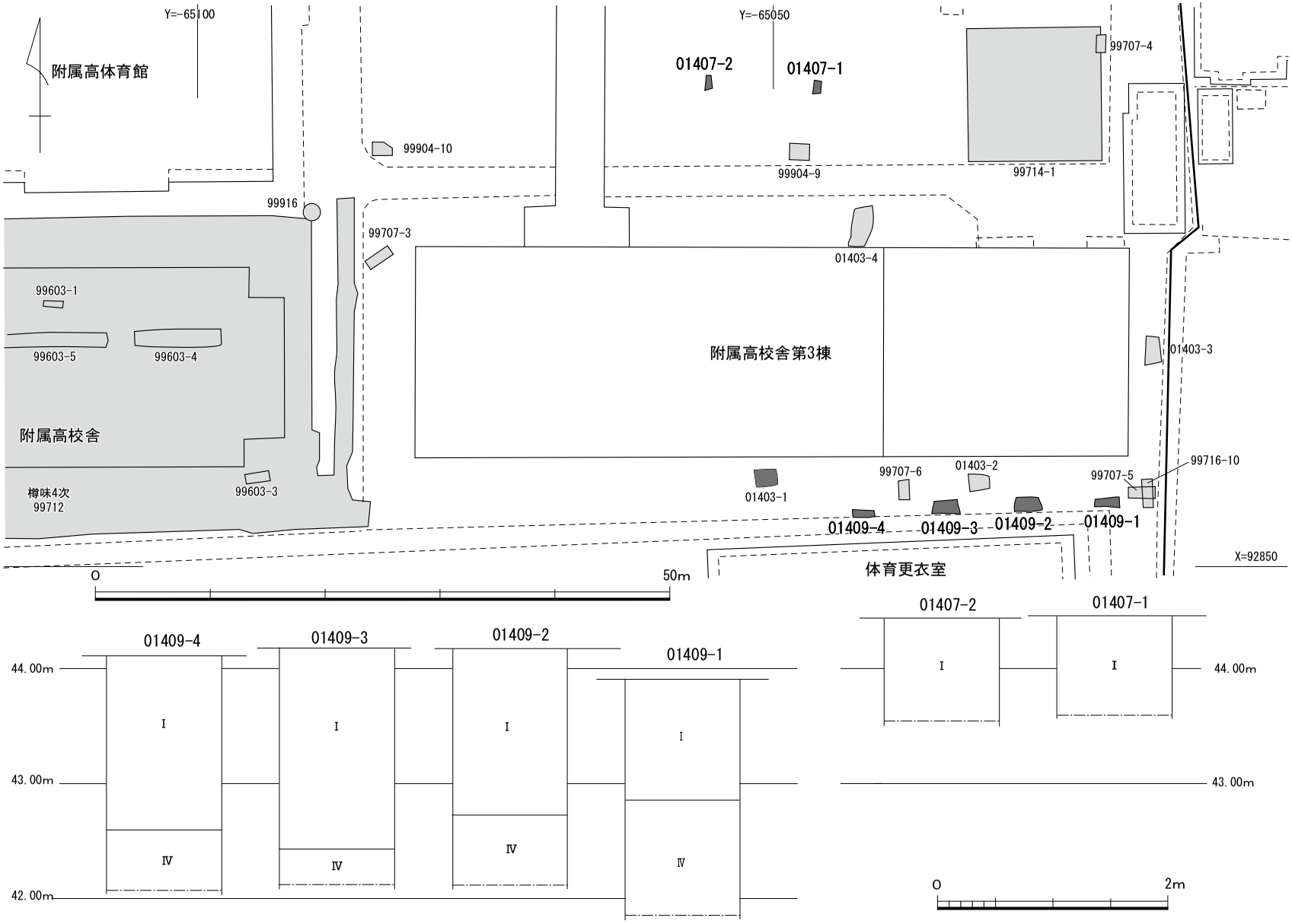


図 24　01407 調査（樽味遺跡 14 次）・01409 調査（樽味遺跡 15 次）地点位置図（縮尺 1/500）・土層柱状図（縮尺 1/50）

写真 155　01407 調査　1 トレンチ全景（南西から）

写真 156　01407 調査　1 トレンチ土層断面(東から)

写真 157　01407 調査　2 トレンチ全景（南から）

写真 158　01407 調査　2 トレンチ土層断面(東から)

写真 159　01407 調査　北西部側溝桝部分工事立会地点（北西から）

写真 160　01407 調査　北西部側溝桝部分工事立会土層断面（北から）

写真 161　01407 調査　北西部側溝桝部分工事立会地点（南から）

写真 162　01407 調査　北西部側溝桝部分工事立会土層断面（南から）

写真 163　01407 調査　北西部側溝桝部分工事立会地点（北から）

写真 164　01407 調査　北西部側溝桝部分工事立会土層断面（西から）

写真 165　01407 調査　北西部側溝部分工事立会地点（西から）

写真 166　01407 調査　北西部側溝部分工事立会土層断面（南西から）

写真 167　01407 調査　北西部電灯基礎工事立会地点（西から）

写真 168　01407 調査　北西部電灯基礎工事立会地点（南西から）

写真 169　01407 調査　北西部電灯基礎工事立会地点（南から）

写真 170　01407 調査　北西部電灯基礎工事立会地点（南東から）

写真 171　01407 調査　北部管路工事立会地点（東から）

写真 172　01407 調査　北部管路工事立会地点（東から）

写真 173　01407 調査　北部管路工事立会地点（北から）

写真 174　01407 調査　北部管路工事立会地点（西から）

写真 175　01407 調査　北西部管路工事立会地点（北西から）

写真 176　01407 調査　北西部管路工事立会土層断面（北から）

写真 177　01407 調査　北西部管路工事立会土層断面（西から）

写真 178　01407 調査　北西部管路工事立会土層断面（北東から）

財への影響がないことを確認した。

発掘調査地点は雨水枡工事地点に当たる。東側から西に向かって1トレンチ、2トレンチとした（図24）。

1トレンチでは、現地表下88㎝、43.58ｍまで調査を行い、瓦礫を伴う表土層（樽味遺跡の基本層序Ⅰ層）が続いていることを確認した（写真155・156）。

2トレンチは、現地表下90㎝、43.52ｍまで調査を行い、瓦礫を伴う表土層（Ⅰ層）が続いていることを確認した（写真157・158）。

3. まとめ

調査地点の東側の99707調査4トレンチでは、現地表下100㎝、標高43.47ｍでⅣ層が出土している。調査地点西側の99904調査10トレンチでは、現地表下140㎝、標高43.15ｍまで瓦礫を伴うⅠ層が続くことを確認している。以上から、今回の調査地点周辺では、Ⅲ層あるいはⅣ層との間に10㎝前後の土層を確保されていると判断できる。調査中止面以下については現状保存することとした。（三吉）

01408（城北団地）キャンパス環境整備工事（ルーバーウォール，既設モニュメント移設等追加）に伴う文京遺跡61次発掘調査

調査地点　松山市文京町3番　城北団地内
調査面積　112.08㎡
調査期間　2014年12月8日～12月24日
調査種別　本格調査
調査担当　柴田昌児
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
（平成26〈2014〉年10月21日付）

1. 調査に至る経緯

2014年10月、施設基盤部から文京遺跡の保存地区であるグリーンプラザ、大学正門からグリーンプラザに至るグリーンプロムナード環境整備工事に追加して、ルーバーウォールの設置、既設モニュメントの移設工事を計画している旨の報告があった。10月21日付で、施設基盤部から依頼があり、意見書を作成し、10月28日付で土木工事等届出書を提出した。これに対して、11月5日付で愛媛県教育委員会から「発掘調査を必要とする範囲」「工事立会が必要となる範囲」の指示があった（図25）。発掘調査が必要な工事地点については、11月12日付で発掘調査届出書の提出を行い、11月21日付で届出を受理したとの通知があった。これを受けて、工事に先駆けて12月8日～12月24日に発掘調査を実施した（図25）。

本報告は発掘調査の正式報告である。

2. 調査の経過

12月8日、調査区範囲を設定、重機による掘削と併せて、調査区壁面で土層の堆積状況を確認した。併行して基準点の移動を行う。9日、遺構検出を実施し、Ⅳ層上面でSD-01～03・SX-01を確認し、検出状況写真を撮影した。まず、攪乱の人力掘削を行う。11日、攪乱の掘削が終了し、改めて遺構検出状況写真を撮影した。12日より溝を中心に遺構の掘り下げを行う。遺構および攪乱の平面図測量を実施する。SD-01を完掘した。15日、SX-01より弥生土器が出土したので、出土状況の詳細図を作成し、写真撮影の上で、取り上げた。17日、SX-01とSD-03の堆積層が、隣接する文京遺跡36次調査（00804調査）のSX-507と同一の堆積層であることを確認する。午後、遺構完掘写真を撮影した。18日、Ⅳ層以下の縄文時代の遺構・遺物を確認するため、調査区東側壁面に沿ってトレンチを設け、人力掘削で礫層であるⅤ層まで掘り下げるが、遺構・遺物は確認できなかった。午後、トレンチ壁の堆積状況を精査したうえで断面写真を撮影した。19日は調査区西壁面の土層堆積状況を観察し、断面写真を撮影したあと、測量を実施した。24日、全ての調査を終了し、機材を埋蔵文化財調査室に撤収した。

3. 調査の記録

（1）調査地点の位置

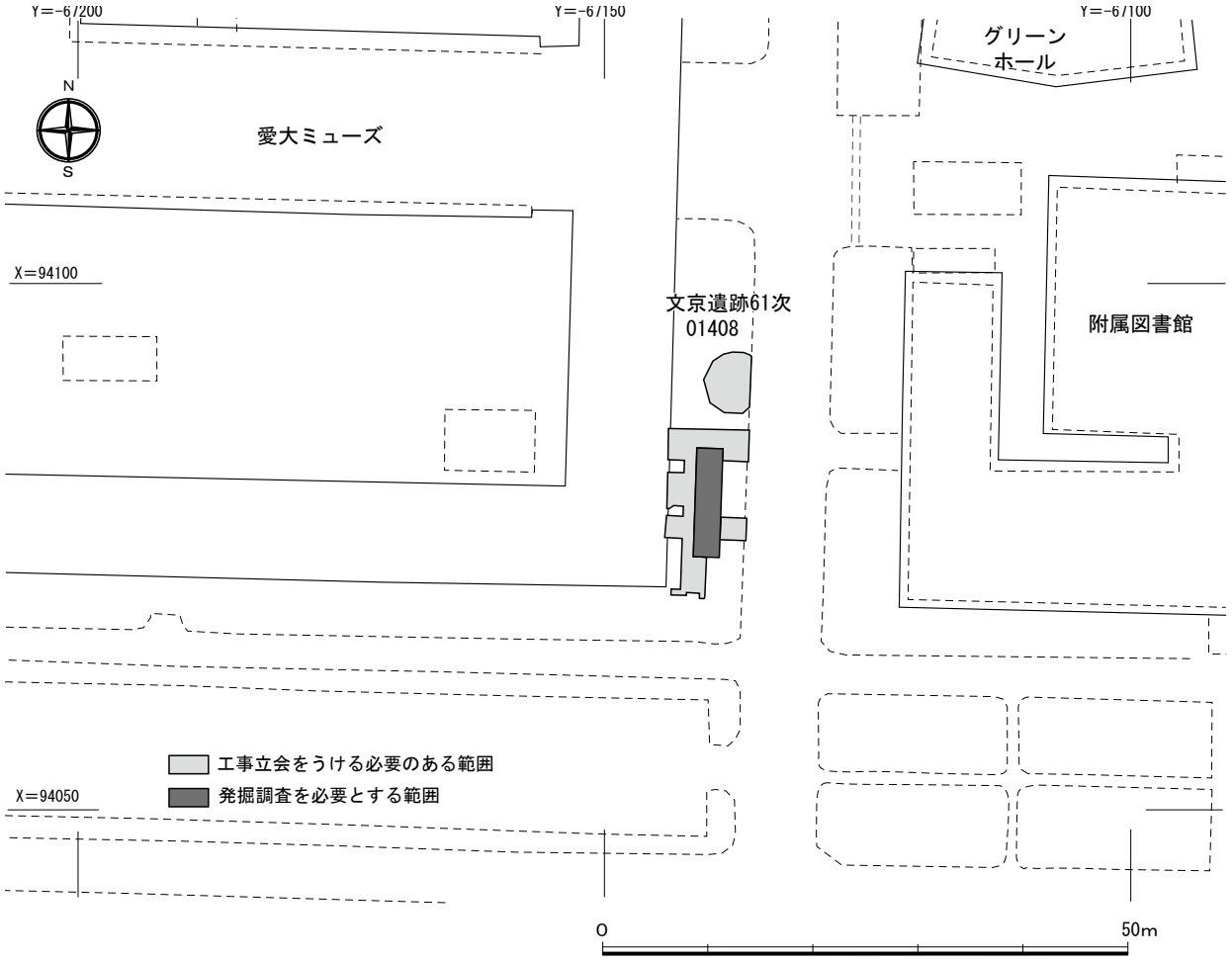


図25　文京遺跡61次（01408調査）愛媛県教育委員会の指示による調査範囲

調査地点は、城北団地の中央に位置し、愛大ミューズ東側でアクアカフェ北東側に位置する（図 25）。調査区西側は文京遺跡 36 次調査（00804 調査）Ⅴ区に接している（図 26）。

（2）基本層序

既往の調査成果で設定している基本層序Ⅰ～Ⅴ層を確認できた。層厚約 40㎝のⅠ層、層厚 10 ～ 15㎝のⅡ層、層厚 10㎝のⅢ層を経て、標高 27.75m でⅣ層上面に到達する。

その中でⅣ層は 3 層に分層できる。Ⅳ -1 層は、黄褐色シルト層である。Ⅳ -2 層は、Ⅳ -1 層である黄橙色シルトのブロックを含む灰黄褐色シルト層である。調査区南側ではⅣ層の層厚は薄く、南東側ではⅣ層が無いところもあり、下位のⅤ層がⅢ層直下（標高 27.70m）であらわれた。調査区北側ではⅣ層の層厚は厚くなり、最大で 82㎝を測り、底面は標高 27.10m を測る。

Ⅴ層は、花崗岩を主体とする黄灰色砂礫層で、一部に粗粒砂のラミナ堆積が認められる。

検出された遺構埋土はアラビア数字を付している（図 27）。調査区東壁を断面 a-b、調査区西壁を断面 c-d とし、a･b･c･d のセクションポイントは図 26 に図示している。

（3）出土遺構と遺物

検出された遺構は SD-01 ～ 03 と SX-01 である。

SD-01: 調査区北半部に位置する。幅 60㎝の溝で、直線的にのびる。36 次調査（00804 調査）Ⅴ区 SR-505 と考える（図 26）。調査区東壁（図 27 断面 a-b）の 1 層である砂礫が混じる暗灰黄色砂質シルト層が SD-01 に当たる。溝底面は東端で標高 27.663m、西端で標高 27.648m を測り、西に向かって僅かであるが低くなる。出土遺物はない。

SD-02: 調査区のほぼ中央で出土した溝である。幅 70 ～ 85㎝を測り、やや蛇行しながら東西に延びる。遺構上部は SD-03 北によって切られている。西側に接する 36 次調査（00804 調査）Ⅴ区 SR-506 につなが

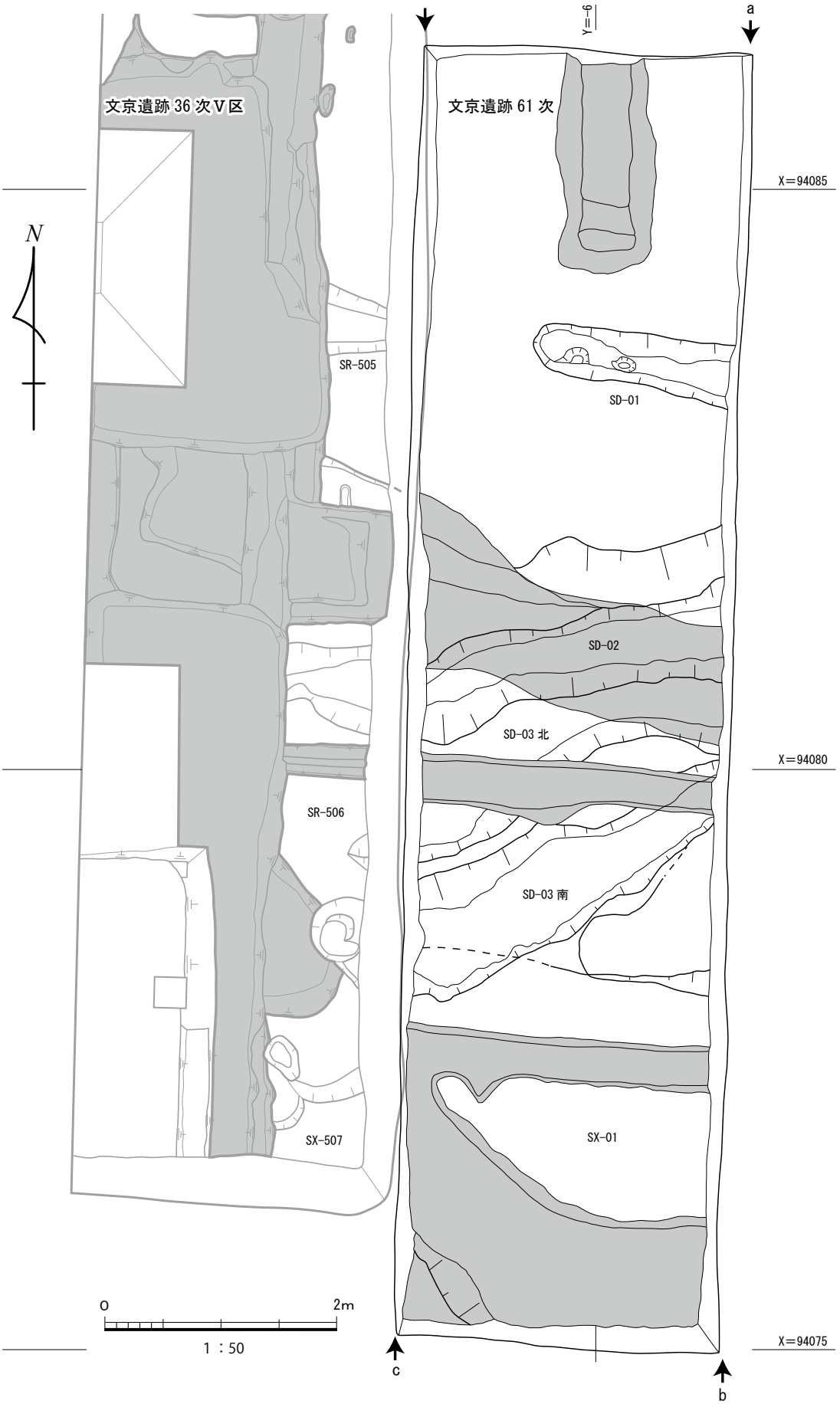


図 26　文京遺跡 61 次（01408 調査）及び 36 次（00804 調査）平面図（縮尺 1/50）

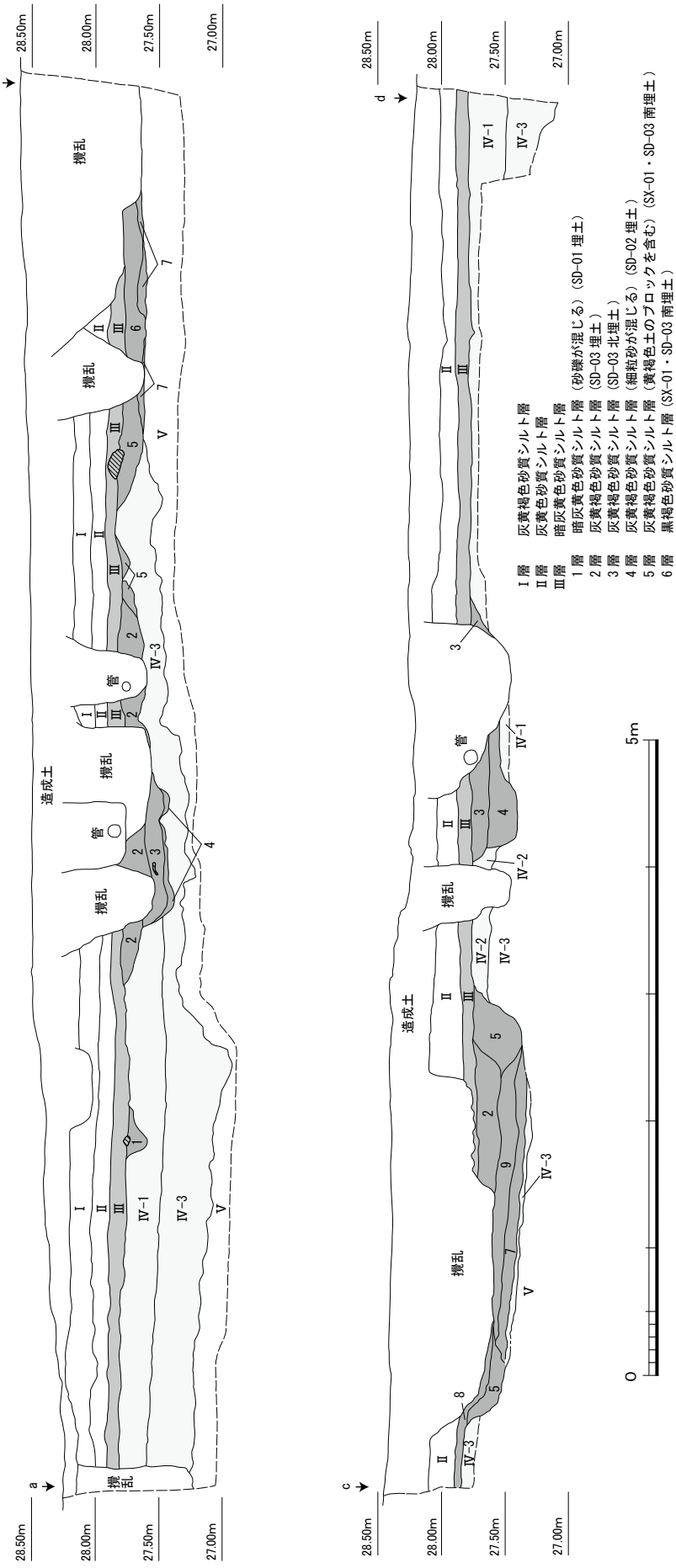


図27　文京遺跡61次(01408調査)土層断面図（縮尺1/50）

写真 179　文京遺跡 61 次調査　調査前全景（南から）

写真 180　文京遺跡 61 次調査　表土剥ぎ作業（南から）

写真 181　文京遺跡 61 次調査　遺構面検出状況（南から）

写真 182　文京遺跡 61 次調査　遺構面検出状況（北から）

写真 183　文京遺跡 61 次調査　攪乱完掘状況（南から）

写真 184　文京遺跡 61 次調査　攪乱完掘状況（西から）

写真 185　文京遺跡 61 次調査　遺構検出状況（南西から）

写真 186　文京遺跡 61 次調査　遺構検出状況（北西から）

写真 187　文京遺跡 61 次調査　SD-01 完掘、SD-02・03 検出状況（西から）

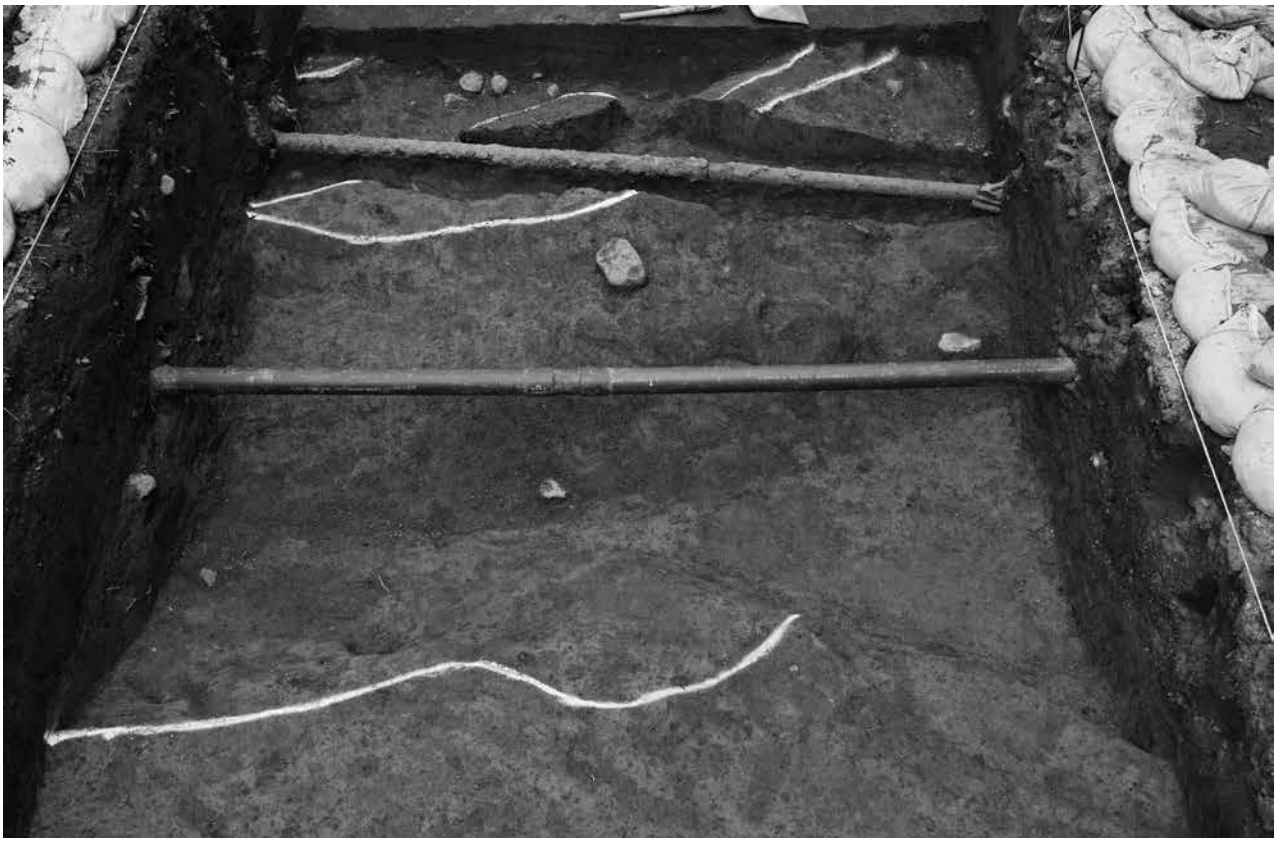


写真 188　文京遺跡 61 次調査　SD-03 北半部完掘、SD-02 検出状況（南から）

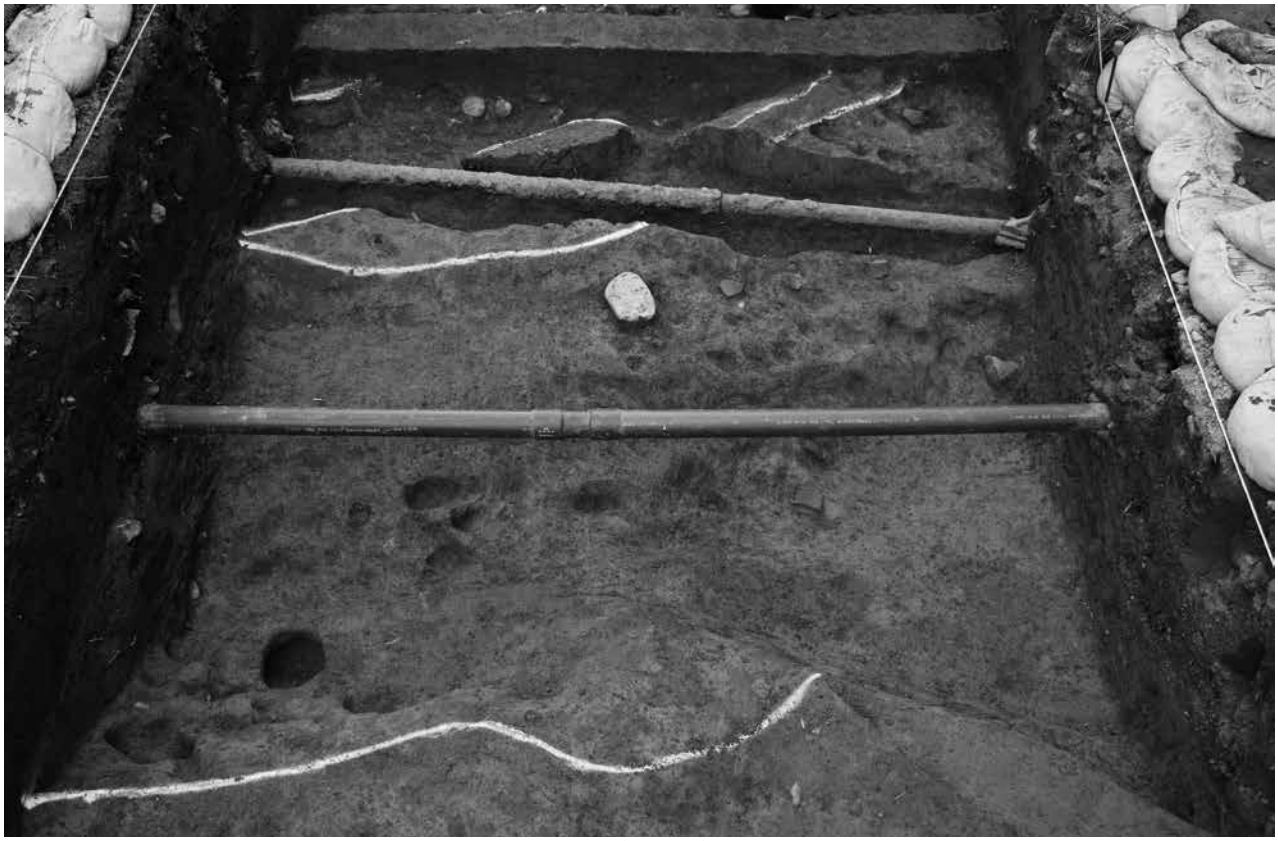


写真 189　文京遺跡 61 次調査　SD-02 遺物出土状況（南から）

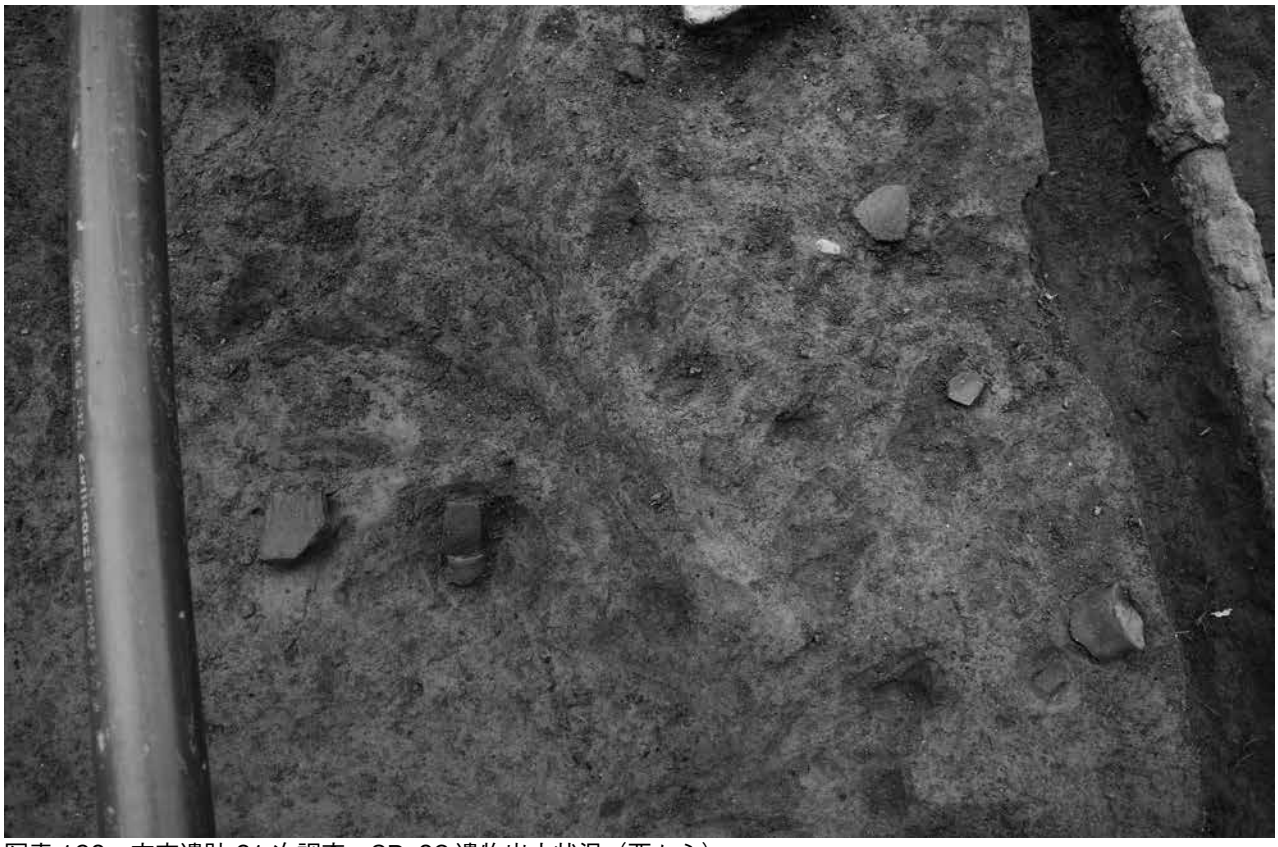


写真 190　文京遺跡 61 次調査　SD-02 遺物出土状況（西から）

写真 191　文京遺跡 61 次調査　SX-01 遺物検出状況（西から）

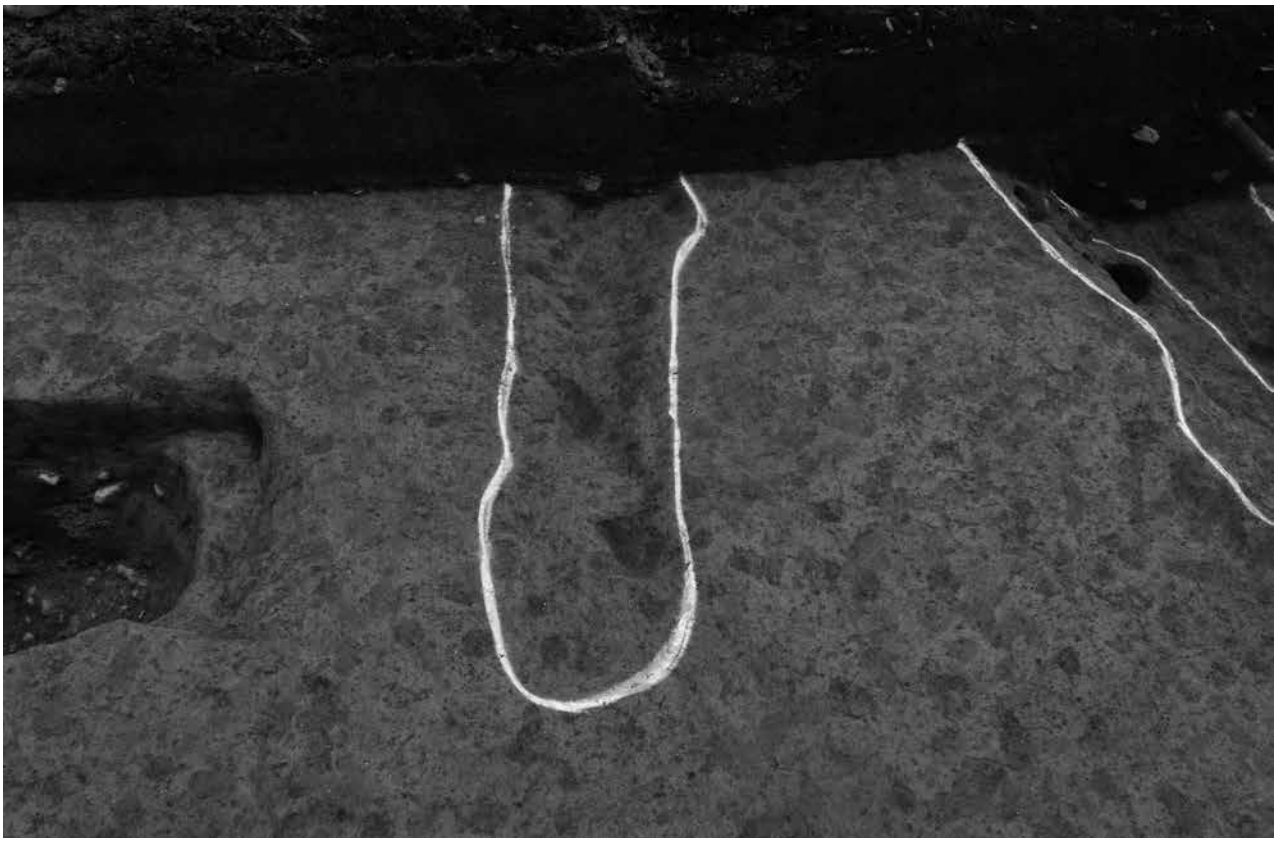


写真 192　文京遺跡 61 次調査　SD-01 完掘状況（西から）

写真 193　文京遺跡 61 次調査　SD-02・03 完掘状況（西から）

写真 194　文京遺跡 61 次調査　SD-02・03・SX-01 完掘状況（東から）

写真 195　文京遺跡 61 次調査　調査区東側断面 1

写真 196　文京遺跡 61 次調査　調査区東側断面 2

写真 197　文京遺跡 61 次調査　調査区西側断面 1

写真 198　文京遺跡 61 次調査　調査区西側断面 2

写真 199　文京遺跡 61 次調査　調査区西側断面 3

写真 200　文京遺跡 61 次調査　調査区西側断面 4

写真 201　文京遺跡 61 次調査　調査区西側断面 5

写真 202　文京遺跡 61 次調査　深掘りトレンチ（北から）

写真 203　文京遺跡 61 次調査　作業風景

写真 204　文京遺跡 61 次調査　作業風景

るものと考える（図 26）。調査区東壁と西壁（図 27 断面 a-b・断面 c-d）の 4 層とした細砂のラミナが混じる灰黄褐色砂質シルト層が埋土である。溝底面は東端で標高 27.453m、西端で標高 27.438m を測り、西に向かって僅かであるが低くなる。溝は、自然埋没する過程で、一時的な流水があったと考えられる

出土遺物には弥生土器がある（図 28-1 ～ 7、写真 205）。図 28-1 は弥生時代前期の大型壺の口縁部破片である。肥厚する口縁部直下の外面に段がめぐり、端面は面取りされる。内外面の調整は摩滅し不明である。2 ～ 7 は弥生時代中期後葉の弥生土器である。2 は広口壺の口縁部破片である。緩やかに外反する口縁部の端部は上下に少し拡張され、端面に 4 条の凹線文が施されている。内外面ともに摩滅し、器面調整は不明である。3 は甕の口縁部破片である。「く」字形口縁の端部は上方に摘まみ上げられたように拡張し、その端面には強い横ナデによって生じた凹線が巡る。器壁は厚さ 4㎜と薄い。4 ～ 6 は壺の底部破片で、いずれも平底である。4 の内面には棒状工具の圧痕が多数残る。4・5 は摩滅し、器面調整は不明である。6 は外面に縦方向のヘラミガキを施す。7 は甕の底部で平底である。外面には縦方向のヘラミガキを施し、内面には明瞭な指頭によるナデ痕跡が残る。円盤充填技法で底部を成形している。

出土遺物はすべて破片で、埋没中に流れ込んだものと考えられ、溝肩部から底面に向かって倒れこんだ状態で出土している。

本遺構は、溝底面で 2 ～ 7 が出土していることから弥生時代中期後葉に埋没した遺構である。

SD-03: 調査区のほぼ中央やや南よりで出土した遺構である。幅 265 ～ 405㎝を測り、調査区を横断し、東西に延びる。調査区東壁・西壁（図 27 断面 a-b・断面 c-d）の 2 層の灰黄褐色砂質シルト層が SD-03 上層埋土である。2 層下面には起伏があり、北側の凹部を SD-03 北、南側の凹部を SD-03 南と呼称する。

SD-03 北は幅 173 ～ 193㎝を測り、やや蛇行しながら調査区を横断する。溝底面で SD-02 を検出している。西側 36 次調査（00804 調査）SR-506 とした遺構の一部につながるものと考えられる（図 26）。調査区東壁と西壁（図 27 断面 a-b・断面 c-d）の 3 層の灰黄褐色砂質シルト層が SD-03 北の埋土である。溝底面の高さは東端で標高 27.506m、西端で標高 27.445m を測り、西に向かって僅かであるが低くなる。

SD-03 南は幅 50 ～ 100㎝を測り、やや蛇行しながら調査区を横断する。掘り形埋土の上半部は、南側で検出した SX-01 と区別が難しい。西側 36 次調査（00804 調査）Ⅴ区 SR-506 につながる（図 26）。調査区東壁と西壁（図 27 断面 a-b・断面 c-d）の 5 層としたⅣ層である黄褐色土の小塊を含む灰黄褐色砂質シルト層と 6 層の黒褐色砂質シルト層、7 層の暗灰黄色砂礫層が SD-03 南の埋土上半部に当たる。5 層はⅣ層の小塊が混じることから、人為的に掘削した埋土である。8 層の褐灰色粗砂層と 9 層のこぶし大の礫を含む褐灰色砂礫層は SD-03 南の埋土下半部である。下半部は 8・9 層にはラミナが認められる。溝底面は東端で標高 27.542m、西端で標高 27.332m を測り、西に向かって 20㎝ほど低くなる。

出土遺物には弥生土器と土師器がある（図 28-8 ～ 13・写真 205）。8・9 は弥生時代中期後葉の広口壺の口縁部破片である。8 は口縁端部を上方に拡張させ、端面に 3 条の浅い凹線文をめぐらす。9 は外反する口縁部の端部を上下に大きく拡張し、端面に 5 条の凹線文が施す。8・9 の口縁端部内外面の調整には横ナデが施されている。10 は弥生時代後期前半の広口壺である。緩やかに外反する口縁部の端部は面を持つ。体部の器壁は厚さ 10㎜と厚く、頸部から口縁部にかけて薄くなる。体部内面には縦方向のヘラケズリが施されている。口縁部および体部外面は摩滅し器面調整は不明である。11 は、土師器の直口壺口縁部破片である。斜め上方に向かって直線的に立ち上がる口縁部は、先端が細くなり、端部は丸く収める。内外面ともナデ調整が施されている。古墳時代前期の土師器と考えられる。12・13 は甕の底部破片で、上げ底である。12 は裾部が「ハ」字形に開く脚台状の底部で外面は指オサエのあとにナデ調整を施す。13 は直線的に立ち上がる上げ底で、外面には不明瞭な指オサエを施す。14 は大型の高杯の脚裾部破片である。端部は外方に拡張され、4 条以上の凹線文が施されている。端部端面にも強い横ナデによる 1 条の凹線文がめぐる。

出土遺物は埋土下半部の 8・9 層から出土している。人為的な堆積層で埋まった埋土上半部で 11 の土師器が出土している。

本遺構は、古墳時代前期以降に埋没した遺構である。

SX-01: 調査区南端に位置する。調査区外に遺構が広がり、全体形状は不明である。西側の 36 次調査（00804 調査）Ⅴ区 SX-507 につながる（図 26）。調査

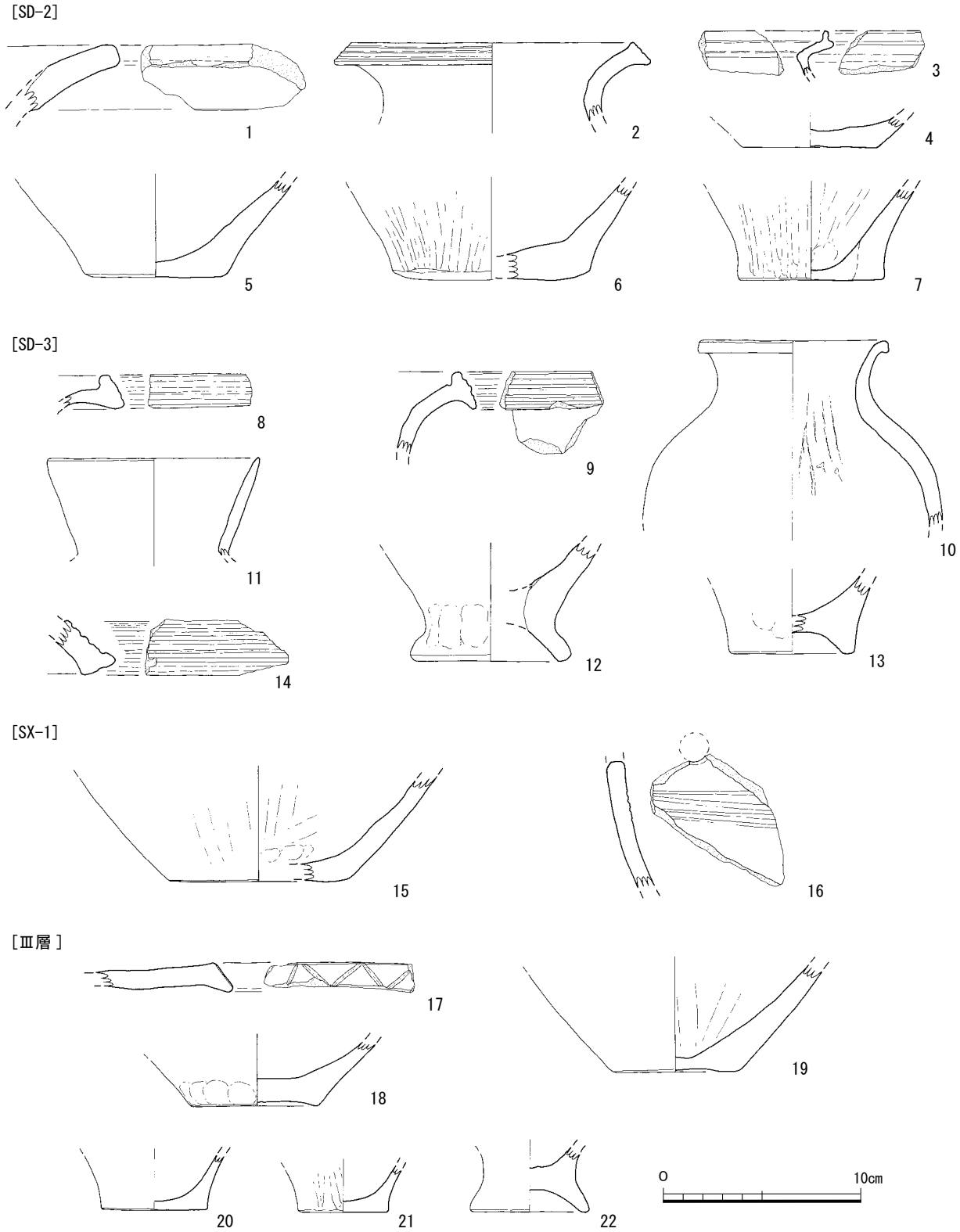


図 28　文京遺跡 61 次（01408 調査）出土遺物（縮尺 1/3）

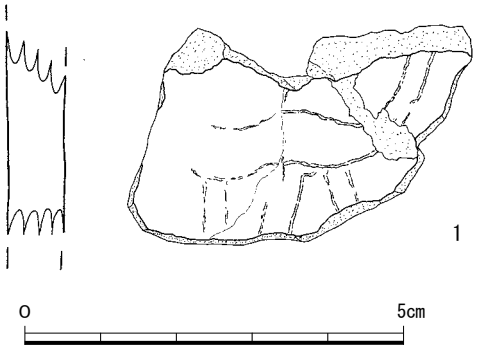


図 29　文京遺跡 61 次（01408 調査）
出土絵画土器（縮尺 1/1）

区東壁と西壁（図 27 断面 a-b・断面 c-d）の南端で検出した 5 ～ 7 層が SX-01 の埋土である。

出土遺物には弥生土器と石器がある（図 28-15・16・図 29-1・写真 205・206）。15 は壺の底部破片で、平底である。外面には縦方向のヘラミガキ、内面は板状工具を用いたナデを施す。16 は器台の体部破片である。上方に円形透孔が残り、下位にヘラ描きによる 4 条の直線文が施されている。

図 29-1 は器種不明の弥生土器体部破片で、線刻は非常に浅く、遺存状態は悪いが絵画土器と考えた。浅い凹部は植物根の付着痕跡とも見て取れるが、線刻 2 本が平行して描かれていることから絵画と判断した。上端は欠落していて全容はわからないが、2 本の線刻ラインが平行して S 字状に描かれており、動物の体を表現しているように見える。この体の部分からやはり 2 本の平行した線刻ラインで足のような表現が 3 箇所で確認できる。その下端は土器が欠落しているため、不明である。S 字状に表現された体の右側部分は、上方に向かって、やや細くなりながら、緩やかに長く立ち上がることから、この部分が頸部を表現していると考え、欠落した上位部分に頭部があったと推定する。こうした形状から絵画土器は、何らかの抽象化された動物（鳥類や龍などを含む）が描かれていると考える。

本遺構は、遺物が少なく、遺構形状も不明で、埋没した時期は判然としない。埋土が SD-03 の 5 ～ 7 層と対応していることから古墳時代前期以降に埋没した可能性がある。

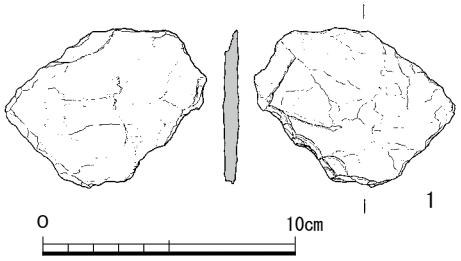


図 30　文京遺跡 61 次（01408 調査）
出土石器（縮尺 1/3）

Ⅲ層出土遺物：基本層序Ⅲ層からも弥生土器が出土している（図 28-17 ～ 22 写真 205）。17 は広口壺の口縁部である。口縁部が波打ち、かなり変形している。口縁端部を下方に向かって拡張させ、端面にはヘラ描き山形文が施されている。18・19 はやや上げ底気味の壺底部破片である。いずれも摩耗が激しいが、19 の内面に板状工具を使用したナデが施されている。20・21 は平底の甕底部破片である。いずれも摩耗が激しいが、21 の外面には縦方向のヘラミガキが施されている。22 は上げ底の甕底部破片で、裾部が「ハ」字形に開く。

その他、攪乱部分から塩基性片岩の剥片が出土している（図 30-1）。重量は 38.9g を測る。

5. まとめ

本調査区では、隣接する 36 次調査（00804 調査）で検出された自然流路群の延長上で溝が検出された。

本調査区で出土した遺構の中で、SD-01 は西側に接する 36 次調査Ⅴ区 SR-505 の一部であり、SD-02・03 はⅤ区 SR-506 に、SX-01 はⅤ区 SX-507 に、それぞれ対応している。特にⅤ区 SR-506 は、本調査区で SD-02 と SD-03 に分岐し、それぞれの埋没時期が異なることがわかった。

検出した SD-02 と SD-03 には流水痕跡があり、SD-03 では人為的な堆積物を含む埋土が確認できた。これらの溝は、自然流路からの利水を目的として構築されていた可能性を指摘したい。　（柴田）

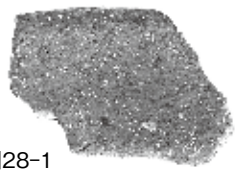


図28-1

図28-2

図28-3

図28-4

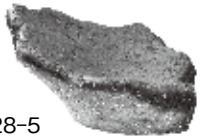


図28-5

図28-6

図28-7

図28-8

図28-9

図28-10

図28-11

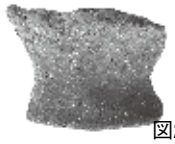


図28-12

図28-13

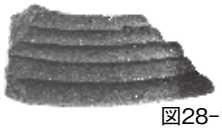


図28-14

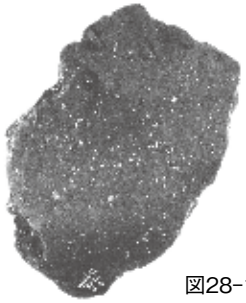


図28-15

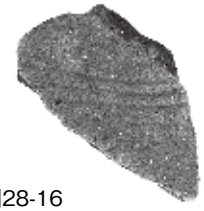


図28-16

図28-18

図28-20

図28-17

図28-22

図28-19

図28-21

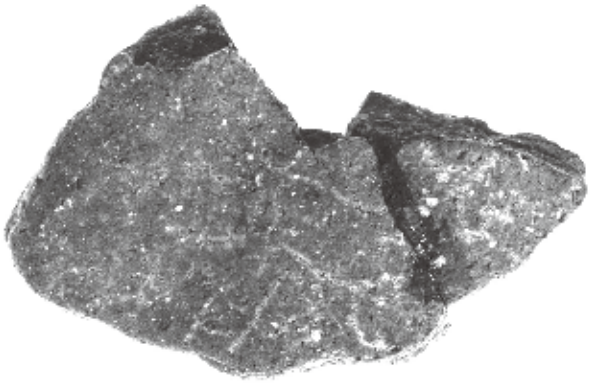


図29-1

写真 205　文京遺跡 61 次調査　出土遺物 1

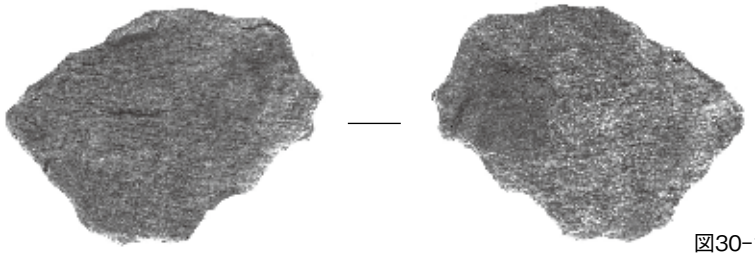


図30-1

写真 206　文京遺跡 61 次調査　出土遺物 2

表 7　01408 調査（文京遺跡 61 次）出土遺物観察表

挿図		遺構／層位	遺物の観察				遺物登録番号	遺物採り上げ番号	遺物実測図No.	収納コンテナ
図	No.		種別	器種	外面色調	内面色調				
28	1	SD-02	弥生土器	壺	橙色＋浅黄色	橙色	R-001	R-11	1	1
28	2	SD-02	弥生土器	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	R-002	R-11	1	1
28	3	SD-02	弥生土器	甕	灰黄色	にぶい黄褐色	R-003	R-8	3	1
28	4	SD-02	弥生土器	壺	にぶい黄褐色	黒褐色	R-004	R-36	2	1
28	5	SD-02	弥生土器	壺	オリーブ黒色	灰白色	R-005	R-17	2	1
28	6	SD-02	弥生土器	壺	黒褐色＋にぶい黄橙色	黄灰色	R-006	R-13	3	1
28	7	SD-02	弥生土器	甕	橙色	にぶい赤褐色	R-007	R-16	2	1
28	8	SD-03	弥生土器	壺	にぶい橙色	にぶい黄褐色	R-008	R-9	3	1
28	9	SD-03	弥生土器	壺	橙色	橙色	R-009	R-19	3	1
28	10	SD-03	弥生土器	壺	橙色	橙色	R-010	R-28	2	1
28	11	SD-03	土師器	壺	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	R-011	R-32	3	1
28	12	SD-03	弥生土器	甕	にぶい黄橙色＋橙色	にぶい黄橙色	R-012	R-21	2	1
28	13	SD-03	弥生土器	甕	にぶい黄橙色＋にぶい橙色	灰黄褐色	R-013	R-24	2	1
28	14	SD-03	弥生土器	高坏	橙色＋黒色	にぶい橙色	R-014	R-21	3	1
28	15	SX-01	弥生土器	壺	にぶい黄褐色	黒褐色	R-015	R-6	4	1
28	16	SX-01	弥生土器	器台	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	R-016	R-7	4	1
28	17	Ⅲ層	弥生土器	壺	にぶい橙色＋にぶい黄褐色	にぶい橙色	R-017	R-1	1	1
28	18	Ⅲ層	弥生土器	壺	橙色	褐色	R-018	R-1	1	1
28	19	Ⅲ層	弥生土器	壺	にぶい黄橙色	黄灰色	R-019	R-4	1	1
28	20	Ⅲ層	弥生土器	甕	にぶい黄橙色	黄灰色＋淡黄色	R-020	R-3	1	1
28	21	Ⅲ層	弥生土器	甕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	R-021	R-3	1	1
28	22	Ⅲ層	弥生土器	甕	明赤褐色	にぶい褐色	R-022	R-1	1	1
29	1	SX-01	弥生土器	絵画土器	褐灰色	浅黄橙色	R-023	R-7	3	1
30	1	攪乱	石器	剥片（塩基性片岩）			R-024	R-2	2	1

01409 （樽味団地）附属高校実習室改修工事に伴う樽味遺跡 15 次発掘調査

調査地点　松山市樽味 3 丁目 305 番の一部
　　樽味団地内
調査面積　6.5㎡
調査期間　2015 年 2 月 6 日
調査種別　本格調査
調査担当　三吉秀充
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　農学部長発事務連絡
　　（平成 26〈2014〉年 12 月 15 日付）

1. 調査に至る経緯

2014 年 12 月、施設基盤部から改修工事を実施している附属高校南側の防球ネットを新たに設置する工事を行いたいとの依頼があった。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で、既存の余掘り範囲に防球ネットの基礎を収められないか協議を重ねたが、実現が困難なため、埋蔵文化財調査室で意見書を作成して、12 月 19 日付で土木工事等届出書を提出した。これに対する 12 月 25 日付の愛媛県教育委員会による指示では、防球ネット建柱地点全 4 地点の内、西側 2 地点が発掘調査の対象範囲となった。しかし、東側 2 地点も、01407 調査（樽味遺跡 14 次調査）の一部でもあり、周辺の調査成果などから、埋蔵文化財へ影響を与える可能性が高いと判断し、4 地点とも発掘調査実施することとした。

2. 調査の記録

調査地点は、東側から西に向かって 1 トレンチ、2 トレンチ、3 トレンチ、4 トレンチとした（図 24、写真 207）。遺物は出土していない。

1 トレンチ（写真 208）

現地表下 105㎝、標高 42.858 ｍまで Ⅰ 層が続き、直下でⅣ層が出土した。現地表下 205㎝、標高 41.858 ｍまで精査したが、Ⅳ層が続く。Ⅳ層中から遺物は出土していない。

2 トレンチ（写真 209・210）

現地表下 145㎝、標高 42.123 ｍまで Ⅰ 層が続き、直下でⅣ層が出土した。現地表下 205㎝、標高 42.123 ｍまで精査したが、Ⅳ層が続く。Ⅳ層中から遺物は出土していない。

3 トレンチ（写真 211・212）

現地表下 175㎝、標高 42.42 ｍまで Ⅰ 層が続き、直下でⅣ層が出土した。現地表下㎝ 205㎝、標高 42.12 ｍまで精査したが、Ⅳ層が続く。Ⅳ層中から遺物は出土していない。

4 トレンチ（写真 213・214）

現地表下 154㎝、標高 42.585 ｍまで Ⅰ 層が続き、直下でⅣ層が出土した。現地表下 205㎝、標高 42.085 ｍまで精査したが、Ⅳ層が続く。Ⅳ層中から遺物は出土していない。

3. まとめ

今回のすべての調査トレンチにおいて Ⅰ 層直下でⅣ層があらわれた。Ⅳ層上面で遺構の検出を行ったが、弥生時代～中世の遺物包含層であるⅢ層やⅣ層上面における遺構の掘り込みは確認できなかった。しかし、調査地点の東側で実施した 99716 調査 8 トレンチではⅣ層上面で土壙が出土しており、周辺に遺跡が広がっていることは確実である。今後も周辺における土木工事を行う際には、調査が必要である。

（三吉）

写真 207　01409 調査　調査区全景（南東から）

写真 208　01409 調査　1 トレンチ土層（西から）

写真 209　01409 調査　2 トレンチ土層断面（西から）

写真 210　01409 調査　2 トレンチ土層断面（西から）

写真 211　01409 調査　3 トレンチ土層断面（東から）

写真 212　01409 調査　3 トレンチ土層断面（東から）

写真 213　01409 調査　4 トレンチ土層断面（東から）

写真 214　01409 調査　4 トレンチ土層断面（東から）

写真 215　01410 調査　1 トレンチ周辺（東から）

写真 216　01410 調査　1 トレンチ土層断面（北西から）

01410 （樽味団地）農学部鋼管柱立替工事に伴う立会調査

調査地点　松山市樽味３丁目５番７号　樽味団地内
調査面積　3.8㎡
調査期間　2014 年 9 月 25 日
調査種別　試掘調査
調査担当　三吉秀充
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　農学部長発事務連絡
（平成 26〈2014〉年 9 月 9 日付）

1. 調査に至る経緯

2014 年 8 月、台風 12 号および台風 12 号からの湿った空気と南からの湿った空気が四国に流れ込み、四国内では雨量が 1,000㎜を越える地点もあった。松山市内でも台風による暴風雨によって、樽味団地内の木造電柱の根本が折れ、西に隣接する農業工学実験室に倒れかかった。幸い倒壊時の事故もなく、折れた木柱も安定した状況であった。とは言え緊急を要することから、農学部事務課より至急対応したいとの依頼があり、埋蔵文化財調査室も緊急に対応することとなった。

電柱立替工事予定地は、平成 25 年度に（樽味団地）総合研究棟（農学系）改修その他工事に伴って土木工事届出を提出しており、6 月 17 日付けの愛媛県教育委員会による指示では工事立会に該当する。ただし、土木工事届出書における図面の提出のみで工事は未着手であった。埋蔵文化財調査室では、愛媛県教育委員会による上記判断にしたがって工事に際し工事立会を行った。

2. 調査の記録

工事地点は農業工学実験室の東側に位置する（図 31・写真 215）。鋼管柱立替工事に必要な現地表下 140 ㎝、41.038 ｍまで調査を行った。現地表下から調査中止面まで瓦礫を伴った基本層序Ⅰ層内であることを確認し（写真 216）、写真および図面作成を行った後、調査を終了した。

3. まとめ

本工事では、埋蔵文化財への影響はなかったが、工事地点北側で実施した 99905 調査３～５トレンチでは、現地表下 50 ～ 70㎝で古代～中世と考えられる柱穴・小穴が出土している。今後も周辺で工事を行う際には、発掘調査・工事立会等を行う必要がある。　（三吉）

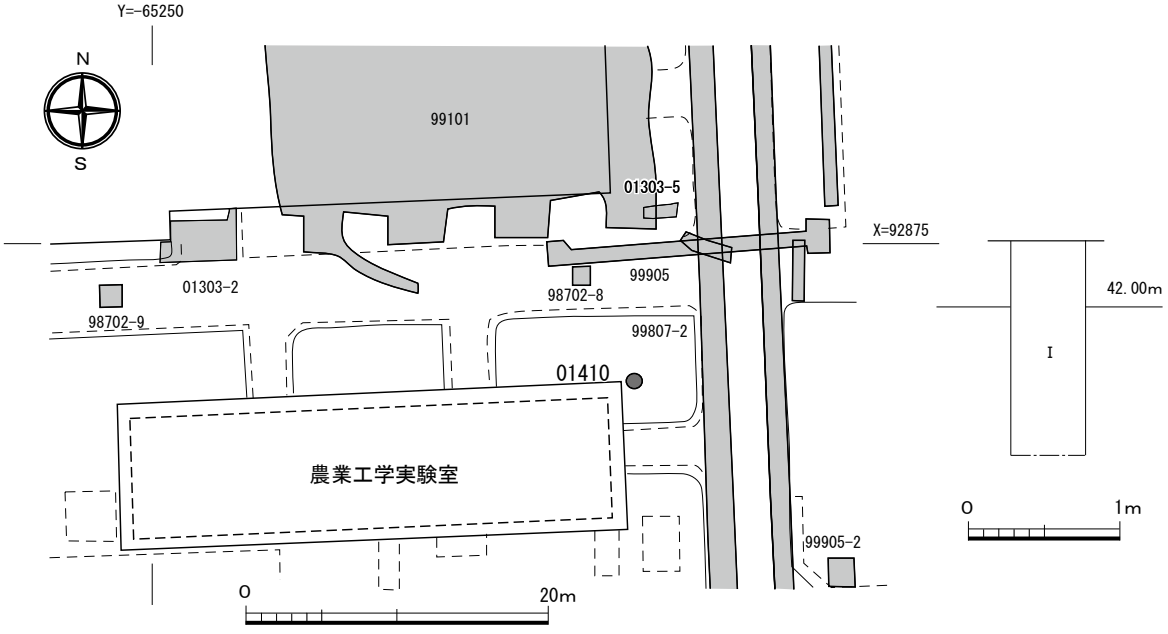


図 31　01410 調査平面図（縮尺 1/500）・土層柱状図（縮尺 1/50）

Ⅲ　教員の活動実績

埋蔵文化財調査室専任教員の 2012 ～ 2014 年度の活動実績は以下のとおりである。

室長　田崎博之　教授

1. 教育活動

学　部：考古学入門（共通教育）、考古学概論（学部専門教育）

大学院：埋蔵文化財論課題研究、埋蔵文化財特論、人間文化研究演習

2. 研究活動

1）科学研究費・寄付金

基盤研究（B）『縄文時代後期における稲作農耕空間の探求』（研究代表者）（～ 2012 年度）

基盤研究（B）『長江下流域における基盤整備型水田の成立期に関する学際的研究』（分担研究者）（2012・2013・2014 年度）

挑戦的萌芽研究『農耕空間の認識と認定要件の実証的研究』（研究代表者）（2014 年度～）

2）著書

なし

3）論文

2012 年度

『縄文時代～古墳時代における人間と環境との相互作用の解明』（平成 24 年度 法文学部人文系担当学部長裁量経費成果報告）pp.1-14（PDF）

2013 年度

「プラント・オパール中の炭素抽出とその 14C 年代測定の試み」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書ＸＸⅣ』（中村俊夫・宇田津徹朗・外山秀一・杉山真二・松田隆二と共同執筆）名古屋大学年代測定総合研究センター、pp.123-132

2014 年度

「韓国青銅器時代における木製農工具の特性―日本列島西南部地域の縄文時代晩期～弥生時代前期との比較を通じて―」『東アジア古文化論攷Ⅰ』中国書店、pp.300-317

2014 年度

「日本列島における縄文時代後晩期～弥生時代前期の集落と出土遺物」『青銅器時代韓日農耕文化の交流』韓国青銅器学会、pp.65-125

「弥生時代の食料と農耕の始まり」『謎多き 弥生のムラを解き明かす 記録集』都城市教育委員会文化財課、pp.1-7

4）学会発表ほか

2012 年度

「縄文時代後期～晩期における稲作農耕空間の探求－松山市文京遺跡 44 次調査の試み－」日本考古学協会第 79 回総会（外山秀一・宇田津徹朗・松田順一郎・三吉秀充との共同発表）、駒澤大学

「プラント･オパール中の炭素による生産遺構の年代決定法に関する研究（IV）－土壌からのプラント･オパール抽出法の確立－」日本文化財科学会第 29 回大会（宇田津徹朗・中村俊夫・外山秀一・杉山真二・松田隆二との共同発表）、京都大学

2013 年度

「試料採取段階におけるプラント・オパール分析の試料汚染対策の検討－切り替え畑などの初期農耕検証のために－」日本文化財科学会第 30 回大会（宇田津徹朗・外山秀一との共同発表）、弘前大学

「遺跡からみえる大村湾と人のかかわり」『おおむら湾シンポジウム 大村湾の環境と人間との関わり』、大村市 2014 年度

「松山市文京遺跡で検出された縄文時代後・晩期の推定畑地土壌のメソ・マイクロ堆積相」（松田順一郎との共同発表）、奈良教育大学

「東アジアにおける基盤整備型水田の成立期に関する実証的研究（第 1 報）」日本文化財科学会第 31 回大会（宇田津徹朗・中村慎一・金原正明・小柳美樹・藤原宏志・浦谷綾香・李小寧・劉斌・王寧遠・鄭雲飛との共同発表）、奈良教育大学

「土器研究のゆくえ」四国考古学研究会、高知大学

5）フィールドワーク等の活動

松山市所在文京遺跡 44 次調査（科学研究費補助金）（2012 年度）

中国・浙江省・良渚遺跡における埋没水田のボーリング探査（科学研究費補助金）（2012 ～ 2014 年度）

奈良県御所市秋津遺跡 7 次調査における水田耕土層調査（科学研究費補助金）（2014 年度）

大阪府高槻市安満遺跡における水田耕土調査（科学研究費補助金）（2014 年度）

青森県弘前市砂沢遺跡における水田耕土調査（科学研究費補助金）（2014 年度）

3. 社会的貢献

松山市文化財保護審議会　委員（2012 ～ 2014 年度）

香川県三豊市紫雲出山遺跡調査指導委員会　委員（2013・2014 年度）

専任教員　柴田昌児　准教授　博士（学術） 2014 年 2 月着任（2014 年度の研究業績のみ記す）

1. 教育活動

2014 年度　2014 年 2 月着任のため、開講せず。

2. 研究活動

1）科学研究費・寄付金

平成 26 年度学内研究活性化事業スタートアップ支援「瀬戸内海における古代木造船の復元的研究」

2）著書

2014 年度　なし

3）論文

2014 年度

「発掘された小松の歴史と東アジア」『小松史談』141 号 pp.2-16

「愛媛県における古式土師器の基礎的研究」『古式土師器の編年的研究―四国島の古墳時代前期の土器様相―』pp.47-98（松村さを里と共著）

「書評　杉山浩平著「弥生文化と海人」」『考古学研究』第 61 巻第 2 号（通巻 242 号）pp.85-87

「松山市平田七反地遺跡出土準構造船について ―瀬戸内海で初めて見つかった平安時代の木造船―」『愛比売　平成 25 年度年報』pp.23-29

4）学会発表ほか

2014 年度

「愛媛県における古式土師器の基礎的研究」四国考古学研究会、高知大学

「愛媛県南予地域のシシ垣」第 7 回シシ垣サミット in 西海、長崎県

「海と、山住みの弥生集落」2014 年度同志社大学公開講座、同志社大学

「日本瀬戸内海的古代陶器制塩」塩業考古与古代社会国際学術研究会、中華人民共和国 山東大学

5）フィールドワーク等の活動

山稜の弥生遺跡調査　久万高原町教育委員会（2014 年度）

3. 社会的貢献

上島町内遺跡発掘調査事業指導委員会（2014 年度）
古代学研究会地域委員
学術研究集会海の古墳研究会 副会長
瀬戸内海考古学研究会 幹事

専任教員　三吉秀充　講師

1. 教育活動

学　部：地域文化実験演習Ａ（学部専門教育）（2012 ～ 2014 年度）
考古学入門（共通教育）（2014 年度）

2. 研究活動

1）科学研究費・寄付金

基盤研究（B）『縄文時代後期における稲作農耕空間の探求』（分担研究者）（～ 2012 年度）
若手研究（B）『初期須恵器の生産・流通に関する実証的調査研究』（研究代表者）（2012・2013 年度）

2）著書

なし

3）論文

2012 年度
「伊予市市場南組窯跡で生産された須恵器を巡る諸問題」『平成 24 年度瀬戸内海考古学研究会公開大会予稿集』pp.35-50

2013 年度
「南予の初期須恵器」『愛媛大学法文学部論集人文学科編第 36 号』pp.77-98

2014 年度
「伊予市市場南組窯跡における初期須恵器生産」『平成 26 年度紀伊風土記の丘秋期　特別展シンポジウム須恵器誕生　予稿集』pp.29-42
「列島初期の須恵器と墓制」『平成 26 年度瀬戸内海考古学研究会第四回公開大会予稿集』pp.51-60

4）学会発表ほか

2012 年度
「伊予市市場南組窯跡で生産された須恵器を巡る諸問題」瀬戸内海考古学研究会 5 月例会
「縄文時代後期～晩期における稲作農耕空間の探求 - 松山市文京遺跡 44 次調査の試み -」日本考古学協会第 79 回総会（田崎博之・外山秀一・宇田津徹朗・松田順一郎との共同発表）、駒澤大学

2013 年度
「愛媛の初期須恵器と墓制との関係をめぐる基礎的検討」瀬戸内海考古学研究会 3 月例会

2014 年度
「伊予における須恵器生産の始まり」平成 26 年度愛媛県･松山市連携事業『古代　いよ発掘調査まつり』「いにしえのえひめ 2014」講演会
「伊予市市場南組窯跡における初期須恵器生産」平成 26 年度紀伊風土記の丘秋期特別展シンポジウム『須恵器誕生～新しい土器は古墳時代をどう変えたか～』
「列島初期の須恵器と墓制」平成 26 年度瀬戸内海考古学研究会第四回公開大会

5）フィールドワーク等の活動

伊予市市場南組窯跡の発掘調査

3. 社会的貢献

伊予市遺跡詳細分布調査委員会委員長（2012 ～ 2014 年度）

報　告　書　抄　録

ふりがな	えひめだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽう 2014 ねんど
書名	愛媛大学埋蔵文化財調査室年報 2014 年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛媛大学埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	ＸＸⅨ
編著者名	田崎博之、柴田昌児、三吉秀充
編集機関	愛媛大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒790-8577　松山市道後樋又 10 番 13 号
発行年月日	2016 年 3 月 1 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ぶんきょういせき 文京遺跡 58 次調査	まつやましぶんきょうちょう 松山市文京町 3 番	38201	33° 50′ 58″	132° 46′ 16″	2014.5.20 ～ 2015.3.10	313.9	キャンパス環境整備工事
もちだいせき 持田遺跡 10 次調査	まつやましもちだ 松山市持田 1 丁目 860 番	38201	33° 50′ 37″	132° 46′ 59″	2014.9.4 ～ 10.6	298.8	附属小学校給食室改修その他工事（附属小学校本館給食室増築部分）
ぶんきょういせき 文京遺跡 59 次調査	まつやましぶんきょうちょう 松山市文京町 3 番	38201	33° 50′ 59″	132° 46′ 20″	2014.8.28 ～ 2015.2.13	276.4	キャンパス環境整備工事 （歴史を学ぶ庭、図書館北側広場整備部分）
たるみいせき 樽味遺跡 14 次調査	まつやましたるみ 松山市樽味 3 丁目 305 番地	38201	33° 50′ 19″	132° 47′ 41″	2014.11.26	1.5	附属高校実習室改修工事
ぶんきょういせき 文京遺跡 61 次調査	まつやましぶんきょうちょう 松山市文京町 3 番	38201	33° 50′ 58″	132° 46′ 18″	2014.12.8 ～ 12.24	112.08	キャンパス環境整備工事 （ルーバーウォール、既設モニュメント移設など追加）
たるみいせき 樽味遺跡 15 次調査	まつやましたるみ 松山市樽味 3 丁目 305 番地	38201	33° 50′ 19″	132° 47′ 41″	2015.2.6	6.5	附属高校実習室改修工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
文京遺跡 58 次調査	集落				現状保存
持田遺跡 10 次調査	水田	弥生時代～古代	流路	弥生土器、黒色土器、緑釉陶器	
文京遺跡 59 次調査	集落				現状保存
樽味遺跡 14 次調査	集落				現状保存
文京遺跡 61 次調査	集落	弥生時代	溝 3 条	弥生土器、絵画土器	
樽味遺跡 15 次調査	集落				

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

―2014年度―

愛媛大学埋蔵文化財調査報告　XXIX

2016年3月1日

発行　愛媛大学先端研究･学術推進機構埋蔵文化財調査室
〒790-8577　松山市道後樋又10番13号
TEL･FAX　089-927-9127

印刷　佐 川 印 刷 株 式 会 社
〒791-8018　愛媛県松山市問屋町6番21号
TEL 089-925-7471(代)

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－2014年度－

正　　誤　　表

頁	行	誤	正
65	18･19	Ⅳ層中に後述するように古土壌層である	Ⅳ層中に古土壌層である
66	57	層から出土遺物	層の出土遺物
66	71	幅7～13の	幅7～13cmの